大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書

# 北　口　遺　跡

2017年 3月

高松市教育委員会

１・２区　第２面 完掘状況（西から）

ＳＤ２－１　完掘状況（北東から）

巻頭図版 2

3区　第1面 完掘状況（西から）

3区　第2面 完掘状況（西から）

ＳＤ２－１　出土土器

巻頭図版 4

ＳＤ２－１　出土土器

ＳＤ２－１　出土土器

# 例　言

1　本書は大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書であり、高松市香川町大野に所在する北口遺跡の調査報告を収録した。

2　発掘調査地及び調査期間、調査面積は次のとおりである。

　調査地　　高松市香川町大野

　調査期間　平成 26 年 10 月 29 日～平成 27 年２月 12 日

　調査面積　1,632 ㎡

3　発掘調査及び整理作業は、地方自治法第 180 条による補助報行により、高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員　小川賢及び同非常勤嘱託職員　中西克也、杉原賢治が担当した。

4　本報告書の執筆・編集は中西が担当した。

5　発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会が保管している。

# 凡　例

1　本報告書の挿図として、国土地理院発行５万分の１「高松」、高松市都市計画図２千５百分の１「高松市街地」を一部改変して使用した。

2　標高は東京湾平均海面高度を基準とし、座標は国土座標第Ⅳ系（世界測地系）、方位は座標北を表す。

3　本報告書で用いる遺構の略号は次のとおりである。

　ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＤ：溝　　ＳＫ：土坑　　ＳＩ：竪穴建物状遺構　　ＳＰ：柱穴

　ＳＸ：性格不明遺構

4　挿図の縮尺は、遺構の平・断面図が１/40、１/80、出土遺物の実測図は土器・土製品が１/４、石製品が１/２を基本とする。

5　発掘調査のうち、掘削業務をイクセイ建設興業㈱に、測量業務を株式会社四航コンサルタントに委託した。整理作業のうち、遺物の写真撮影業務を西大寺フォトに委託した。

6　土層及び土器観察の色調表現は、『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。

7　報告書は図化した遺物が出土した遺構を中心に記述しており、記述していない遺構は文末に記載した第１表　遺構表に規模等を表記する。

8　第2表　遺物観察表の法量のうちで、（　　）は復元値、[　　]は残存値である。

# 本 文 目 次


## 第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯…… 1
第２節　調査の経過…… 1

## 第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境…… 2
第２節　歴史的環境…… 2

## 第３章　発掘調査の成果

第１節　調査概要…… 4
第２節　遺構と遺物…… 9

## 第４章　まとめ

第１節　遺構の変遷と集落構造…… 55
第２節　前期弥生土器について…… 58
第３節　高松平野の弥生時代前期の遺跡…… 60
第４節　香川における環濠集落…… 63

# 挿図目次


第１図　北口遺跡位置図 …… 1
第２図　高松平野における北口遺跡の位置 …… 2
第３図　北口遺跡周辺の遺跡分布図 …… 3
第４図　調査区北壁土層図 …… 5
第５図　調査区東壁・西壁土層図 …… 6
第６図　第１面遺構平面図 …… 7～8
第７図　ＳＢ１－１平・断面図、遺物実測図 …… 9
第８図　ＳＢ１－２平・断面図 …… 10
第９図　ＳＢ１－３平・断面図、遺物実測図 …… 11
第10図　ＳＤ１－１・２断面図、遺物実測図 …… 12
第11図　ＳＤ１－３・４断面図、遺物実測図 …… 13
第12図　ＳＫ１－１平・断面図 …… 13
第13図　ＳＸ－１～３平・断面図、遺物実測図 … 14
第14図　第１面出土遺物実測図 …… 14
第15図　第２面遺構平面図 …… 15～16
第16図　ＳＩ２－１平・断面図 …… 17
第17図　ＳＩ２－２平・断面図 …… 18
第18図　ＳＩ２－３平・断面図 …… 18
第19図　ＳＩ２－４平・断面図 …… 19
第20図　ＳＩ２－５平・断面図 …… 20
第21図　ＳＩ２－６平・断面図 …… 20
第22図　ＳＩ２－７平・断面図 …… 21
第23図　ＳＩ２－８平・断面図 …… 22
第24図　ＳＩ２－９平・断面図 …… 22
第25図　ＳＩ２－10平・断面図 …… 23
第26図　ＳＩ２－11平・断面図 …… 24
第27図　ＳＢ２－１平・断面図 …… 25
第28図　ＳＢ２－２平・断面図 …… 25
第29図　ＳＡ２－１平・断面図 …… 27
第30図　ＳＡ２－２・３平・断面図 …… 28
第31図　ＳＡ２－４～６平・断面図 …… 29
第32図　ＳＫ２－１・２平・断面図 …… 29
第33図　ＳＫ２－７・８・10平・断面図 …… 30
第34図　ＳＫ２－14・15・17・18平・断面図 … 31
第35図　ＳＫ２－19平・断面図、遺物実測図 … 31
第36図　ＳＫ２－20～25平・断面図 …… 32
第37図　ＳＫ２－26・28・30平・断面図 …… 33
第38図　ＳＤ２－１平・断面図 …… 35
第39図　ＳＤ２－１遺物実測図（1） …… 36
第40図　ＳＤ２－１遺物実測図（2） …… 38
第41図　ＳＤ２－１遺物実測図（3） …… 40
第42図　ＳＤ２－１遺物実測図（4） …… 41
第43図　ＳＤ２－１遺物実測図（5） …… 42
第44図　ＳＤ２－１遺物実測図（6） …… 43
第45図　ＳＤ２－１遺物実測図（7） …… 44
第46図　ＳＤ２－１遺物実測図（8） …… 45
第47図　ＳＤ２－１遺物実測図（9） …… 47
第48図　ＳＤ２－１遺物実測図（10） …… 48
第49図　ＳＤ２－１遺物実測図（11） …… 50
第50図　ＳＤ２－１遺物実測図（12） …… 51
第51図　ＳＤ２－２～４平・断面図 …… 53
第52図　ＳＸ２－１平・断面図、遺物実測図 …… 53
第53図　ＳＸ２－４～６平・断面図 …… 53
第54図　第２面出土遺物実測図 …… 54
第55図　遺構変遷図 …… 56
第56図　ＳＤ２－１出土の前期弥生土器 …… 59
第57図　高松市における弥生前期遺跡分布図 …… 61
第58図　香川の環濠集落分布図 …… 64


# 挿表目次


第１表　高松市における弥生前期遺跡一覧 …… 62
第２表　香川の環濠集落一覧 …… 64
第３表　遺構表 …… 68
第４表　遺物観察表 …… 72


# 巻頭図版目次


図版１　１・２区第２面完掘状況（西から）
　　ＳＤ２－１完掘状況（北東から）
図版２　３区第１面完掘状況（西から）
　　３区第２面完掘状況（西から）
図版３　ＳＤ２－１出土土器
図版４　ＳＤ２－１出土土器
　　ＳＤ２－１出土土器

# 写真図版目次


図版１　１・２区第１面完掘（南東から）
１・２区第１面完掘（西から）
３区第１面完掘（東から）
１・２区第２面完掘（南東から）
１・２区第２面完掘（西から）
３区第２面完掘（東から）
３区第２面完掘（北西から）
ＳＩ２－１～３完掘（西から）
図版２　１・２区北壁土層
１・２区北壁土層
３区北壁土層
１区東壁土層
３区西壁土層
ＳＢ１－１完掘（西から）
ＳＢ１－２完掘（南から）
ＳＢ１－３完掘（南から）
図版３　ＳＢ１－３　Ｐ１土層
ＳＤ１－１土層①（東から）
ＳＤ１－１土層③（東から）
ＳＤ１－１完掘（北西から）
ＳＤ１－１完掘（南東から）
ＳＤ１－３土層①（東から）
ＳＤ１－２～４完掘（南から）
ＳＰ１－22～31完掘（北から）
図版４　ＳＩ２－１土層（東から）
ＳＩ２－２　Ｐ１土層
ＳＩ２－１～３完掘（南から）
ＳＩ２－５土層（西から）
ＳＩ２－５完掘（南から）
ＳＩ２－６完掘（南から）
ＳＩ２－８完掘（南から）
ＳＩ２－10完掘（北から）
図版５　ＳＢ２－１　Ｐ３土層
ＳＢ２－２　Ｐ８土層
ＳＢ２－２完掘（東から）
ＳＡ２－２　Ｐ１土層
ＳＢ２－１完掘（南から）
図版６　ＳＤ２－１土層（南から）
ＳＤ２－１土器出土
ＳＫ２－19完掘（西から）
ＳＫ２－22～24完掘（南から）
ＳＤ２－１・ＳＡ２－１完掘（南から）
図版７　出土遺物（１）
図版８　出土遺物（２）
図版９　出土遺物（３）
図版10　出土遺物（４）
図版11　出土遺物（５）
図版12　出土遺物（６）
図版13　出土遺物（７）
図版14　出土遺物（８）

# 第１章　調査の経緯と経過

## 第１節　調査の経緯

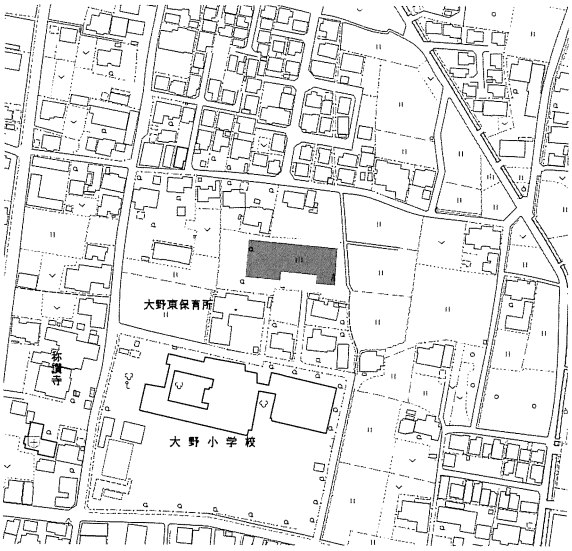
大野地区統合保育所建設事業に伴い、事業主体である高松市（こども園運営課）より保育所予定地における埋蔵文化財の照会があった。当該地には周知の埋蔵文化財は確認されていないが、事業面積が広いことから事前に予定地内について埋蔵文化財の有無を確認する必要があった。平成 26 年５月 19 日・20 日に試掘調査を実施し、全域から溝や柱穴の遺構とともに弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器等の遺物を検出した。結果を５月 23 日に香川県教育委員会に報告し、５月 23 日付けで県教委から周知の埋蔵文化財包蔵地「北口遺跡」として取扱うよう通知があった。

平成 26 年 10 月 20 日付けで文化財保護法第 94 条第１項に基づく発掘通知が高松市より提出され、本市教育委員会から県教育委員会へ進達したところ、10 月 22 日付けで「発掘調査」の行政指導があった。これを受けて高松市（こども園運営課）と協議を行い、保育所建設前に発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意したため、本市教育委員会は発掘調査を実施した。

## 第２節　調査の経過

発掘調査は、平成 26 年 10 月 29 日から平成 27 年２月 12 日の日程で実施した。調査面積は 1,632 ㎡である。調査に先立ち、調査対象地内に植生する梅や栗等の樹木を伐採・伐根し、さらに厚く埋め立てられた花崗土の撤去をする時間が必要であったため、実質的に調査に着手したのは 11 月 10 日である。

調査区の平面形は東西方向に長く、「コ」の字形を呈しており、東端部分を１区、中央部を２区、西端部分を３区と呼称する。廃土の場外搬出が不可能なため、調査区を１・２区と３区の二つに分割し、調査を実施した。以下、調査の経過を簡略に記する。



第１図　北口遺跡位置図

| | |
|---|---|
| 平成 26 年 11 月 10 日～11 月 17 日 | １・２区第１面重機掘削と人力による遺構検出 |
| 11 月 18 日～11 月 21 日 | １・２区第１面遺構調査 |
| 11 月 25 日～11 月 28 日 | １・２区第２面重機掘削と人力による遺構検出 |
| 11 月１日～12 月 19 日 | １・２区第２面遺構調査 |
| 12 月 22 日～12 月 24 日 | １・２区埋め戻し |
| 12 月 25 日～12 月 26 日 | ３区第１面重機掘削と人力による遺構検出 |
| 平成 27 年１月６日～１月８日 | ３区第１面重機掘削と人力による遺構検出 |
| １月９日～１月 15 日 | ３区第１面遺構調査 |
| １月 16 日～１月 22 日 | ３区第２面重機掘削と人力による遺構検出 |
| １月 23 日～２月４日 | ３区第２面遺構調査 |
| ２月５日～２月 12 日 | ３区埋め戻し |

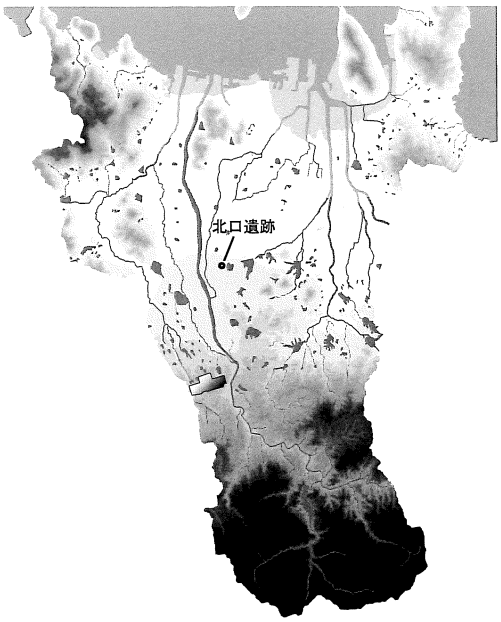
整理作業は、高松市埋蔵文化財センターにおいて調査終了時から平成 28 年３月末までの期間に随時実施し、委託業務とした遺物写真撮影についても平成 28 年３月末に完了した。

# 第２章　地理的・歴史的環境

## 第１節　地理的環境

北口遺跡が所在する高松市香川町は、香川県のほぼ中央部に位置し、南部は讃岐山脈から派生する丘陵山地が東西方向に延びており、隣接する香南町との境には讃岐山脈の大滝山、三木町津柳を源流とする香東川が丘陵山地を抜け高松平野へと北流している。

地質学の所見によれば、この丘陵山地は領家花崗岩類と呼ばれる花崗岩山地及び浸食により形成された段丘からなり、段丘は高位の段丘（丘陵）と下位の段丘（台地）に分類される。香川町北部に散在する低山は浸食作用から逃れ島状を呈するが、その基盤は同系の花崗岩とされている。平野部については、ほぼ現況の流路となった香東川の堆積により形成されており、両岸にその氾濫原を見ることができる。



第２図　高松平野における北口遺跡の位置

本遺跡は香東川の堆積により形成された平野部に位置し、香東川からの距離は約１kmを測り、香東川と東側にある段丘とのほぼ中間にあたる。現地表の標高は約55.50ｍであり、南側から北方向に向かって緩やかな傾斜で下がっている。

## 第２節　歴史的環境

本遺跡が所在する香川町ではこれまでに発掘調査が少ないため、周辺の遺跡については不明な部分が多い。特に、本遺跡周辺の平野部では龍満城跡と百相坂遺跡の２ヶ所において発掘調査が実施されたのみである。

旧石器・縄文時代の遺跡・遺物は確認されていない。

弥生時代の遺跡・遺物は非常に少なく、発掘調査で確認されたものは前述した百相坂遺跡の弥生時代後期前葉の溝のみである。その他に数ヶ所の石器の包蔵地が知られている。

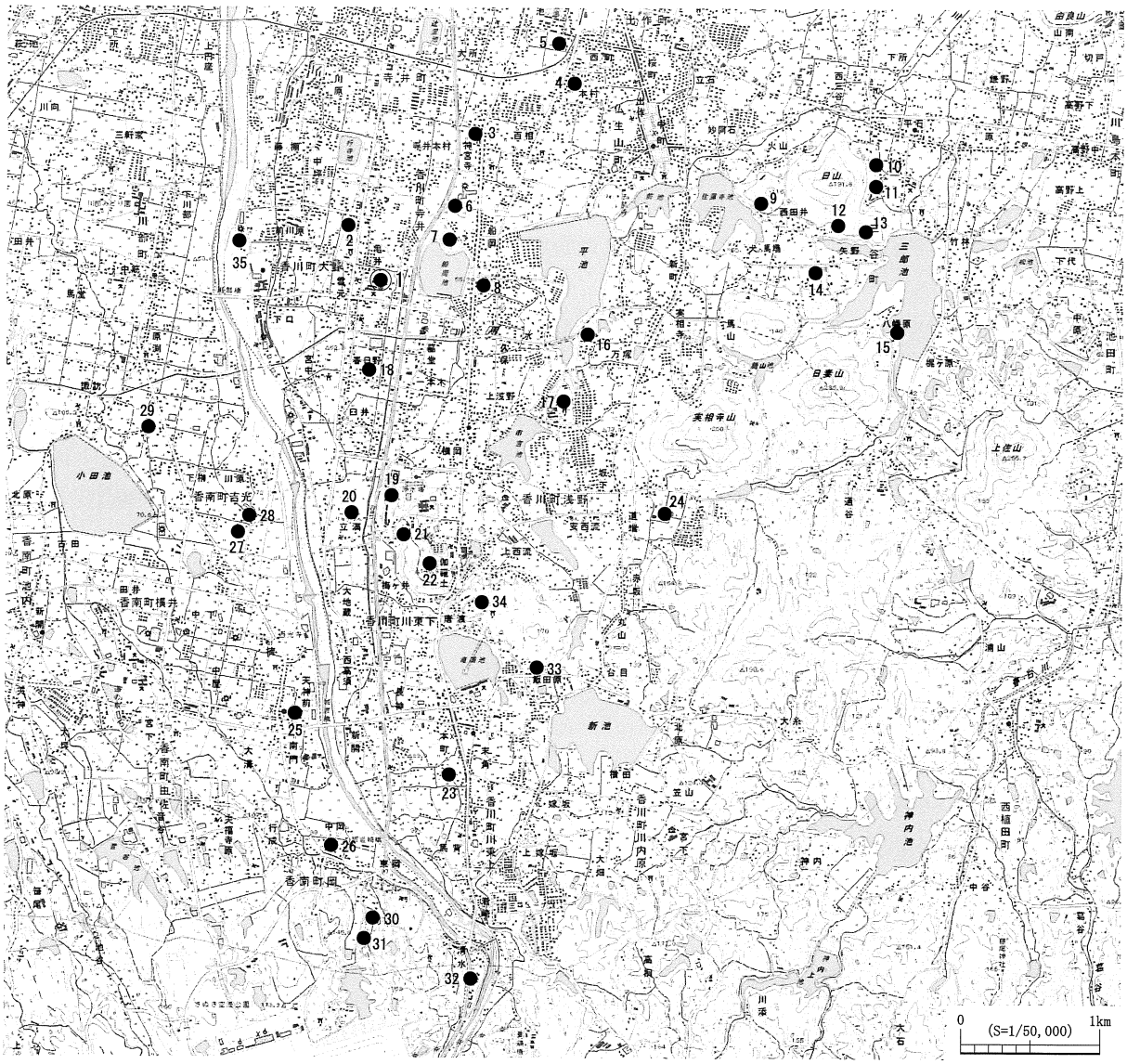
古墳時代では萩前・一本木遺跡において大規模な集落が確認され、さらに首長居館と考えられる遺構が検出されている。丘陵部に前期及び後期後半の古墳が認められる。前期に属する古墳として、船岡山山頂に築かれた船岡山古墳が挙げられる。平成20～24年の学術調査により墳形・築造時期・構築手順に新たな見地が明らかになった。墳形は以前に考えられていた双方中円墳でなく、前方後円墳１基（船岡山１号墳）と墳形未確認の古墳１基（船岡山２号墳）で構成されていた。船岡山１号墳の築造時期は墳丘の形態と出土埴輪の様相から３世紀代に遡る古式の前方後円墳であることが判明した。後期古墳では、横穴式石室の発掘調査･石室測量などの調査実績をもつものに、万座古墳、横岡山古墳、東赤坂古墳、舟岡古墳、八王子古墳、龍満山１号墳がある。香東川を望む龍満山西麓には３～５基の群集墳である龍満山古墳群が所在し、川東下地区では油山古墳群、清谷古墳がある。

古代では萩前・一本木遺跡で掘立柱建物や大溝等が検出されている。寺院跡は百相廃寺のみが知られ、現在の舟山神社が相当し、神社の南西側に礎石が残り、奈良～平安時代の古瓦が出土している。

中世に入ると、香西氏と同族で、源平の合戦において功があったとされる大野氏が知られるが、これ

より後の讃岐国守護細川氏に従った由佐氏、岡氏、森氏、佃氏、二川（龍満）氏、漆原氏、河西氏、大野氏、益子氏等が城館を築いた。河西三郎左ヱ門を城主とした百相城跡は堀・石垣の痕跡が残る。大野南城跡は大野新太夫有高が構えた居館跡であり、大野北城跡は佃氏の居館跡である。龍満城跡は二川四郎左衛門光吉が築いた城で、現況で幅 18 ～ 20 mにわたる堀の痕跡が認められる。由佐城跡は「お城」の地名や土塁跡の一部が残存し、益子弥次郎秀助が築いた。

近世では生駒藩に仕えた西嶋八兵衛の書を刻む碑石「大兎謨」が香東川より発見されており、大規模であったと想定される香東川の治水を今に伝えている。




**1 北口遺跡**　2 大野北城跡　3 百相廃寺　4 百相城跡　5 萩前・一本木遺跡　6 百相坂遺跡　7 船岡山古墳
8 舟岡古墳　9 雨山南古墳　10 平石上 1 号墳　11 平石上 2 号墳　12 小日山 1 号墳　13 小日山 2 号墳
14 矢野面古墳　15 三谷三郎池西岸窯跡　16 万座古墳　17 浅野八王子古墳　18 大野南城跡　19 剣山古墳
20 龍満城跡　21 龍満山古墳群 1 ～ 5 号墳　22 横岡山古墳　23 箭造（漆喰）城跡　24 東赤坂古墳
25 由佐城跡　26 岡館跡　27 吉光城跡　28 佐賀神社古墳　29 若宮神社古墳　30 城戸山 1 号墳
31 城戸山 2 号墳　32 岡清水遺跡　33 油山古墳群　34 清谷古墳　35 大兎謨

第３図　北口遺跡周辺の遺跡分布図

# 第３章　発掘調査の成果

## 第１節　調査概要

### １　調査区の設定

調査区は保育所の建設範囲であり、北辺が 62 ｍ、東辺 28 ｍ、西辺 30 ｍの長方形であるが、南辺中央は 21 ｍと狭くなる。調査面積は 1,632 ㎡であり、平面形は横向きの「コ」の字形を呈する。調査区は試掘調査の結果や調査工程の都合により東から１区・２区・３区と呼称する。１区の面積は 420 ㎡、２区は 462 ㎡、３区は 750 ㎡である。

### ２　調査の方法

第１章で前述した試掘調査は、１区はＡ層とＢ層の２面の遺構面を検出し、２・３区はＡ層のみ遺構を検出した。しかし、Ａ層の遺構が希薄であることとＡ層の遺構がＢ層に達すること、さらに地山に遺構が検出される可能性も考慮して、発掘調査では調査区を１・２区と３区に分割し、まず１・２区においてＢ層を第１面とし、地山を第２面として調査を実施し、その調査結果により３区の調査方針を決めることとした。結論としては、２区の第２面の遺構が３区まで展開すると判明したので、３区でも２面の調査を実施した。

１・２区の調査は、試掘調査により基本土層や遺構面までの掘削深度を把握していたことから重機による包含層並びに第１面上面までの掘削の後に人力による遺構調査を実施した。その後に手測りによる遺構平面図を作成し、写真撮影を行った。第１面の調査終了後に重機による第２面上面までの掘削、人力による遺構調査、空中写真測量、写真撮影を実施した。３区の調査は、１・２区の第２面と同様の方法であり、重機による遺構面上面までの掘削、人力による遺構調査、空中写真測量、写真撮影を第１面と第２面において実施した。

図面は平面図･断面図ともに調査時には概ね縮尺１／20 で作図し、報告に際して適宜縮尺を変更した。委託業務によって４級基準点及び水準点測量を行い、調査地周囲に４箇所の基準点を打設し、その点を基準として測量を行った。写真撮影は 35㎜ フィルムを用い、モノクロ・カラーリバーサルフィルムで記録し、補助的にデジタルカメラも用いた。

### ３　基本土層（第４・５図）

調査区全域の土層は最上位にある花崗土を除いて 13 層に細分される。これらの層は色調や内容物、堆積の状態や範囲などから五つのグループに大別できる。

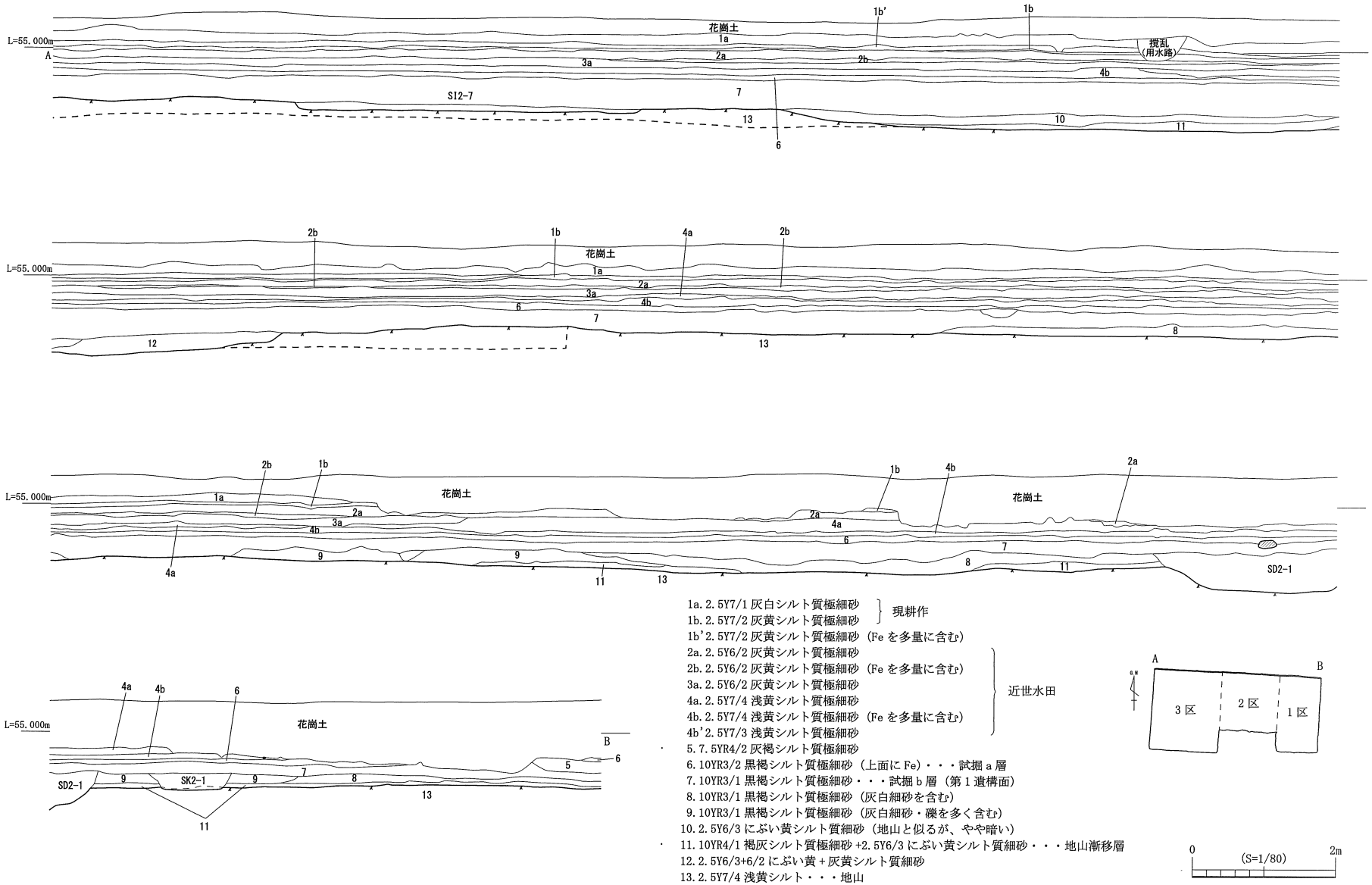
１層は花崗土で埋め立てられる直前の水田層であり、削平を多く受ける。土壌層と２枚の非土壌層に分けられる。２～４層は近世の条里型水田であり、ほぼ水平な堆積状態である。各層は灰黄ないし浅黄シルト質極細砂の土壌層とＦｅを多量に含む非土壌層に分けられる。

５層は灰褐シルト質極細砂であり、調査区北東隅だけに堆積する。６層は黒褐シルト質極細砂であり、試掘調査のＡ層である。調査区全域に厚さ 10㎝ 未満で薄く堆積する。７層は黒褐シルト質極細砂であり、試掘調査のＢ層である。調査区全域に堆積し、本調査で第１面とした。

８層は灰白細砂を含む黒褐シルト質極細砂、９層は灰白細砂と礫を含む黒褐シルト質極細砂であり、２区で地山が帯状に低くなっている微低地と１区に堆積する。調査区の東側のみに堆積していることから、調査区東側からの洪水による堆積層と考えられる。

10 層はにぶい黄シルト質細砂、11 層は褐灰シルト質極細砂＋にぶい黄シルト質細砂、12 層はにぶい黄＋灰黄シルト質細砂であり、地山とほぼ類似する。

13 層は浅黄シルトの地山であり、本調査では多数の遺構を検出し、第２面とした。




1a. 2.5Y7/1 灰白シルト質極細砂
1b. 2.5Y7/2 灰黄シルト質極細砂
} 現耕作

1b'2.5Y7/2 灰黄シルト質極細砂（Fe を多量に含む）

2a. 2.5Y6/2 灰黄シルト質極細砂
2b. 2.5Y6/2 灰黄シルト質極細砂（Fe を多量に含む）
3a. 2.5Y6/2 灰黄シルト質極細砂
4a. 2.5Y7/4 浅黄シルト質極細砂
4b. 2.5Y7/4 浅黄シルト質極細砂（Fe を多量に含む）
4b'2.5Y7/3 浅黄シルト質極細砂
} 近世水田

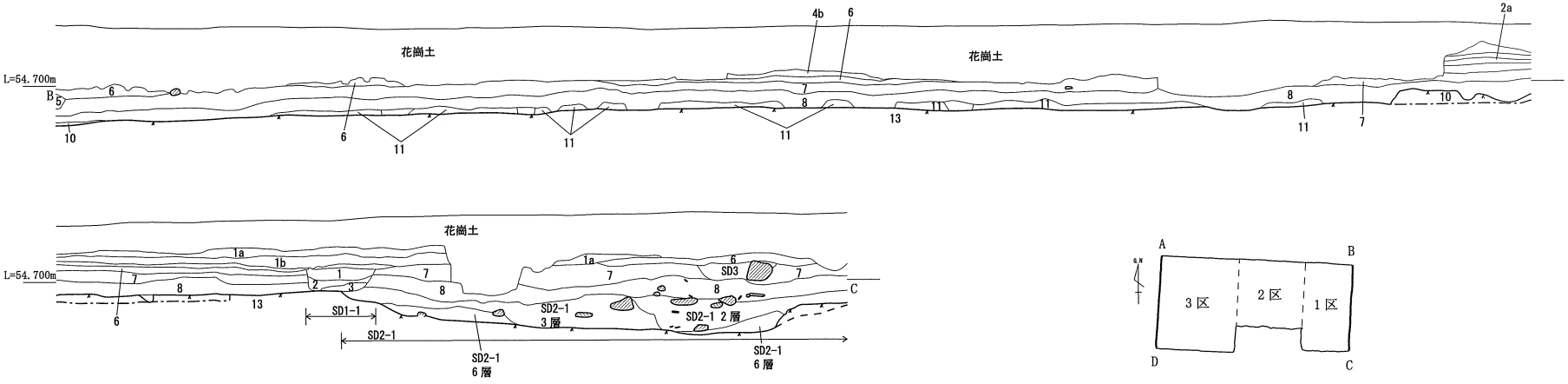
5. 7.5YR4/2 灰褐シルト質極細砂
6. 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂（上面に Fe）・・・試掘 a 層
7. 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂・・・試掘 b 層（第 1 遺構面）
8. 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂（灰白細砂を含む）
9. 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂（灰白細砂・礫を多く含む）
10. 2.5Y6/3 にぶい黄シルト質細砂（地山と似るが、やや暗い）
11. 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 +2.5Y6/3 にぶい黄シルト質細砂・・・地山漸移層
12. 2.5Y6/3+6/2 にぶい黄 + 灰黄シルト質細砂
13. 2.5Y7/4 浅黄シルト・・・地山



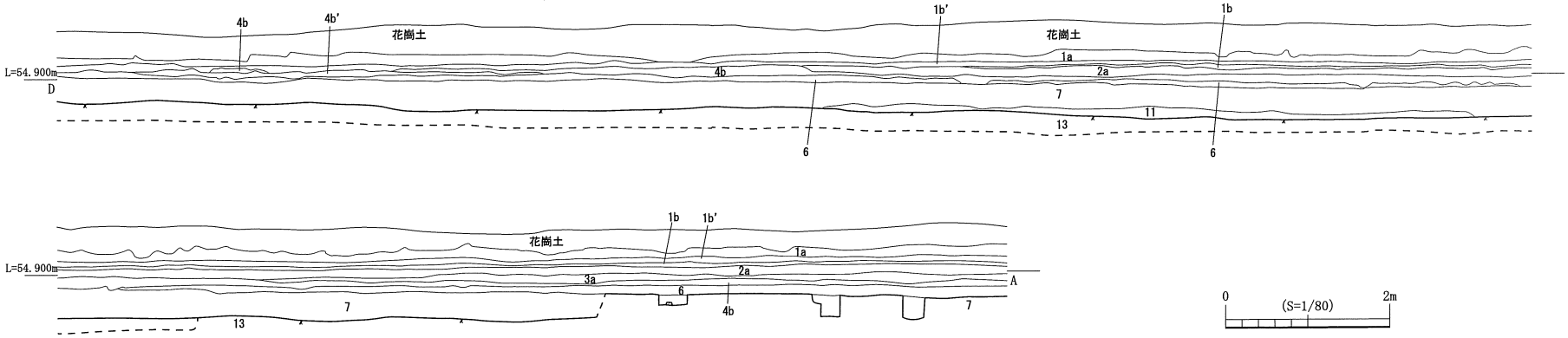

0 (S=1/80) 2m

第４図　調査区北壁土層図

1区東壁土層図




3区西壁土層図




第５図　調査区東壁・西壁土層図

第６図　第１面遺構平面図

# 第２節　遺構と遺物

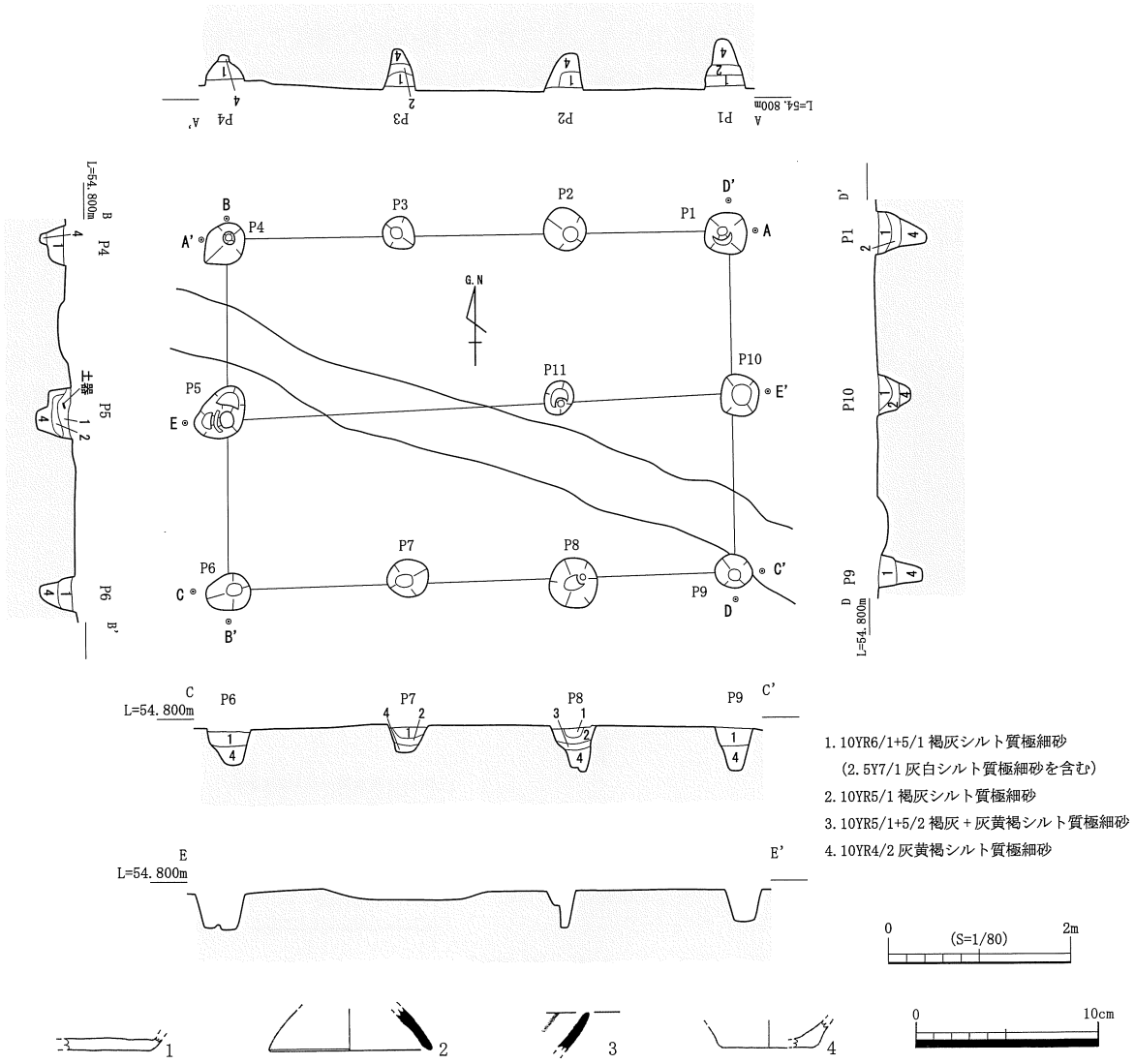
## １　第１面の遺構と遺物

掘立柱建物

ＳＢ１－１（第７図）

調査区ほぼ中央において検出した南北２間（4.25ｍ）、東西３間（6.00ｍ）、床面積25.50㎡を測る掘立柱建物であり、ＳＤ１－３を切っている。中央の柱穴が１基のみであるが総柱建物である。検出面の標高は54.70ｍである。建物の主軸方位はＮ－88°－Ｅである。ＳＢ１－２の約1.00ｍ東側に位置し、ＳＢ１－１の北列側柱はＳＢ１－２の北列側柱とほぼ一直線上に並んでいる。掘立柱建物は11個の柱穴から構成され、柱穴は円形ないし楕円形を呈し、直径35～65cm、深さ29～53cmを測る。Ｐ１、５、８、11は掘り方に僅かな段を有する。埋土は４層に分けられ、上層から第１層灰白シルト質極細砂を含む褐灰シルト質極細砂、第２層褐灰シルト質極細砂、第３層褐灰＋灰黄褐シルト質極細砂、第４層灰黄褐シルト質極細砂である。全ての柱穴に柱根は見られない。所属時期は遺構面及び出土遺物より古代と考えられる。

遺物は、１がＰ５、２がＰ１、３・４がＰ７から出土した。１は土師器杯で、底部の調整は回転ヘラ切り後にナデが施される。２は須恵器蓋であり、口径は8.8cmを測る。３は須恵器杯で、内面に火襷がある。４は弥生土器底部で、混入と考えられる。




第７図　ＳＢ１－１平・断面図、遺物実測図

ＳＢ１－２（第８図）

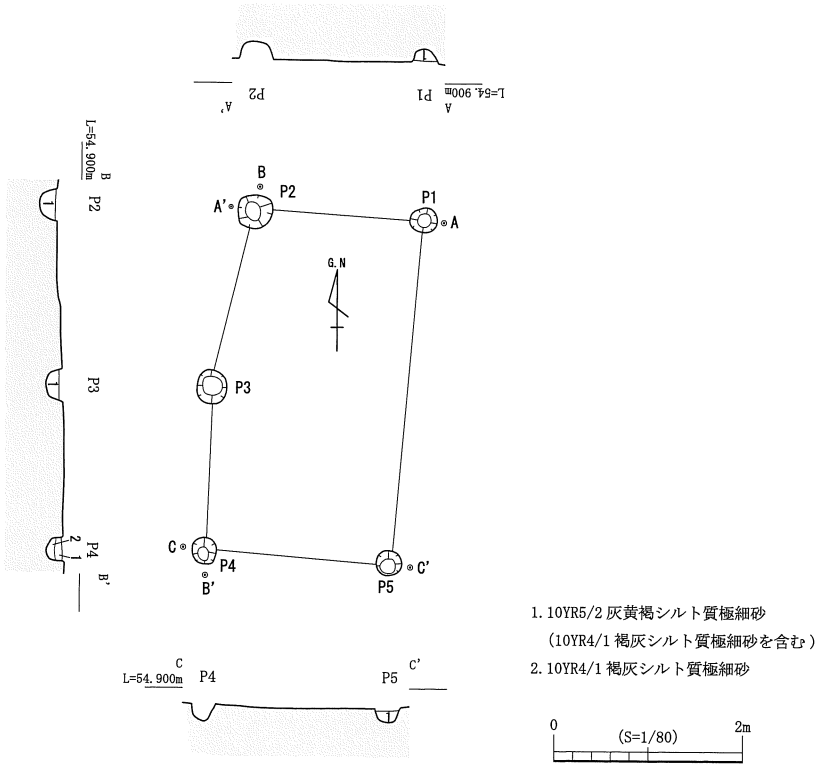
調査区ほぼ中央において検出した南北２間（3.95m）、東西１間（2.22m）、床面積8.77㎡を測る掘立柱建物である。検出面の標高は53.70ｍ前後である。建物の主軸方位はＮ－５°－Ｅである。ＳＢ１－１の西側に位置し、ＳＢ１－１の北列側柱はＳＢ１－２の北列側柱とほぼ一直線上に並んでいるが、方位は若干異なる。建物を構成する柱穴は５本であり、平面形は円形を呈し、直径27～38cm、深さ13～18cmを測る。西列側柱のＰ３は若干西側にずれている。柱穴の断面はＵ字形である。埋土は２層に分けられ、上層から褐灰シルト質極細砂を含む灰黄褐シルト質極細砂、褐灰シルト質極細砂であるが、Ｐ４を除く柱穴は単一層である。所属時期は出土遺物及び埋土とＳＢ１－１との位置関係から判断してＳＢ１－１と同一時期の可能性があると考えられる。

遺物は数点の土師器小片のみであり、図化できるものはない。

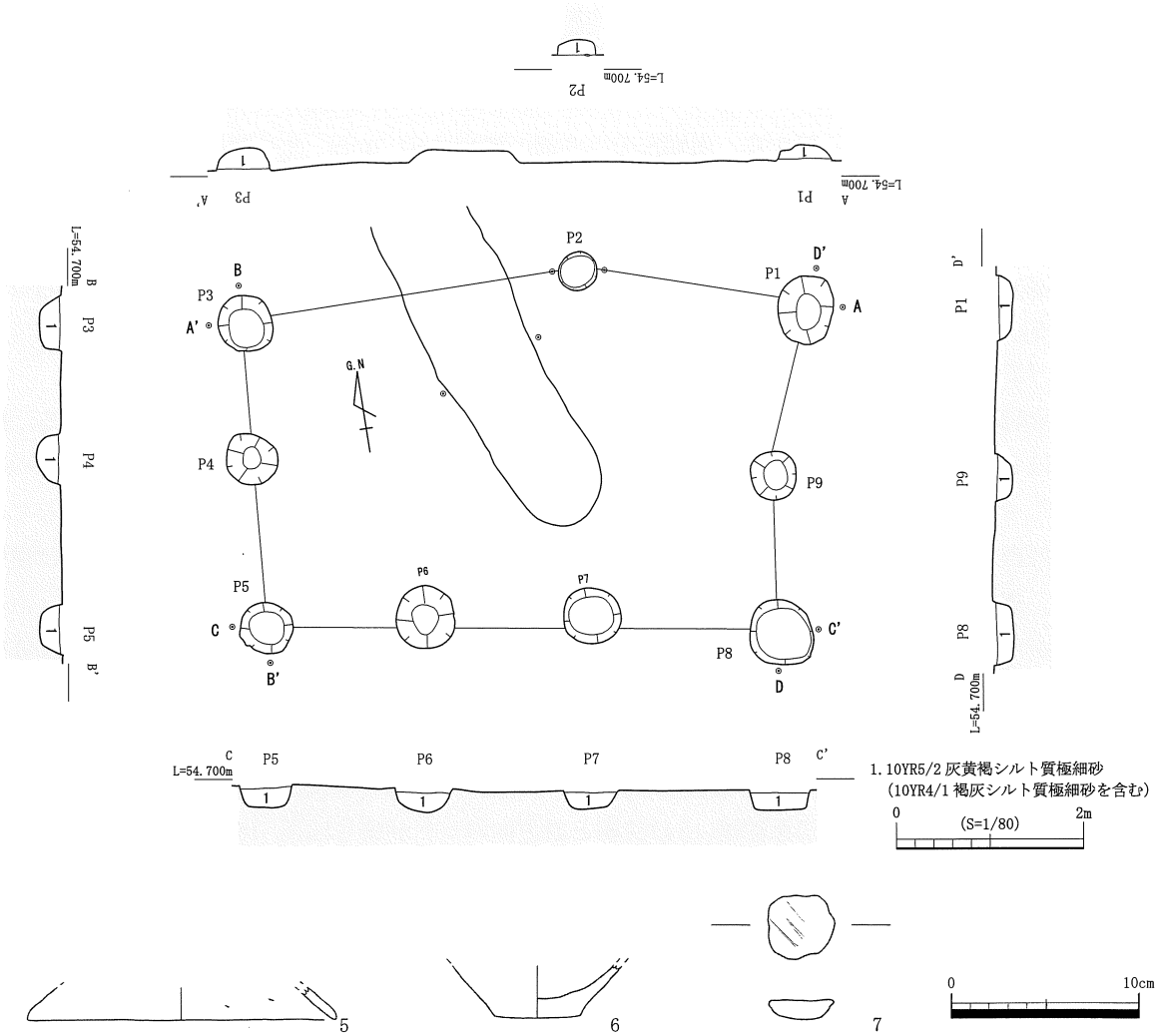
ＳＢ１－３（第９図）

調査区北西側において検出した南北２間（3.84ｍ）、東西３間（6.08ｍ）、床面積23.35㎡を測る掘立柱建物である。検出面の標高は54.60ｍ前後である。建物の主軸方位はＮ－98°－Ｅである。建物を構成する柱穴は９本であり、北列側柱の１本は検出できなかった。柱穴の平面形は楕円形のＰ１を除き円形を呈し、直径52～73cm、深さ16～25cmを測る。北列側柱のＰ２と東列側柱のＰ９は若干位置がずれている。柱穴の断面は逆台形を呈する。埋土はすべての柱穴が褐灰シルト質極細砂を含む灰黄褐シルト質極細砂の単一層である。所属時期は出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

遺物は、５・６がＰ２、７がＰ５から出土した。５は弥生土器高杯の脚部で、内面はヘラケズリが施される。６は同甕の底部で、底部外面はナデが施される。７は高杯の円盤充填部で、内面はヘラミガキが施される。




第８図　ＳＢ１－２平・断面図




第９図　ＳＢ１－３平・断面図、遺物実測図

溝

ＳＤ１－１（第６・10図）

１区と２区の北東側において検出した溝であり、ＳＤ１－２を切る。検出面の標高は54.50～54.80ｍである。溝の方向は中央付近で屈曲しており、逆「く」の字状に延びる。屈折点より南東側の方位はＮ－34°－Ｗ、北東側はＮ－63°－Ｗである。検出した溝の全長は38.30ｍ、幅は40～70cm、深さは７～29cmを測る。断面は逆台形を呈する。南端部分の底面の標高は54.60ｍ、北端部分は54.40ｍであり、その比高差が20cmあることから南東から北西へ流れていたことがうかがえる。埋土は３層に分層できる。溝の北部と中央部と南部の３箇所で断面観察を行い、土層図を作成した。第１層は灰白細～粗砂＋砂礫、第２層は灰黄褐シルト質細砂、第３層は灰黄細砂である。溝の屈曲部分より北側は第１層のみが堆積しており、南側は第１層が大部分を占め、底面直上に第２・３層が薄く堆積していた。このような堆積状態から判断すると、この溝は洪水の影響で短時間に埋没したと考えられる。所属時期は出土遺物から古代と考えられる。

８は土師器高杯の脚部で、内面にヘラケズリが施される。９は同甕の口縁部小片である。

ＳＤ１－２（第６・10図）

調査区のほぼ中央において検出した溝であり、ＳＤ１－１、ＳＫ１－１に切られ、ＳＤ１－３を切る。検出面の標高は54.50～54.80ｍである。溝は直線的に延びており、その方向はＮ－11°－Ｅである。検出した溝の全長は21.00ｍであり、幅は16～65cm、深さは５～13cmを測り、北端は幅が狭く、浅くなっている。断面は逆蒲鉾形を呈する。南端部分の底面の標高は54.76ｍ、北端部分は54.40ｍであり、その比高差が36cmあることから南から北へ流れていたことがうかがえる。埋土は灰白細砂＋灰黄褐シルト質細砂の単一層である。所属時期は出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

10は弥生土器壺で、口縁端部が上方に若干肥大する。11は同甕の体部小片で、外面に斜め方向のハケが施される。

ＳＤ１－３（第６・11図）

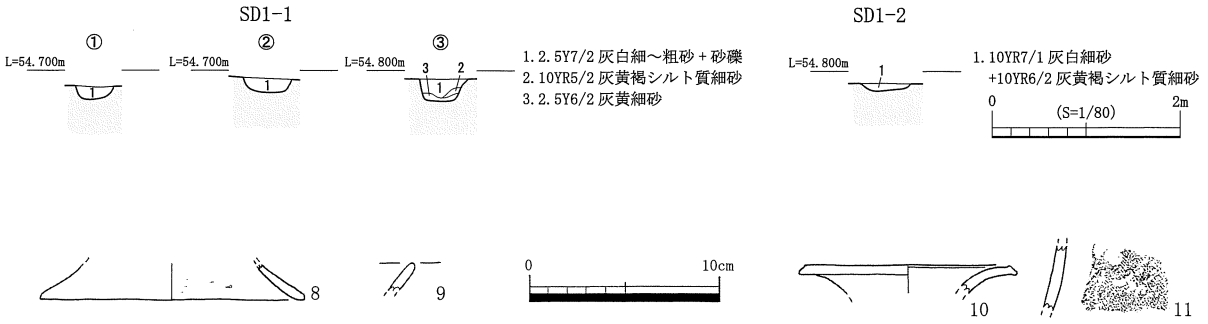
１・２区の南側と３区東端中央において検出した溝であり、ＳＢ１－１とＳＤ１－２に切られる。検出面の標高は54.70～54.80ｍである。溝は西端付近で若干蛇行するがほぼ直線に延びており、その方向はＮ－74°－Ｗである。検出した溝の全長は約43.70ｍであり、西端部は徐々に浅くなり消滅しているが、本来は西方に延びていたと考えられる。幅は40～90cm、深さは10～20cmを測る。断面は逆台形を呈する。東端部分の底面の標高は54.70ｍ、西端部分は54.60ｍであり、その比高差が10cmあることから東から西へ流れていたことがうかがえる。埋土は２層に分層できる。図化した出土遺物は弥生時代前期末～中期初のものであるが、埋土から弥生時代後期の土器片が出土しており、所属時期は弥生時代後期と考えられる。

12は弥生土器甕で、口縁部に刻み目突帯を有する。13～15は同甕の体部片であり、13はヘラ描き沈線と刺突文を巡らす。14はヘラ描き沈線、15は沈線と縦方向のハケが施される。16は同甕の底部である。

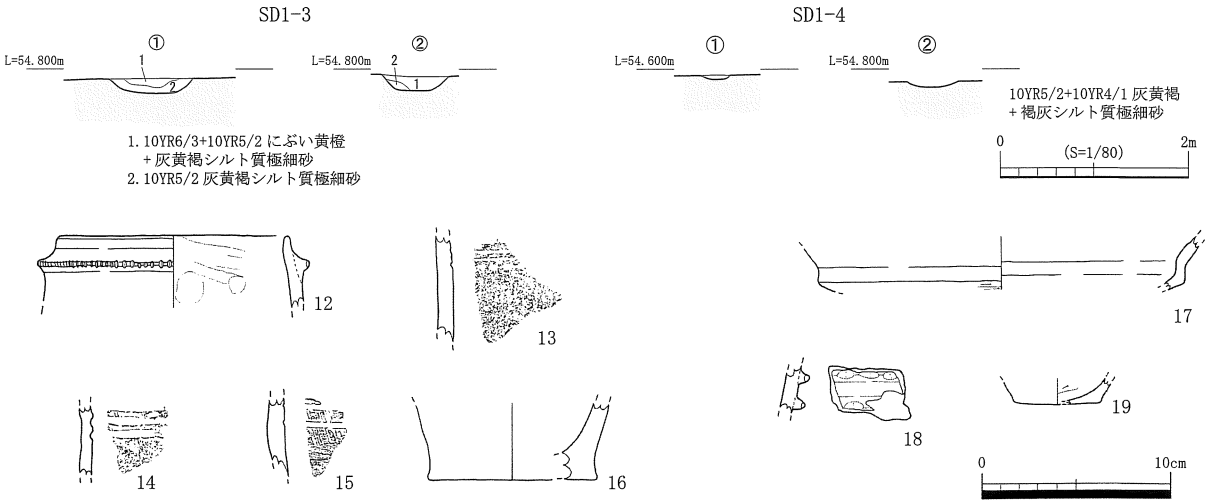
ＳＤ１－４（第６・11図）

２区のほぼ中央において検出した溝であり、ＳＤ１－２とほぼ平行に延びている。検出面の標高は54.50～54.70ｍである。溝は直線的に延びており、その方向はＮ－11°－Ｅである。南端と北端が消滅しているために検出した溝の全長は15.10ｍである。断面は逆蒲鉾形を呈する。南端部分の底面の標高は54.67ｍ、北端部分は54.47ｍであり、その比高差が20cmあることから南から北へ流れていたことがうかがえる。埋土は灰黄褐＋褐灰シルト質極細砂の単一層である。所属時期は出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

17は弥生土器高杯の杯部で、口縁部は体部から強く屈曲し、杯部外面はヘラケズリが施される。18は同壺で、２条の押圧突帯文が巡る。19は同甕の底部で、胎土には角閃石を含む。




第10図　ＳＢ１－１・２断面図、遺物実測図



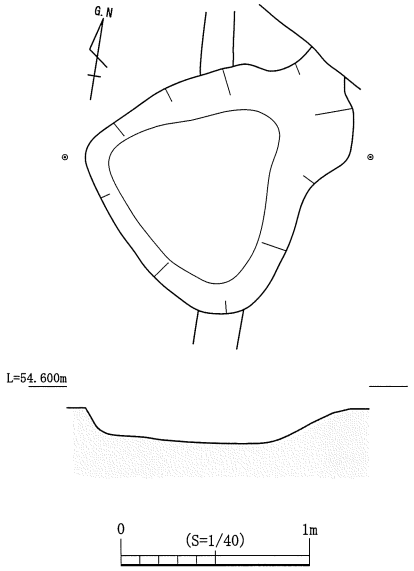

第11図　ＳＤ１－３・４断面図、遺物実測図

土坑

ＳＫ１－１（第12図）

調査区中央の北端において検出した土坑であり、ＳＤ１－１・２を切る。検出面の標高は54.48ｍ前後である。平面形は隅丸三角形を呈し、規模は1.40×1.20ｍ、深さは17cmを測る。断面は逆台形で、北東隅の掘り方は比較的緩やかな傾斜である。底面は平坦であるが、東側にやや下がっている。埋土は灰白細～中砂の単一層である。所属時期は出土遺物がないので明確でないが、埋土から判断して近世と考えられる。

本遺構北側の北壁土層で近世の水田層を確認していることと第１面に稲架を検出したことから、本遺構は肥溜めの可能性が高い。




第12図　ＳＫ１－１平・断面図

稲架（第６図）

３区全域において検出した小規模のピットであり、近世の水田に付随する稲架と考えられる。１区・２区においても検出していたが調査は行わなかった。直径は４～10cm、深さは５cm前後を測る。ピットの総数は891個であり、その配置は不規則であり、ある程度の粗密は認められるが全域にわたって検出できた。埋土は灰白シルト質極細砂の単一層である。

稲架は列状に並ぶものであるが、このような多数のピットの存在と不規則な配置から考えるといくつもの稲架が重なり合って検出されたものであり、近世の水田が長期間にわたって営まれていたことを示している。

ピット群（第６図）

調査区北西隅において検出したＳＰ１－22～30である。検出面の標高は54.60ｍ前後である。平面形は円形であり、直径は22～40cm、深さは４～38cmを測る。ＳＰ１－22の埋土は灰黄褐シルト質極細砂、ＳＰ－23はにぶい黄褐シルト質極細砂と黒褐シルト質極細砂であり、その他はにぶい黄褐シルト質極細砂である。遺物がないため所属時期は不明であるが、埋土の違いによりＳＰ－22は時期が異なると思われる。

性格不明遺構

ＳＸ１－１（第 13 図）

１区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.60m である。全長は 2.54 m、幅 55cm、深さ８cm を測る。方位はＮ－ 20°－Ｗである。所属時期は近世と考えられる。

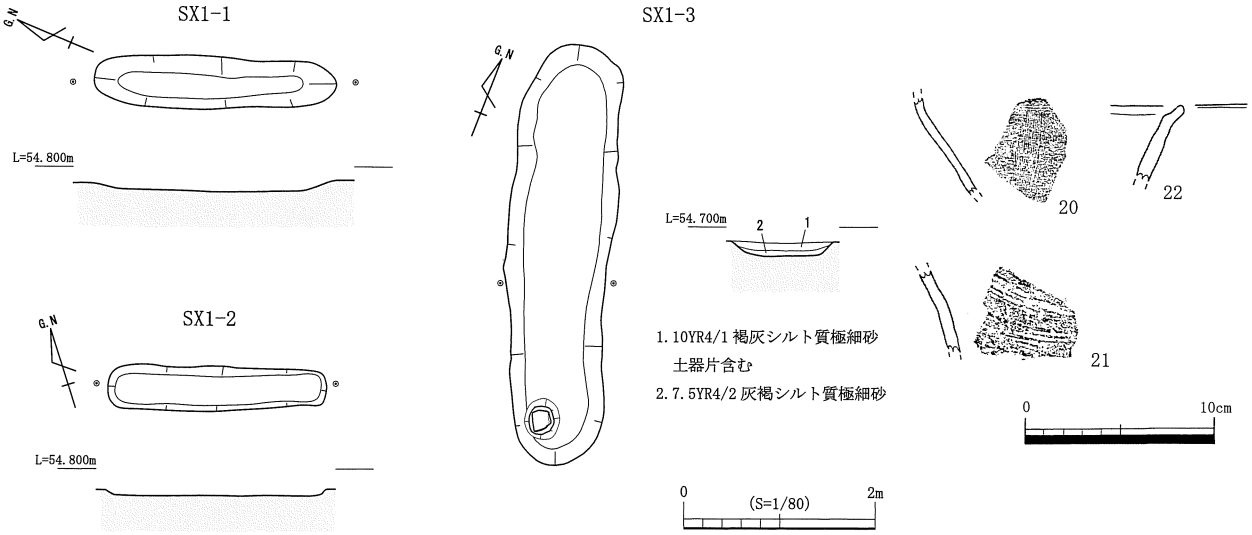
ＳＸ１－２（第 13 図）

１区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.60m である。全長は 2.28 m、幅 48cm、深さ８cm を測る。方位はＮ－ 70°－Ｗである。所属時期は近世と考えられる。

ＳＸ１－３（第 13 図）

調査区北西側において検出した溝状の遺構であり、ＳＢ１－３を切る。検出面の標高は 54.55 m である。全長は 4.40 m、幅 1.13 m、深さ 15cm を測る。方位はＮ－ 18°－Ｗである。所属時期は埋土、出土遺物から弥生時代後期である。

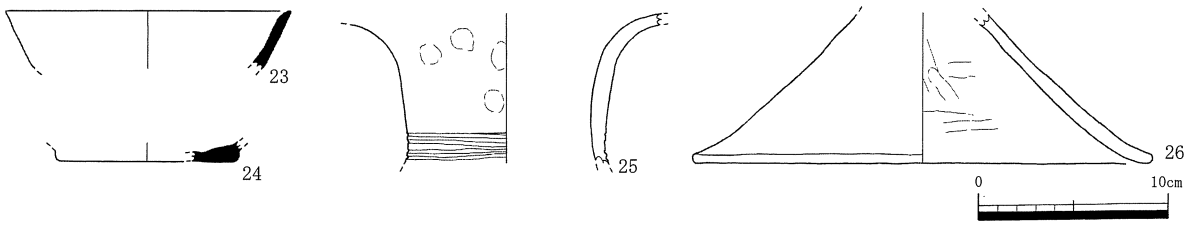
20 は弥生土器甕、21 は同甕、22 は同高杯である。



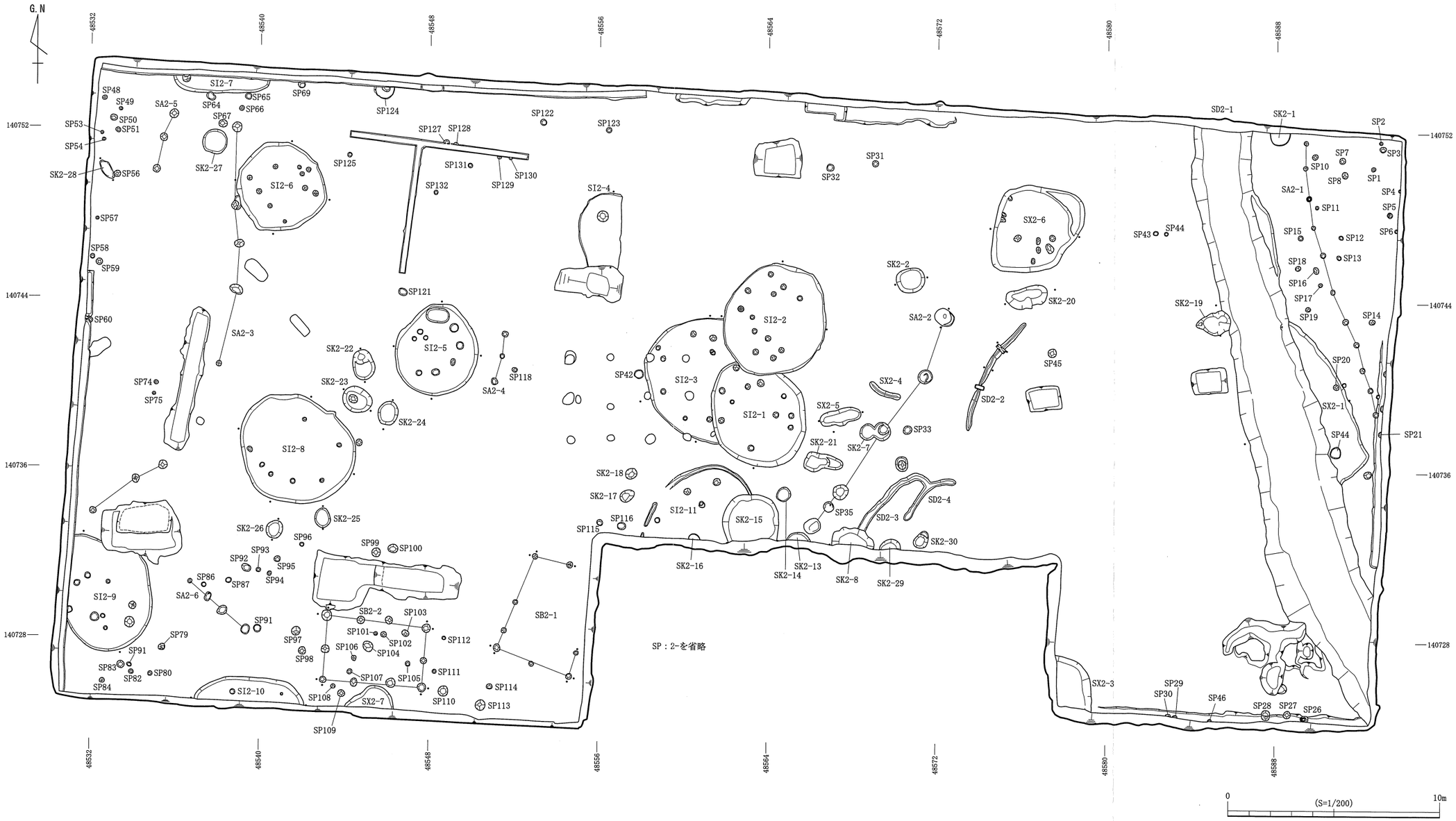

第 13 図　ＳＸ１－１～３平・断面図、遺物実測図

第 1 面出土遺物（第 14 図）

23 は須恵器杯、24 は同杯の底部である。25 は弥生土器壺、26 は同蓋である。




第 14 図　第１面出土遺物実測図




第15図　第2面遺構平面図

## ２　第２面の遺構と遺物

竪穴建物状遺構

以下に報告する竪穴建物状遺構は平面形・規模と柱穴配置等で弥生時代の一般的な竪穴建物の範疇に入るが、地床炉や壁溝が存在しないことや出土遺物が皆無であることから竪穴建物と断定できないので、竪穴建物状遺構とする。

ＳＩ２－１（第16図）

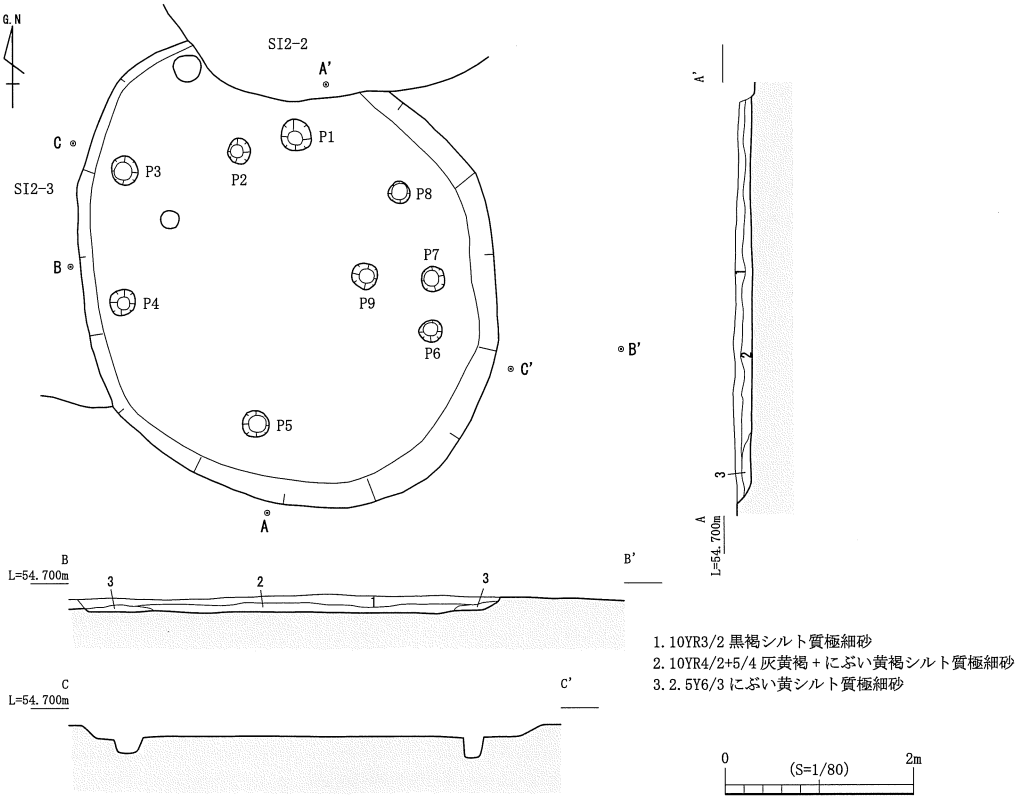
調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、ＳＩ２－２に切られ、ＳＩ２－３を切る。検出面の標高は54.55ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径は5.35×4.54ｍ、深さは14cmを測る。埋土は３層に分層でき、第１層は黒褐シルト質極細砂、第２層灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質極細砂、第３層にぶい黄シルト質極細砂である。

床面はほぼ平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴としてはＰ１・３～８の７基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は23～33cm、深さ10～24cmを測る。埋土はにぶい黄橙シルト質極細砂を含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。主柱穴より内側に２基のピットを検出したが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

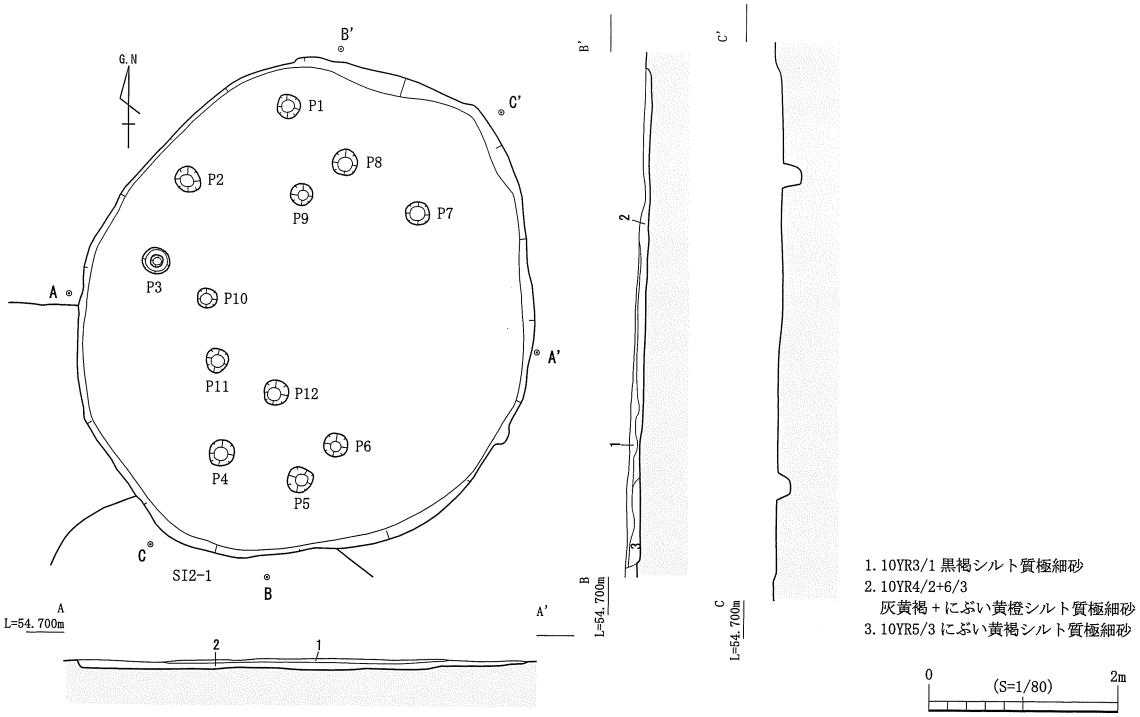
遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、ＳＢ２－１やＳＤ２－１等と同一の検出面であることや本遺跡が竪穴建物状遺構や掘立柱建物等の住居施設と環濠の可能性があるＳＤ２－１や柵列から形成された集落の様相を呈することから判断すると本遺構の時期は、弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－２（第17図）

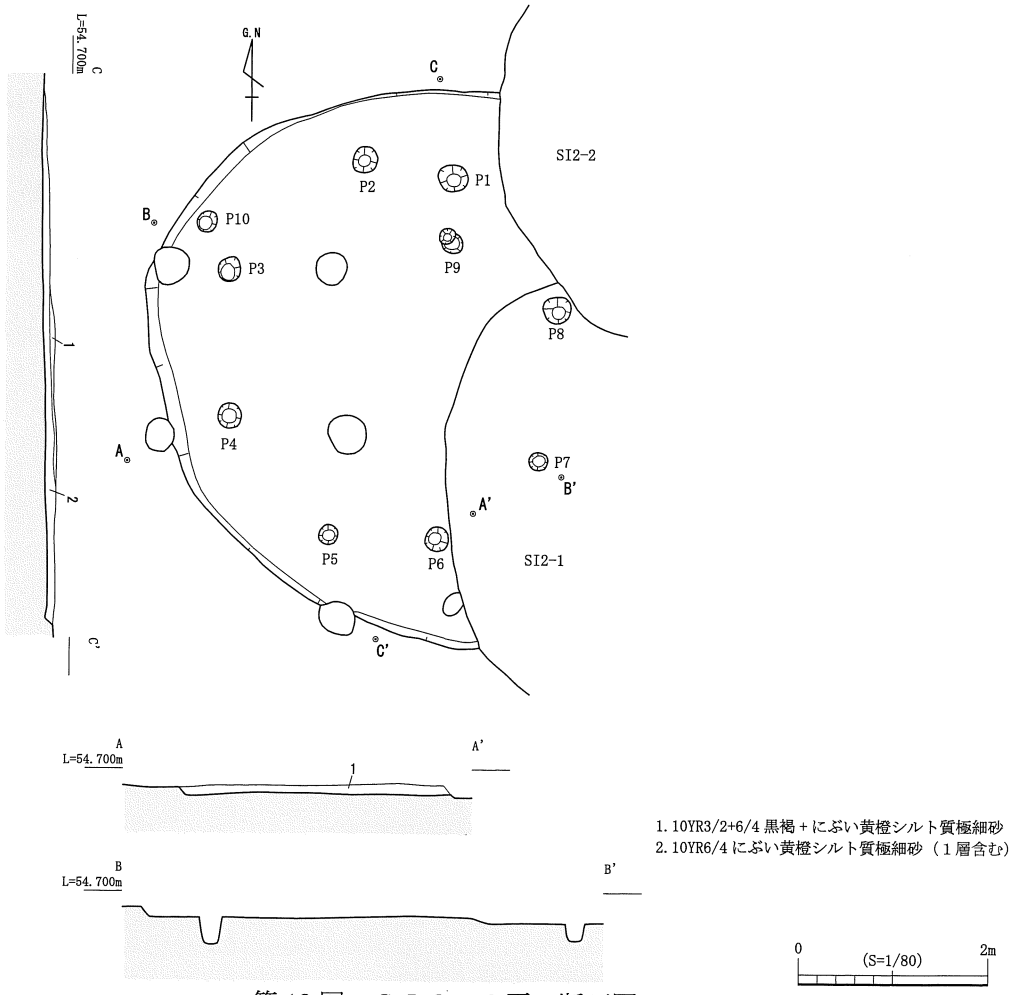
調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、ＳＩ２－１・３を切る。検出面の標高は54.40ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、直径は5.55×4.78ｍ、深さは15cmを測る。埋土は３層に分層でき、第１層は黒褐シルト質極細砂、第２層灰黄褐＋にぶい黄橙シルト質極細砂、第３層にぶい




第16図　ＳＩ２－１平・断面図




第17図　ＳＩ２－２平・断面図




第18図　ＳＩ２－３平・断面図

黄褐シルト質極細砂である。第２層が大部分を占る。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～５・７の６基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 25 ～ 30cm、深さ 14 ～ 28cm を測る。埋土はにぶい黄橙シルト質極細砂を含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。主柱穴より内側に６基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

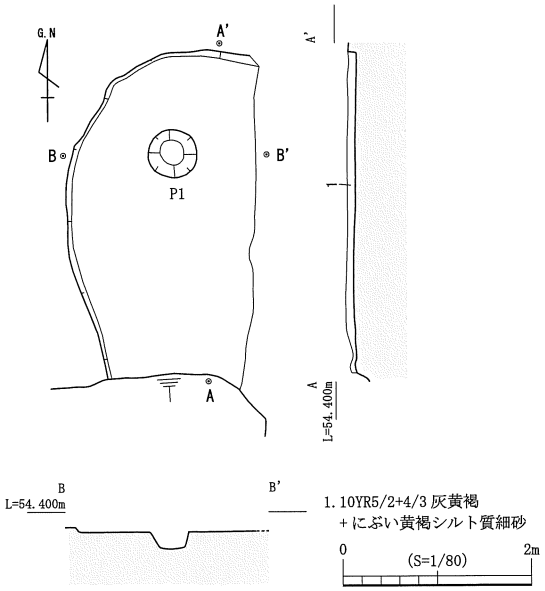
遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－３（第 18 図）

調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、ＳＩ２－１・２に切られる。検出面の標高は 54.50 ｍ前後である。平面形は楕円形を呈し、直径は 5.92 ｍ、深さは７cm を測る。埋土は２層に分層でき、第１層は黒褐＋にぶい黄橙シルト質極細砂、第２層にぶい黄橙シルト質極細砂である。第２層が大部分を占める。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～８の８基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 20 ～ 32cm、深さ 17 ～ 21cm を測る。埋土はにぶい黄橙シルト質極細砂を含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。主柱穴以外に２基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。



第 19 図　ＳＩ２－４平・断面図

ＳＩ２－４（第 19 図）

調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、南側は近年の撹乱により消滅し、東側の２区においても検出したが調査時の不注意により削平してしまった。検出面の標高は 54.26 ｍである。平面形は円形を呈すると考えられ、検出した直径は 3.42 ｍ、深さは６cm を測る。埋土は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。ピットは１基のみ検出したのみである。地床炉と壁溝は認められなかった。

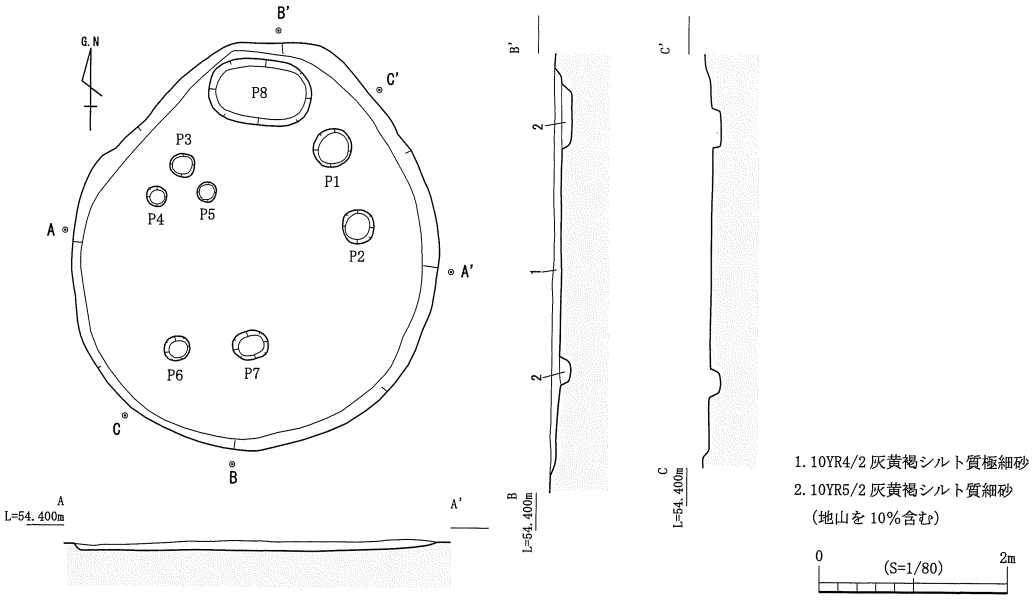
遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－５（第 20 図）

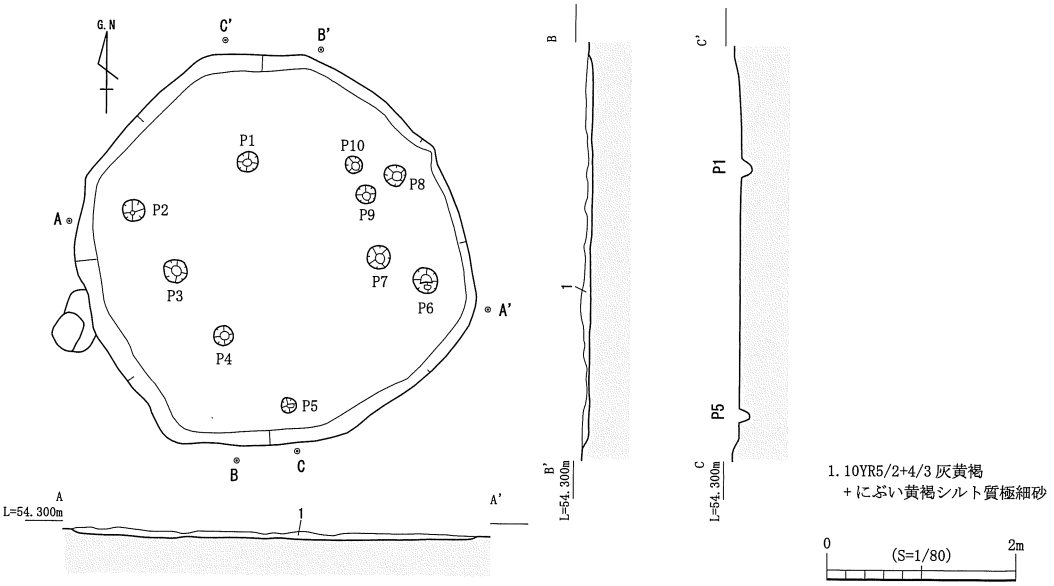
調査区西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は 54.22 ｍ前後である。平面形は円形を呈し、直径は 4.22 × 3.90 ｍ、深さは 10cm を測る。埋土は灰黄褐シルト質極細砂の単一層

である。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～４・６・７の６基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 20 ～ 40cm、深さ 10 ～ 14cm を測る。埋土は地山粒子を 10％含む灰黄褐シルト質極細砂の単一層である。主柱穴より内側に１基のピ




第 20 図　ＳＩ２－５平・断面図




第 21 図　ＳＩ２－６平・断面図

ットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。北側に規模の大きな楕円形の落ち込みが検出された。規模は110 × 70cm、深さは10cmを測る。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－６（第21図）

調査区西側３区の北西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は54.23ｍ前後である。平面形は円形を呈し、直径は4.10ｍ、深さは８cmを測る。埋土は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～６・８の７基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は16～28cm、深さ８～16cmを測る。埋土は灰黄褐シルト質細砂のＰ５を除き黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂である。主柱穴より内側に３基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－７（第22図）

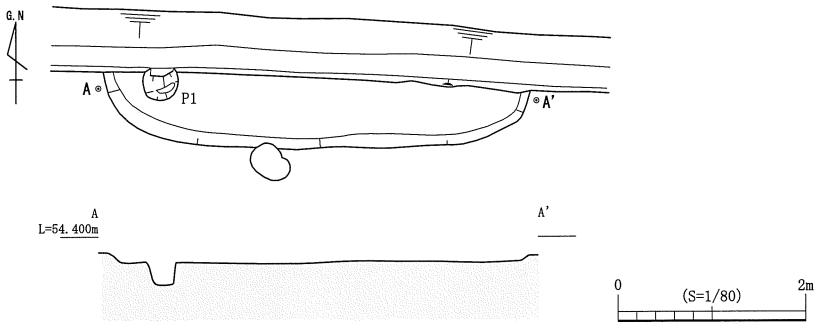
調査区北西隅において検出した円形竪穴建物状遺構の南端部であり、大半は調査区外北側へと延びる。検出面の標高は54.20ｍ前後である。平面形は円形を呈すると考えられ、検出した径は4.53ｍ、深さは６cmを測る。埋土は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。ピットは１基検出したのみであり、その性格は不明である。平面形は円形を呈し、埋土は黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－８（第23図）

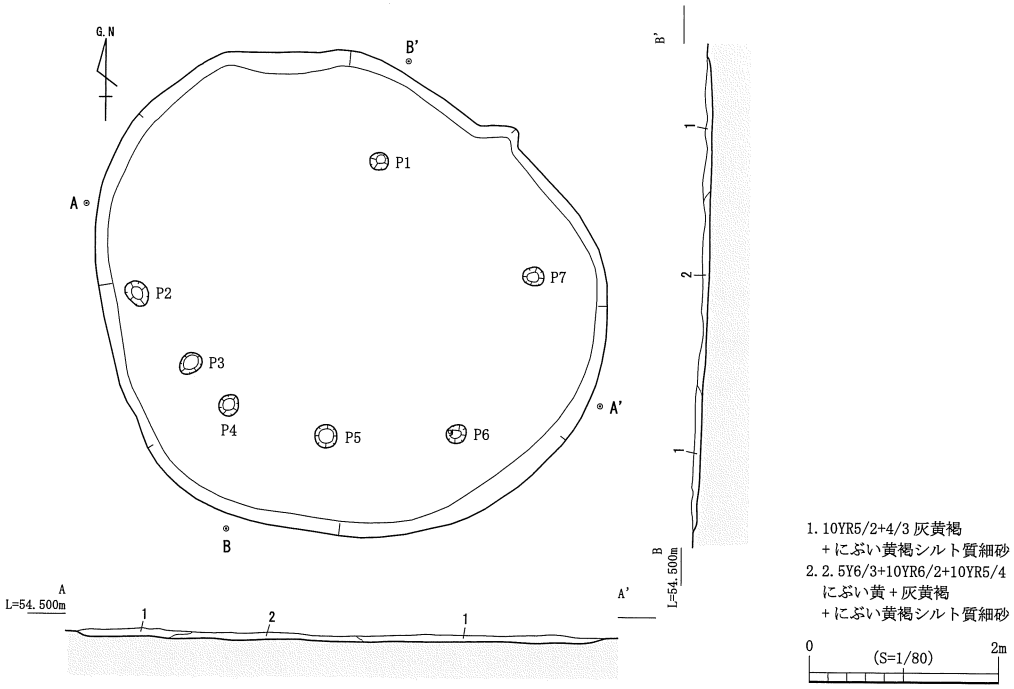
調査区西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は54.23～54.37ｍである。平面形は北東側が歪な円形を呈し、直径は5.70 × 4.98ｍ、深さは８cmを測る。埋土は２層に分層できる。第１層は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質極細砂、第２層にぶい黄＋灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂であり、周辺部に第１層の堆積が見られる。



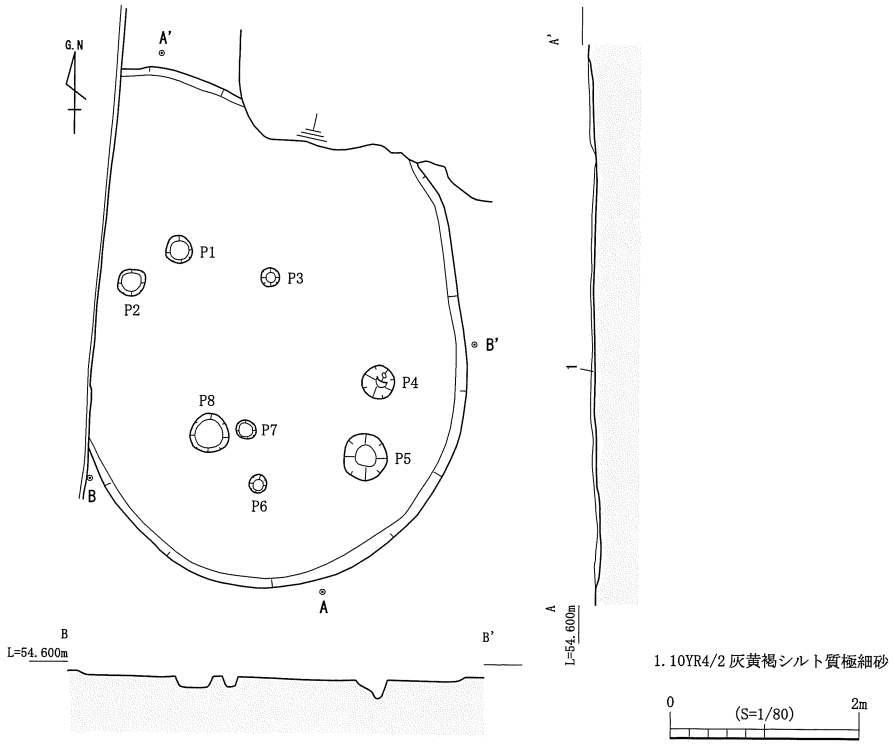

第22図　ＳＩ２－７平・断面図

床面は直床であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～７の７基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 20 ～ 30cm、深さ９～ 14cm を測る。埋土は黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。




第 23 図　ＳＩ２－８平・断面図




第 24 図　ＳＩ２－９平・断面図

ＳＩ２－９（第24図）

調査区南西隅において検出した円形竪穴建物状遺構であり、北東側は後世の撹乱により削平され、一部は調査区外西側へと延びる。検出面の標高は54.43～54.55ｍである。平面形は北東側がいびつな楕円形を呈し、直径は5.80×4.12ｍ、深さは９cmを測る。埋土は灰黄褐シルト質極細砂の単一層である。

床面は直床であり、西から東に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。床面にはＰ１～９の９基が検出されるが、その位置関係は不規則であり、主柱穴に認められるものはない。ただＰ４・５・８は規模の大きなピットであり主柱穴の可能性もある。明確な上屋を想定することが困難である。ピットの平面形は円形を呈し、直径は20～50cm、深さ12～21cmを測る。埋土は黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－10（第25図）

調査区南西隅において検出した円形竪穴建物状遺構であり、大半は調査区外南側へと延びる。検出面の標高は54.50ｍ前後である。平面形は円形と推測され、検出した径は5.16ｍ、深さは16cmを測る。埋土は４層に分層でき、第１層は黒褐＋灰黄褐＋にぶい黄橙シルト質細砂、第２層はにぶい黄橙＋灰黄褐シルト質細砂、第３層は灰黄褐＋褐灰シルト質細砂、第４層は第３層とほぼ同じだが地山を10％含む。

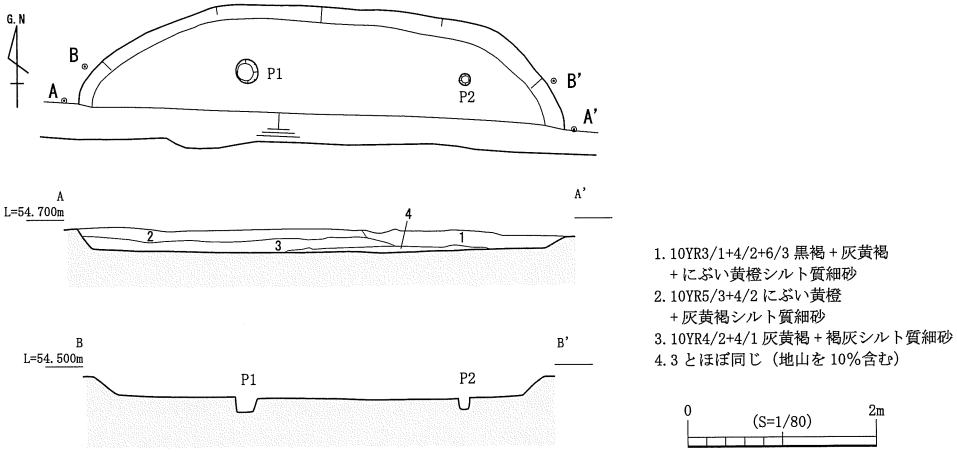
床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１・２が検出されるが、明確な上屋を想定することが困難である。主柱穴の平面形は円形を呈し、直径は12cmと26cm、深さ12cmと14cmを測る。埋土はＰ１が灰黄褐シルト質細砂、Ｐ２が黒褐シルト質極細砂の単一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

ＳＩ２－11（第26図）

調査区中央南端において検出した円形竪穴建物であり、東側はＳＫ２－15に切られており、遺構は調査区外南側へと延びる。検出面の標高は54.52ｍ前後である。掘り方は確認できず、壁溝、柱穴のみの検出であり、床面が検出面となった。平面形は円形を呈し、検出した径は3.62ｍを測る。

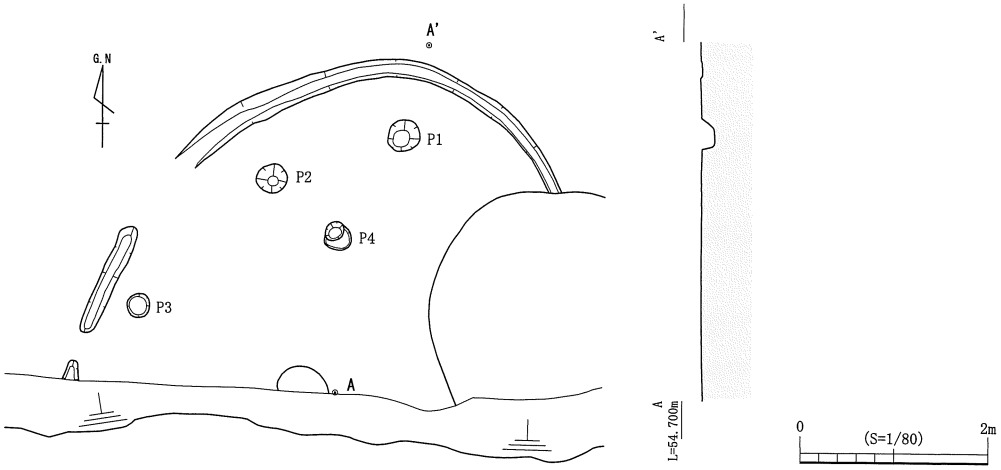
床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴としてＰ１～３の３基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は




第25図　ＳＩ２－10平・断面図

円形を呈し、直径は25～35cm、深さ５～21cmを測る。壁溝は西側に途切れる部分が見られるが本来は全周していたと考えられる。壁溝の幅は13～30cm、深さ１～９cmを測る。地床炉は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。




第26図　ＳＩ２－11平・断面図

掘立柱建物

ＳＢ２－１（第27図）

調査区中央の南側において検出した掘立柱建物であり、北列側柱と東列側柱の一部は調査区外東側へと延びる。建物の規模は南北３間（4.98ｍ）、東西２間（3.96ｍ）、床面積19.72㎡を測る。検出面の標高は54.50～54.64ｍである。建物の主軸方位はＮ－23°－Ｅである。調査では８基の柱穴が検出されたが、北東側の調査区外に２基の柱穴の存在が想定される。柱穴の平面形は円形を呈し、直径23～36cm、深さ17～30cmを測る。最大のＰ５は直径30×36cm、深さ21cmを測る。西列側柱の芯々間距離は、Ｐ２－３間が2.30ｍ、Ｐ３－４間が1.40ｍ、Ｐ４－５間が0.90ｍである。埋土は２層である。全ての柱穴はほぼ水平堆積を示しており柱根は見られない。所属時期は検出面や他の遺構との関係から判断すると弥生時代前期末と考えられる。

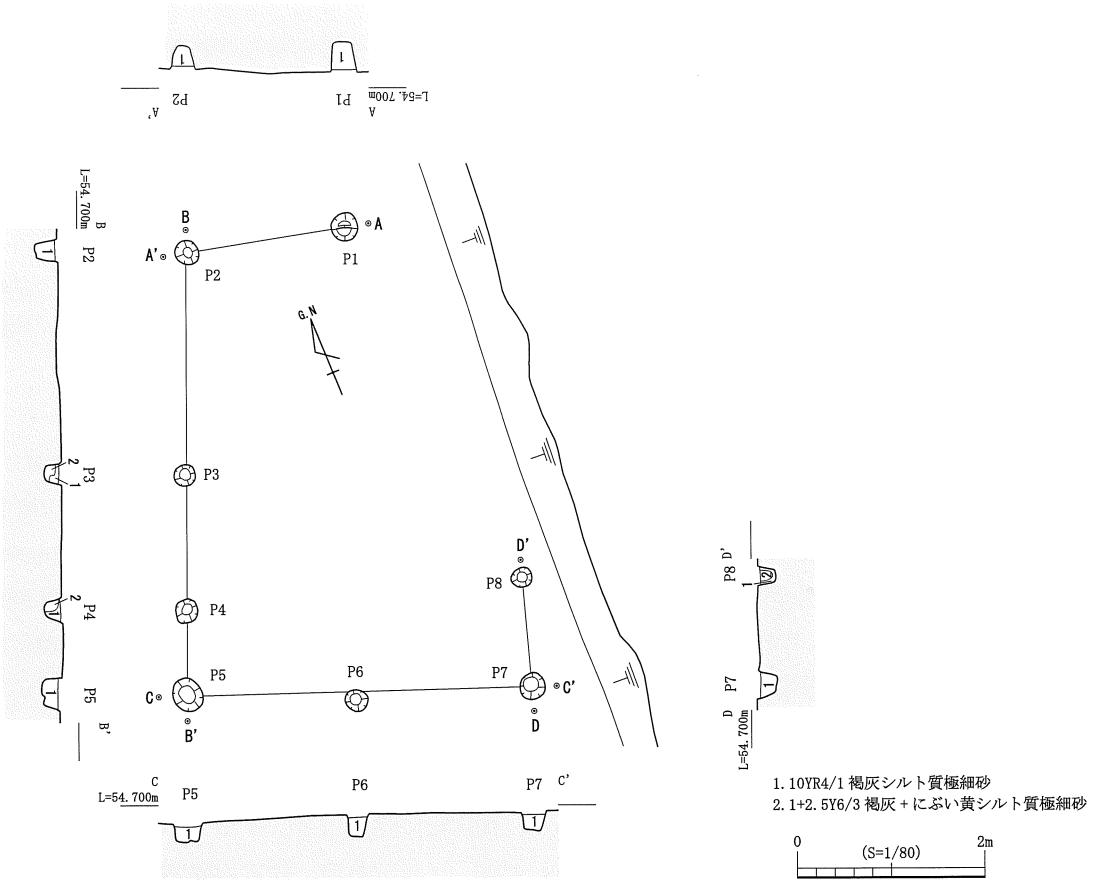
ＳＢ２－２（第28図）

調査区南西側において検出した南北２間（3.40ｍ）、東西３間（5.03ｍ）、床面積17.10㎡を測る掘立柱建物である。検出面の標高は54.37～54.46ｍである。建物の主軸方位はＮ－94°－Ｅである。掘立柱建物は10個の柱穴から構成され、柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、直径30～48cm、深さ14～27cmを測る。最大のＰ４は直径48cm、深さ17cmを測る。柱穴の芯々間距離はほぼ等間隔である。埋土は２層である。全ての柱穴はほぼ水平堆積を示しており柱根は見られない。所属時期は小片で図化できなかった出土土器、検出面や他の遺構との関係から判断すると弥生時代前期末と考えられる。

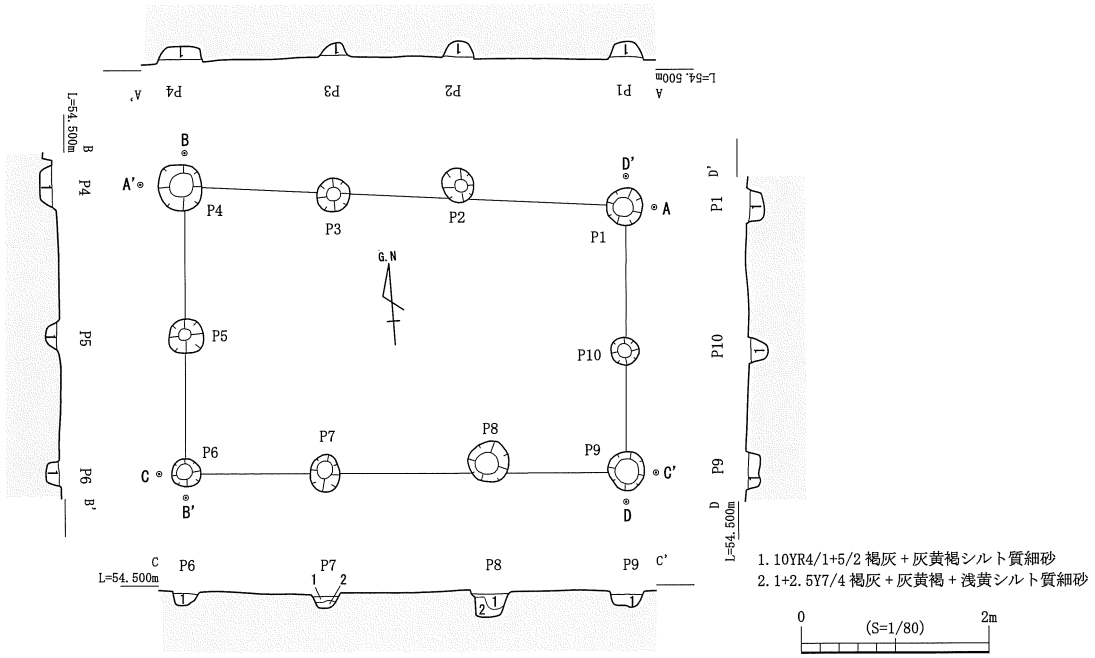
柵列

ＳＡ２－１（第29図）

調査区北東隅において検出した柵列である。検出面の標高は54.20～54.45ｍである。検出した柵列の全長は約14.50ｍであるが、北方向と南方向の調査区外に延びる。柵列はＰ１～12の12基の柱穴から構成され、やや湾曲するが方向はＮ－15°－Ｗであり、ＳＤ２－１の約2.50ｍ東側を平行に延びる。柱穴は1.20～1.80ｍの間隔で並んでおり、平面形は円形を呈し、直径21～27cm、深さ10～28cmを測る。




第27図　ＳＢ２－１平・断面図




第28図　ＳＢ２－２平・断面図

埋土はＰ１・２が褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂、その他が褐灰シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土してないので所属時期は不明であるが、検出面やＳＤ２－１との関係から弥生時代前期末であると考えられる。本遺構はＳＤ２－１と平行に延びており、両者には密接な関係があると思われる。

ＳＡ２－２（第30図）

調査区ほぼ中央において検出した柵列であり、ＳＩ２－１～３・11の東側に位置する。検出面の標高は54.35～54.52ｍである。検出した柵列の全長は13.20ｍを測るが、調査区外南側に延びる。柵列はＰ１～５の５基の柱穴から構成され、北端が僅かに湾曲するが方向はＮ－36°－Ｅである。柱穴は2.00～3.60ｍの不規則な間隔で並んでおり、平面形は円形ないし楕円形を呈し、直径67～92cm、深さ13～22cmを測る。遺物が出土してないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＡ２－３（第30図）

調査区北西側において検出した柵列である。検出面の標高は54.20～54.45ｍである。検出した柵列の全長は約21ｍを測るが、北側と西側の調査区外に延びる。柵列はＰ１～８の８基の柱穴から構成され、南西から北方向に向かって緩やかな弧を描くように並ぶ。柱穴の間隔は2.20ｍ以内と2.50ｍ以上である。Ｐ５とＰ６の間は大きく間隔が開く。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は26～65cm、深さは12～25cmを測る。埋土はＰ２・３が黒褐シルト質極細砂、その他がにぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との位置関係から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＡ２－４（第31図）

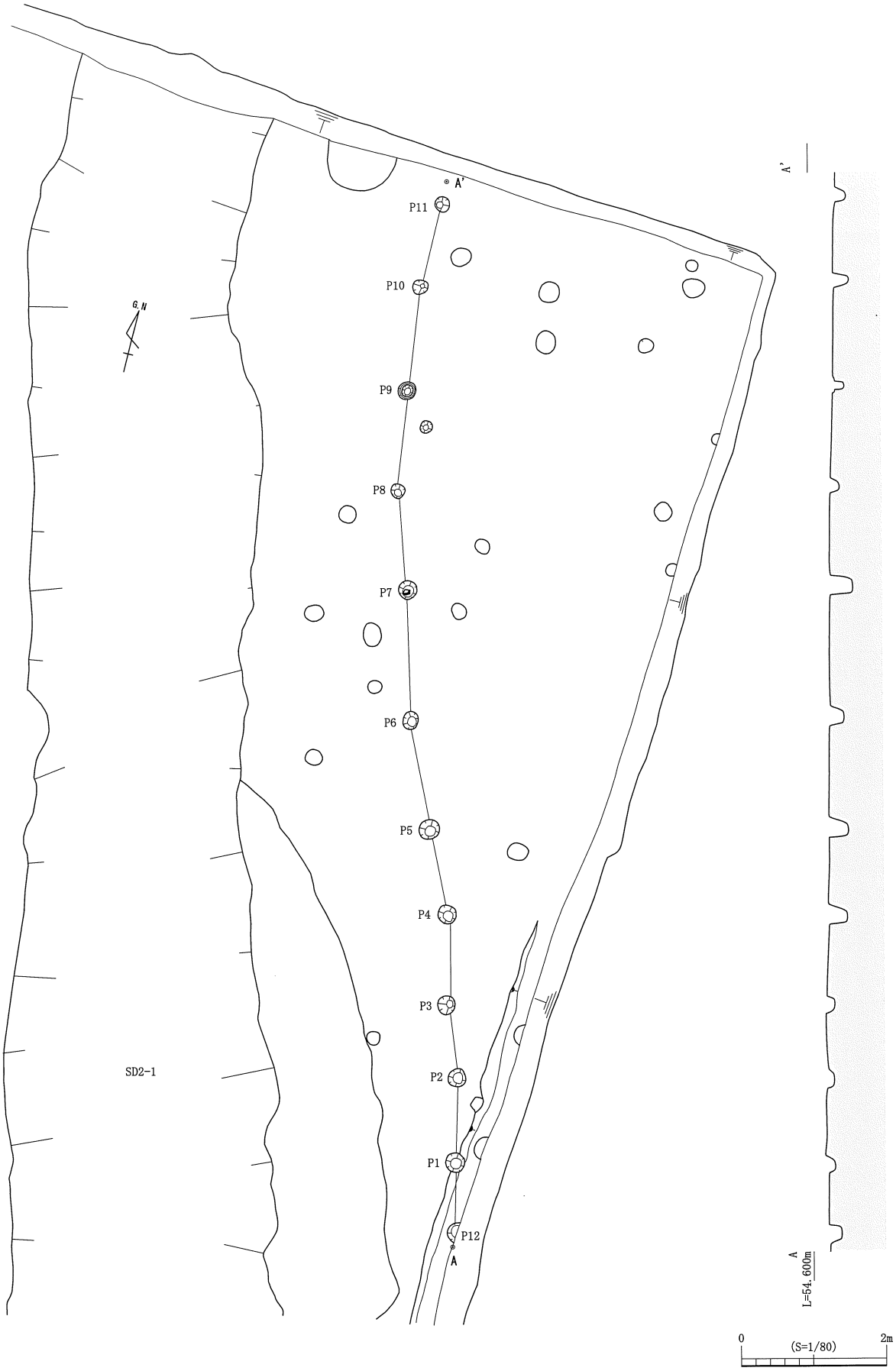
調査区中央やや西側において検出した柵列である。検出面の標高は54.27ｍである。柵列は３基の柱穴から構成され、全長は2.60ｍを測る。方向はＮ－13°－Ｅである。柱穴の間隔は1.00ｍと1.20ｍであり、平面形は円形を呈し、直径は24～35cm、深さは８～16cmを測る。埋土はＰ２が黒褐シルト質極細砂、その他がにぶい黄褐＋褐灰シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＡ２－５（第31図）

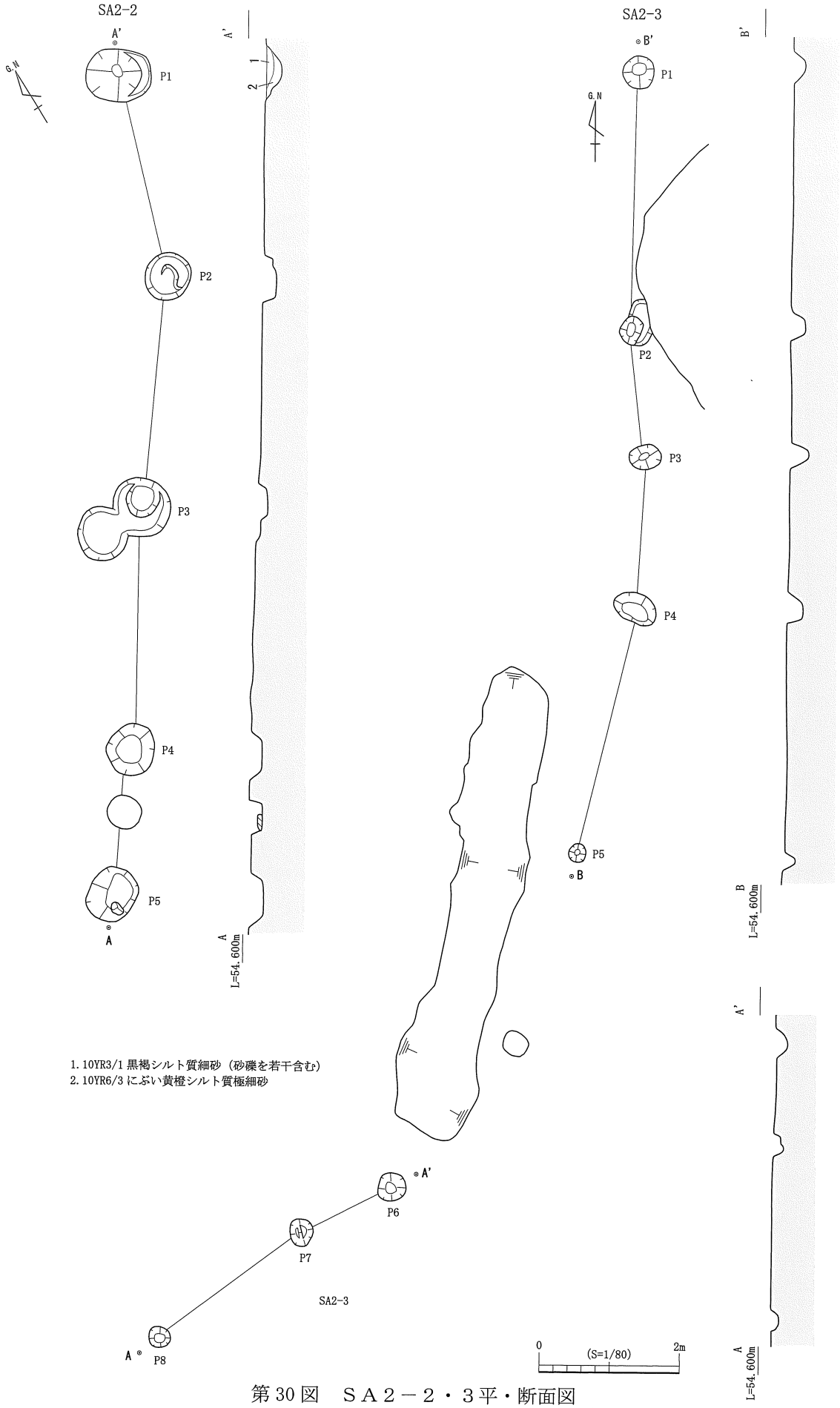
調査区北西隅において検出した柵列である。検出面の標高は54.25ｍ前後である。柵列は３基の柱穴から構成され、全長は3.10ｍを測る。方向はＮ－17°－Ｅである。柱穴の間隔は1.20ｍと1.50ｍであり、平面形は円形を呈し、直径は35～42cm、深さは15～18cmを測る。Ｐ１の埋土はにぶい黄褐シルト質細砂、Ｐ２が黒褐シルト質極細砂、Ｐ３がにぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＡ２－６（第31図）

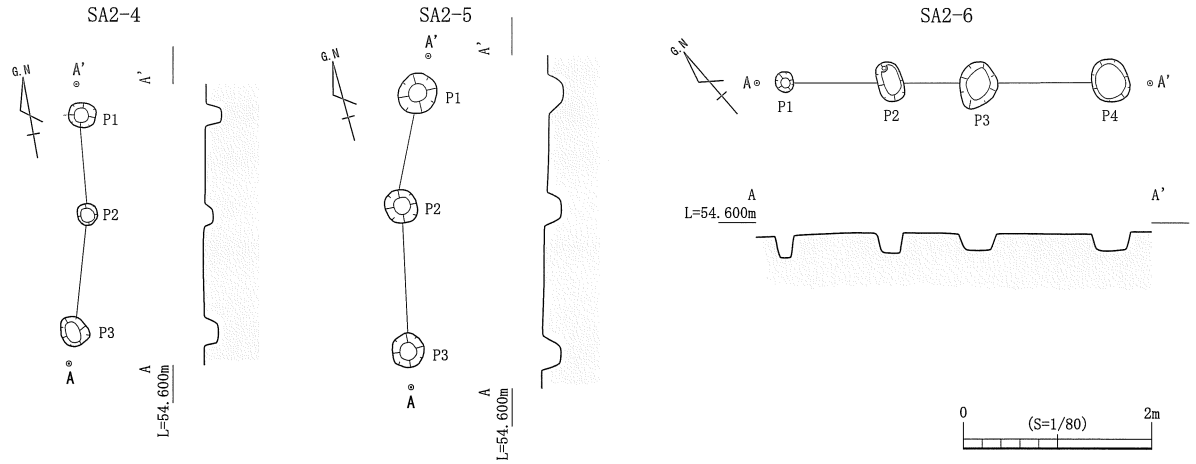
調査区南西隅において検出した柵列である。検出面の標高は54.48ｍである。柵列はＰ１～４の４基の柱穴から構成され、全長は3.80ｍを測る。方向はＮ－132°－Ｅである。柱穴の間隔は0.90～1.40ｍであり、平面形は円形ないし楕円形を呈し、直径は22～51cm、深さは16～22cmを測る。Ｐ１の埋土はにぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂、Ｐ２がにぶい黄褐シルト質細砂、Ｐ３が浅黄シルト質細砂を含む褐灰シルト質細砂、Ｐ４がにぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。




第29図　ＳＡ２－１平・断面図




第30図　ＳＡ２－２・３平・断面図




第31図　ＳＡ２－４～６平・断面図

土坑

ＳＫ２－１（第32図）

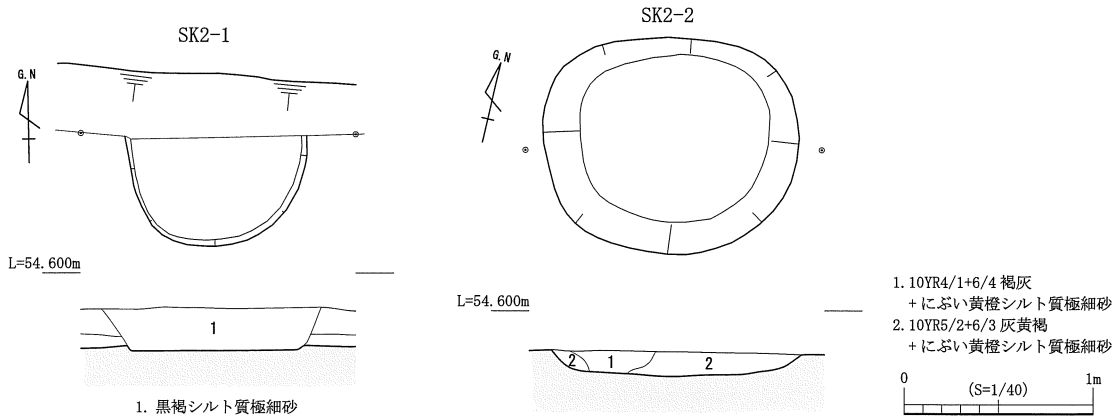
調査区北東隅において検出した土坑である。調査時の検出面は標高54.23ｍであるが、調査区北壁の土層観察では標高54.40ｍの第９層上面から掘り込まれていることが認められた。土坑の平面形は円形を呈し、北壁断面での直径は1.16ｍ、深さは24cmを測る。断面は逆台形であり、底面は平坦である。埋土は黒褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代後期以降と考えられる。

ＳＫ２－２（第32図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は54.36ｍである。平面形は円形を呈し、直径1.36×1.15ｍ、深さ24cmを測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、底面は平坦である。埋土は２層に分層でき、第１層は褐灰＋にぶい黄橙シルト質極細砂、第２層は灰黄褐＋にぶい黄橙シルト質極細砂であり、第２層が大半を占める。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－７（第33図）

調査区中央において検出した土坑であり、ＳＡ２－２のＰ３と重複する。検出面の標高は54.48ｍである。平面形は円形を呈し、直径76cm、深さ９cmを測る。掘り込みはやや急傾斜であり、底面は平坦である。埋土は褐灰シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、ＳＡ２－２との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。




第32図　ＳＫ２－１・２平・断面図

ＳＫ２－８（第33図）

調査区中央南端において検出した土坑であり、調査区外南側へと延び、ＳＤ２－３を切る。検出面の標高は54.50ｍである。平面形は不整円形を呈し、直径2.00ｍ、深さ37cmを測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、断面は逆台形を呈する。底面は平坦である。埋土は２層に分層でき、第１層は黄灰シルト質細砂、第２層は黄灰＋黄褐シルト質細砂であり、ともに砂礫を多量に含む。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、ＳＤ２－３との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－10（第33図）

調査区ほぼ中央において検出した土坑であり、地山の微低地に厚く堆積する帯状の砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.45ｍである。平面形は円形を呈し、直径68×58cm、深さ20cmを測る。掘り方は北側に段を有する。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－14（第34図）

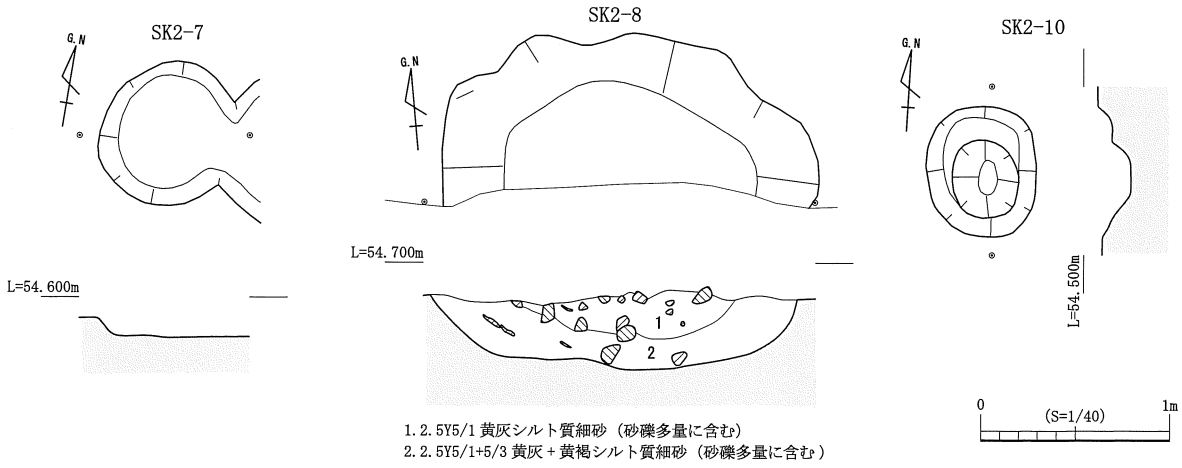
調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.50ｍである。平面形は円形を呈し、直径70cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－15（第34図）

調査区中央南端において検出した土坑であり、調査区外南側へと延び、ＳＩ２－11を切る。検出面の標高は54.51ｍである。平面形は円形を呈し、直径2.65ｍ、深さ33cmを測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、断面は逆台形を呈する。底面は南西側がやや高くなる。埋土は４層に分層でき、第１層は浅黄シルト＋暗灰黄シルト質極細砂、第２層褐灰＋にぶい黄シルト質極細砂、第３層灰黄シルト質極細砂を含む褐灰シルト質極細砂、第４層にぶい黄シルト質極細砂であり、自然堆積である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、ＳＩ２－11との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。第１層に地山を含むことから風倒木痕の可能性が高い。

ＳＫ２－17（第34図）

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.55ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径73×50cm、深さ23cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土はにぶい黄褐シルト質極細砂を若干含む灰黄褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。



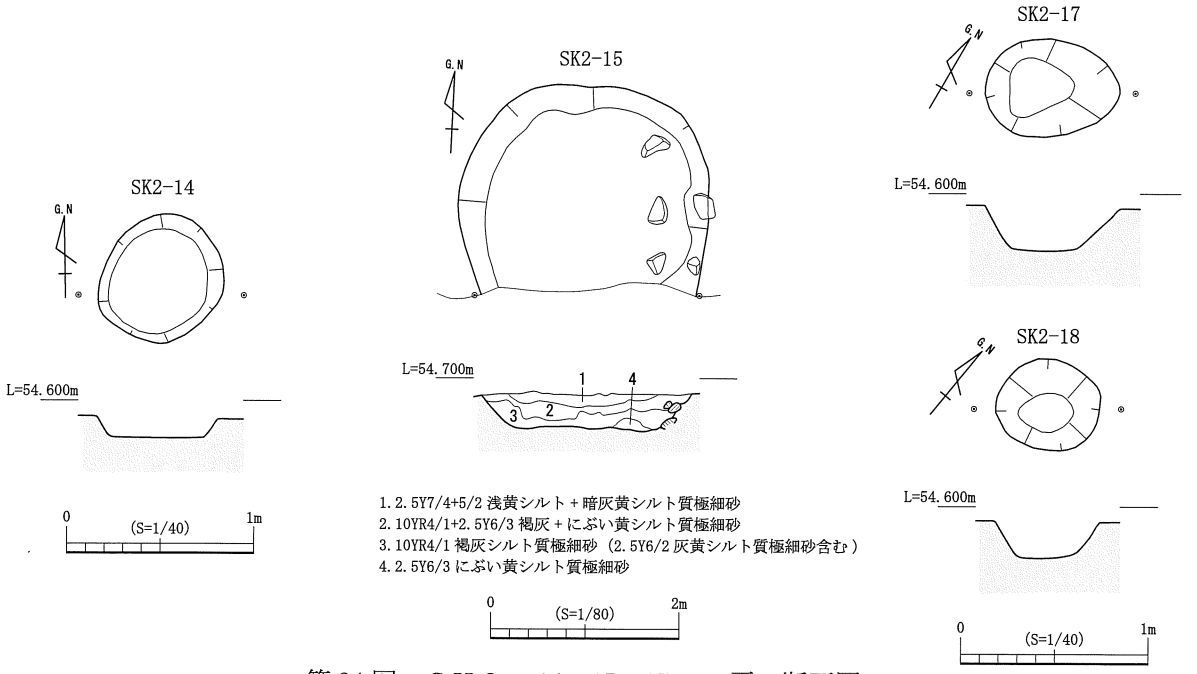

第33図　ＳＫ２－７・８・10平・断面図

ＳＫ２－18（第34図）

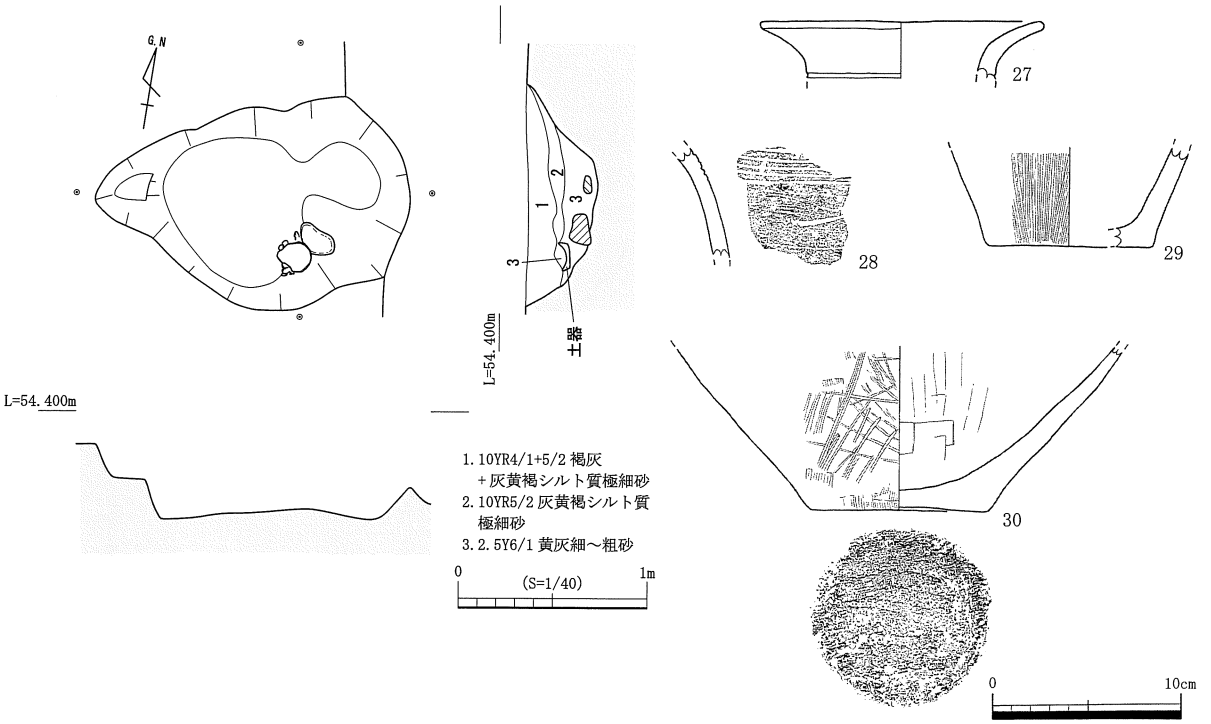
調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.55ｍである。平面形は円形を呈し、直径55cm、深さ22cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土はにぶい黄褐シルト質極細砂を若干含む灰黄褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－19（第35図）

調査区北東側において検出した土坑であり、ＳＤ２－１に切られる。検出面の標高は54.25ｍ前後である。平面形は西方に尖がる不整楕円形を呈し、直径は1.68×1.07ｍ、深さは37cmを測る。掘り方はやや急傾斜であり、西側に段を有する。底面は東側に大きく抉りの入る円形で、東端部がやや低くなっている。埋土は３層に分層でき、第１層は褐灰＋灰黄褐シルト質極細砂、第２層灰黄褐シルト質極細砂、




第34図　ＳＫ２－14・15・17・18平・断面図




第35図　ＳＫ２－19平・断面図、遺物実測図

第３層黄灰細～粗砂である。埋土は第１・２層と第３層に大きく分けられ、第３層は洪水により短期間に堆積したと考えられる。遺物の出土は第３層が主体である。所属時期は出土土器から弥生時代前期末と考えられる。

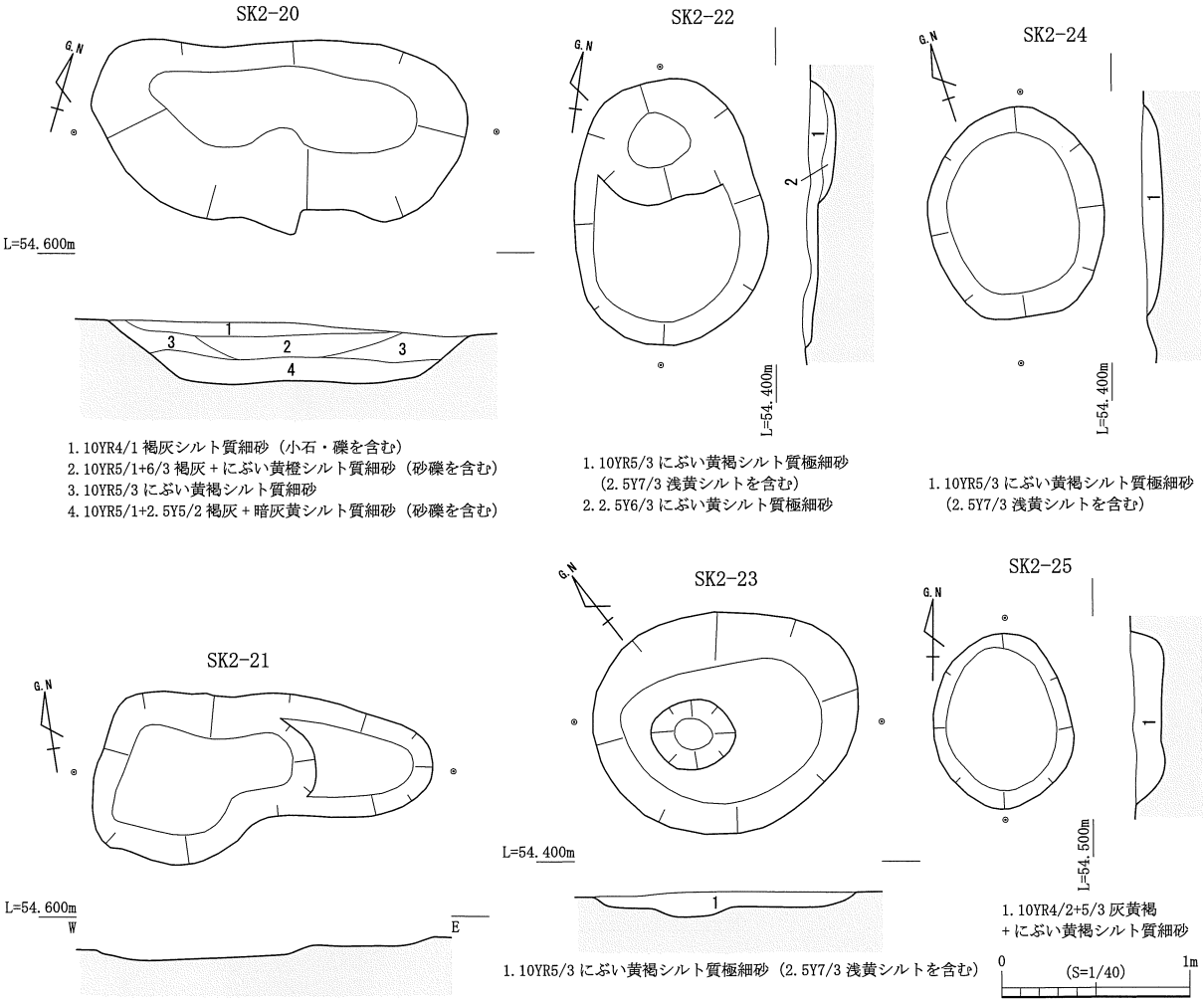
27 は弥生土器壺の口縁部で、口縁部は緩やかに開き、端部を丸く納める。頸部にはヘラ描き沈線を施す。28 は同壺の体部で、外面に５条のヘラ描き沈線を巡らし、ヘラミガキを施す。29 は同甕の底部で、外面に縦方向のハケを施す。30 は同壺の底部で、外面にハケ・ヘラミガキ、内面にヘラケズリを施す。

ＳＫ２－20（第 36 図）

調査区ほぼ中央東寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は 54.20 ｍである。平面形は不整楕円形を呈し、直径 2.00 × 0.90 ｍ、深さ 32cm を測る。断面は逆台形を呈し、底面は北方に片寄るが平坦である。埋土は４層に分層でき、第１層は小石・礫を含む褐灰シルト質細砂、第２層砂礫を含む褐灰＋にぶい黄橙シルト質細砂、第３層にぶい黄褐シルト質細砂、第４層砂礫を含む褐灰＋暗灰黄シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－21（第 36 図）

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 54.50 ｍである。平面形は不整楕円形を呈し、直径 1.80 × 0.90 ｍ、深さ 12cm を測る。底面は東側に段を有し、最深部は平坦である。埋土は黄褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。




第 36 図　ＳＫ２－20 ～ 25 平・断面図

ＳＫ２－22（第36図）

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.25ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径1.40×1.02ｍ、深さ12cmを測る。底面は南側に段を有し、最深部は北端に片寄る。埋土は２層に分層でき、第１層は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂、第２層にぶい黄シルト質極細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－23（第36図）

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.22ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径1.30×1.20ｍ、深さ11cmを測る。底面は平坦であり、中央西寄りに円形の落ち込みがある。埋土は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－24（第36図）

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.23ｍである。平面形は円形を呈し、直径1.11×0.94ｍ、深さ12cmを測る。掘り方は非常に緩やかであり、底面は平坦である。埋土は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－25（第36図）

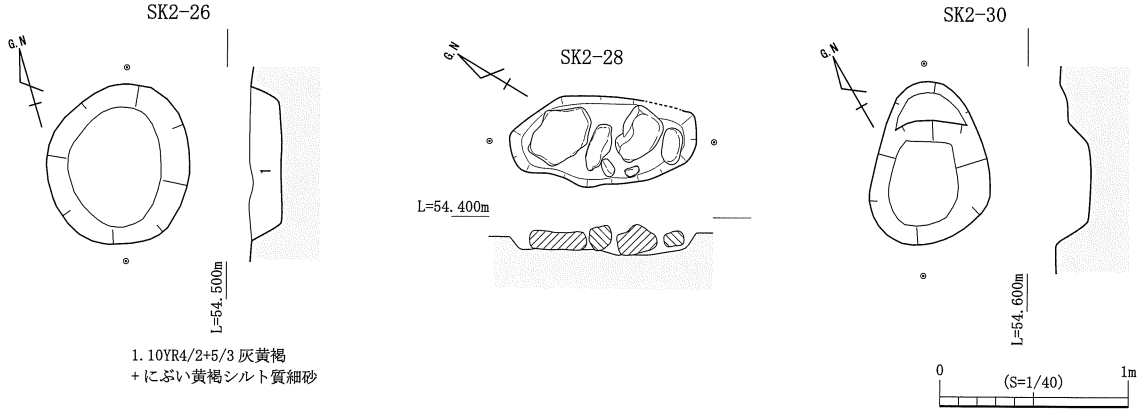
調査区南西側において検出した土坑である。検出面の標高は54.30ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.94×0.73ｍ、深さ16cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－26（第37図）

調査区南西側において検出した土坑である。検出面の標高は54.39ｍである。平面形は円形を呈し、直径0.85×0.73ｍ、深さ19cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＫ２－28（第37図）

調査区北西隅において検出した土坑である。検出面の標高は54.29ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径0.99×0.46ｍ、深さ12cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は東側がやや深くなる。土坑内に径20～37cmの石が４個出土した。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。




第37図　ＳＫ２－26・28・30平・断面図

ＳＫ２－30（第37図）

調査区ほぼ中央の南端において検出した土坑である。検出面の標高は54.45ｍである。平面形は楕円形を呈し、直径0.86×0.65ｍ、深さ18cmを測る。底面は北側に段を有し、最深部は平坦である。埋土はにぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

溝

ＳＤ２－１（第38～50図）

調査区東端において検出した溝であり、ＳＫ２－19・ＳＸ２－１を切る。検出面の標高は54.30～54.60ｍであり、南方から北方に向かって緩やかに下がっている。調査区の南東隅から北端まで検出した溝の全長は29.70ｍであり、方向はＮ－16°－Ｗでほぼ直線的に延びる。最大幅は南側にあり4.15ｍを測る。南端部上面は近・現代の撹乱により大規模な削平を受けている。北側になるにしたがって溝の幅が狭くなっており、北端では2.70ｍである。しかし、北壁の土層観察では3.25ｍである。この数値の差の原因は検出面の違いである。北壁土層観察ではＳＤ２－１が第８層から掘り込まれていたことを確認したが、溝中央より北側では地山が緩やかに下がっており、その部分に灰白細砂を含む黒褐シルト質極細砂（第４図　第８層）が堆積しており、ＳＤ２－１の埋土と酷似していたため調査時には地山まで掘り下げてＳＤ２－１を検出した。溝の断面は逆台形を呈する。最大深度は45cmを測り、底面の標高は南端で54.05ｍ、北端で53.82ｍであり、その比高差は23cmあり、南から北へ流れていたことがうかがえる。底面はほとんど平坦である。埋土は７層に分層できる。第１層は黒褐＋褐灰シルト質極細砂、第２層黒褐シルト質極細砂、第３層灰黄褐シルト質極細砂、第４層やや暗い黒褐シルト質極細砂、第５層褐灰＋灰黄褐シルト質極細砂、第６層灰黄褐シルト質極細砂、第７層第６層＋にぶい黄シルト質極細砂である。これらの埋土は上位の第１～４層と下位の第５～７層に大別できる。下位の第５～７層は層が薄く非常に硬くしまっており、上層との間に若干の時期差があると考えられる。遺物の取り上げは第１～４層を上層と中層に分け、第５～７層を下層・最下層に分けて行ったが、上面からのレベルを基準にしているので厳密な意味での層毎の遺物の取り上げはできていない。また、調査区南東隅の側溝掘削において出土した遺物もＳＤ２－１出土として報告する。

所属時期は出土遺物や検出面やＳＫ２－19との重複関係等から弥生時代前期末であり、遺構の性格は円形竪穴建物状遺構やＳＡ２－１との関係から環濠の可能性が高いと考えられる。

31～35は上層から出土した弥生土器である。

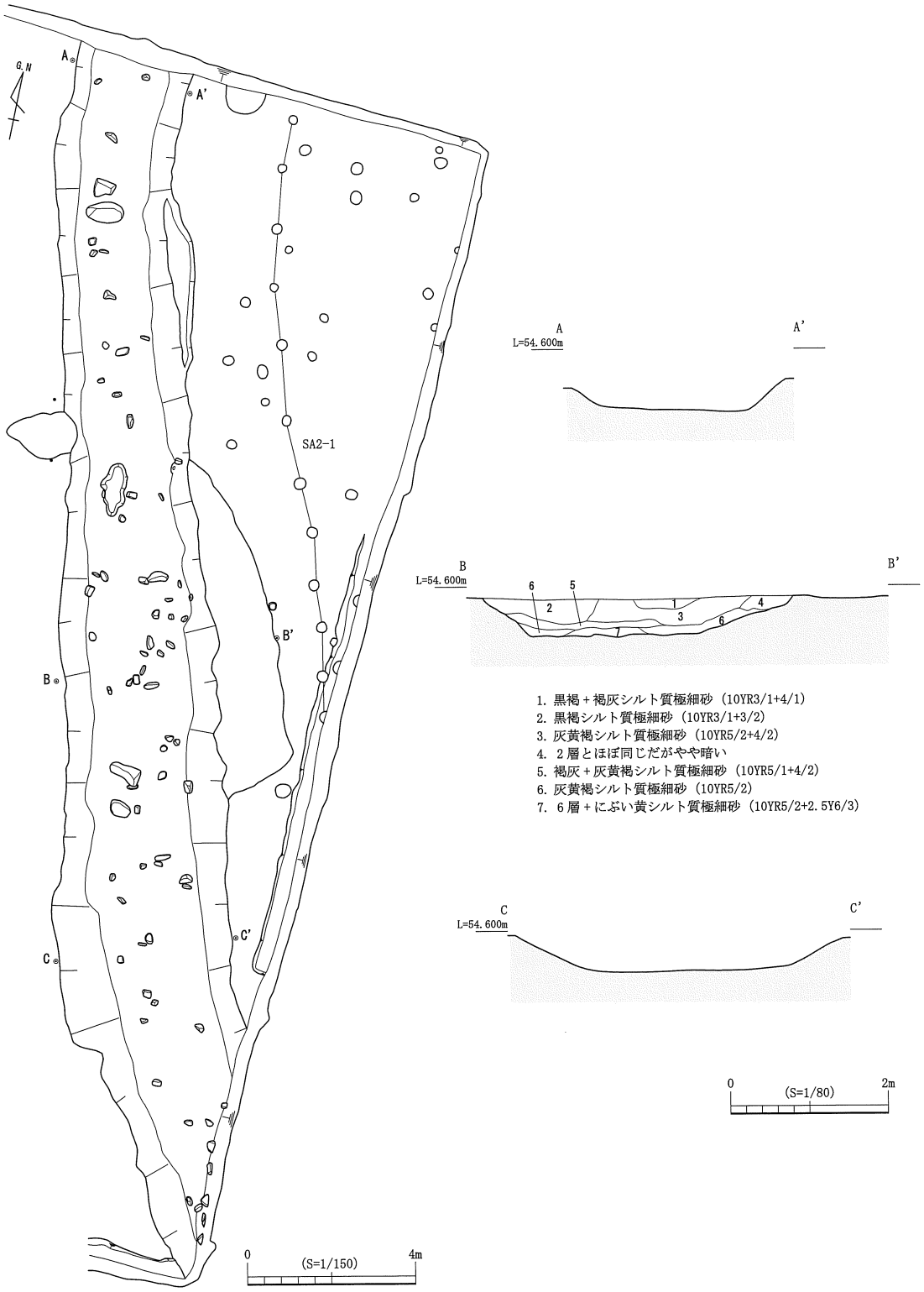
31・32（第39図）は壺である。31は口縁部が緩やかに広く開き、口縁端部に面を持つ。頸部には３条のヘラ描き沈線を施す。内外面ともに摩滅のため調整は不明である。32は口縁部が緩やかに開き、口縁端部を丸く納める。内面には貼付突帯を有する。内外面ともに摩滅が著しいが、外面にはヘラミガキ、内面にはナデと指オサエが部分的に見られる。

33・34（第39図）は甕である。33は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には４条のヘラ描き沈線を施す。貼付口縁には指頭圧痕が残る。34は如意状口縁のもので、口縁端部に刻み目を施す。外面の調整は指オサエとナデ、内面は横方向と縦方向のナデが施される。

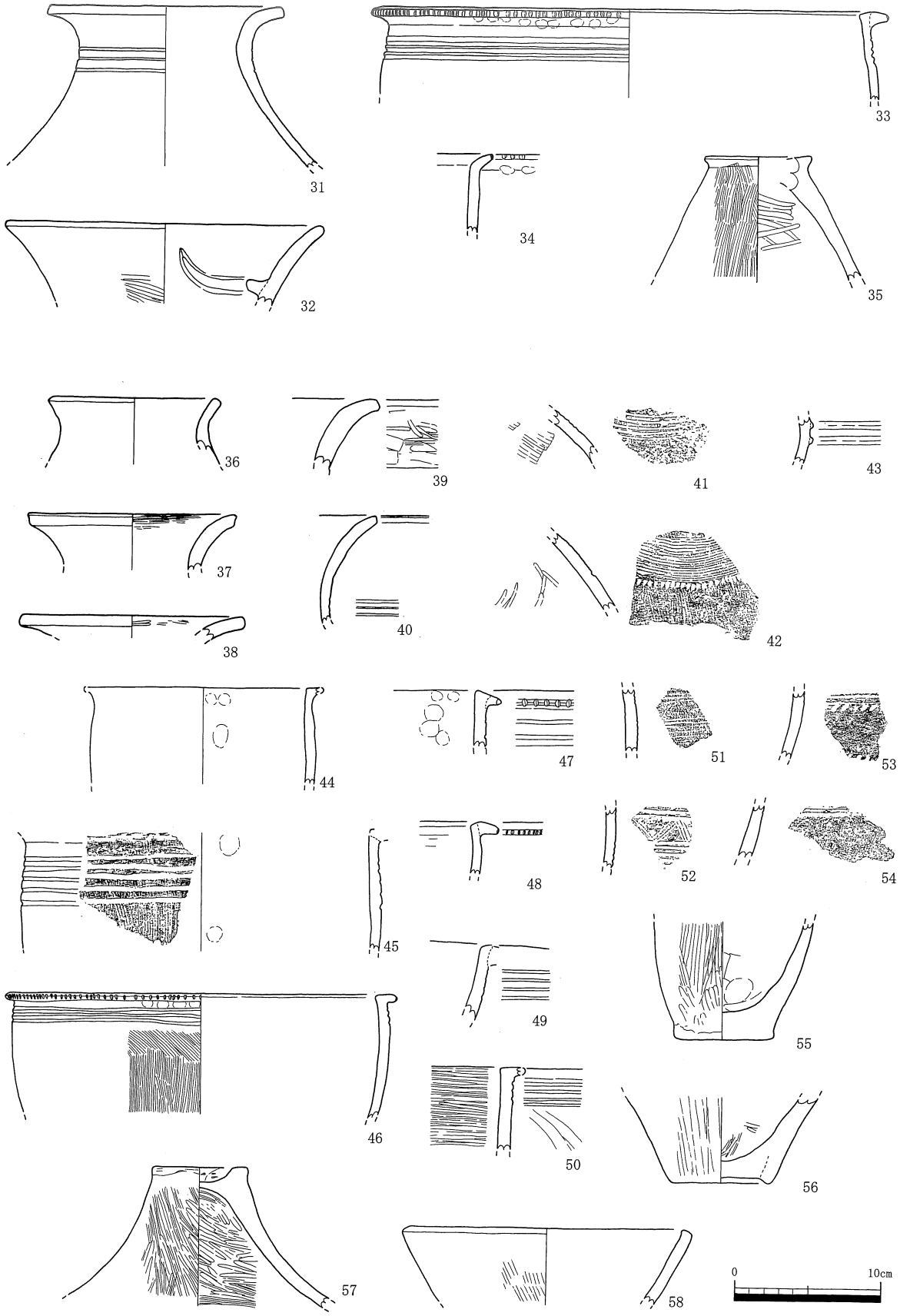
35（第39図）は蓋であり、直線的に広がる体部である。外面は縦方向のハケ、内面はナデ・横方向のヘラミガキが施される。

36～58は上～中層から出土した弥生土器である。

36～43（第39図）は壺である。36は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部は面を持つ。調整は内




第38図　ＳＤ２－１平・断面図




第39図　ＳＤ２－１遺物実測図（１）

外面ともにナデが施される。37 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。口縁部内面に沈線状の浅い筋が見られる。外面は板ナデ後にナデ、内面はヘラミガキ・ヘラナデが施される。38 の口縁部は大きく水平方向に広がり、外面はナデ、内面にはナデ・ヘラミガキが施される。39 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部には１条のヘラ描き沈線が残存する。外面の調整は板ナデ後にヨコナデ・ヘラミガキが施される。40 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は僅かな面を持つ。頸部には３条のヘラ描き沈線を施す。内外面ともに剥離が著しい。41 は体部上半であり、外面に５条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はナデ、内面はハケが施される。42 は体部上半であり、外面には７条１単位の櫛描直線文と１条の刺突文を施す。外面の調整はハケ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。43 は体部上半であり、２条の貼付突帯を施す。

44 ～ 56（第 39 図）は甕である。44 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有するが、口縁端部を欠損する。外面の調整は縦方向の板ナデ・ナデ、内面は指頭圧痕の跡にナデが施される。45 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部は接合痕において剝離する。口縁直下に５条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は縦方向のハケの後にナデが施される。46 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下に３条のヘラ描き沈線を施す。体部はやや湾曲し、外面の調整は縦方向のハケが施される。47 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には３条のヘラ描き沈線を施す。48 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面をやや傾斜させる長い断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。体部はやや湾曲する。49 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、貼付口縁は接合痕で剝離している。口縁直下には４条のヘラ描き沈線を施す。50 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部を欠損する。口縁直下に４条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整は横方向の密なヘラミガキが施される。51 は体部上位であり、ヘラ描き沈線と山形文を施す。外面の調整はハケが薄く残る。52 は体部上位であり、ヘラ描き沈線と山形文を施す。53 は体部上位であり、ヘラ描き沈線と刺突文を施す。外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。54 は体部上位であり、ヘラ描き沈線により削出突帯風になる。55 は底部であり、器形が歪である。外面の調整は縦方向のハケとヘラミガキ、内面は指オサエ・ナデ・指ナデ・板ナデが施される。底面の中心部はナデ、周辺は未調整である。56 はやや上げ底の底部であり、断面に接合痕が見える。外面の調整は縦方向のヘラナデ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。

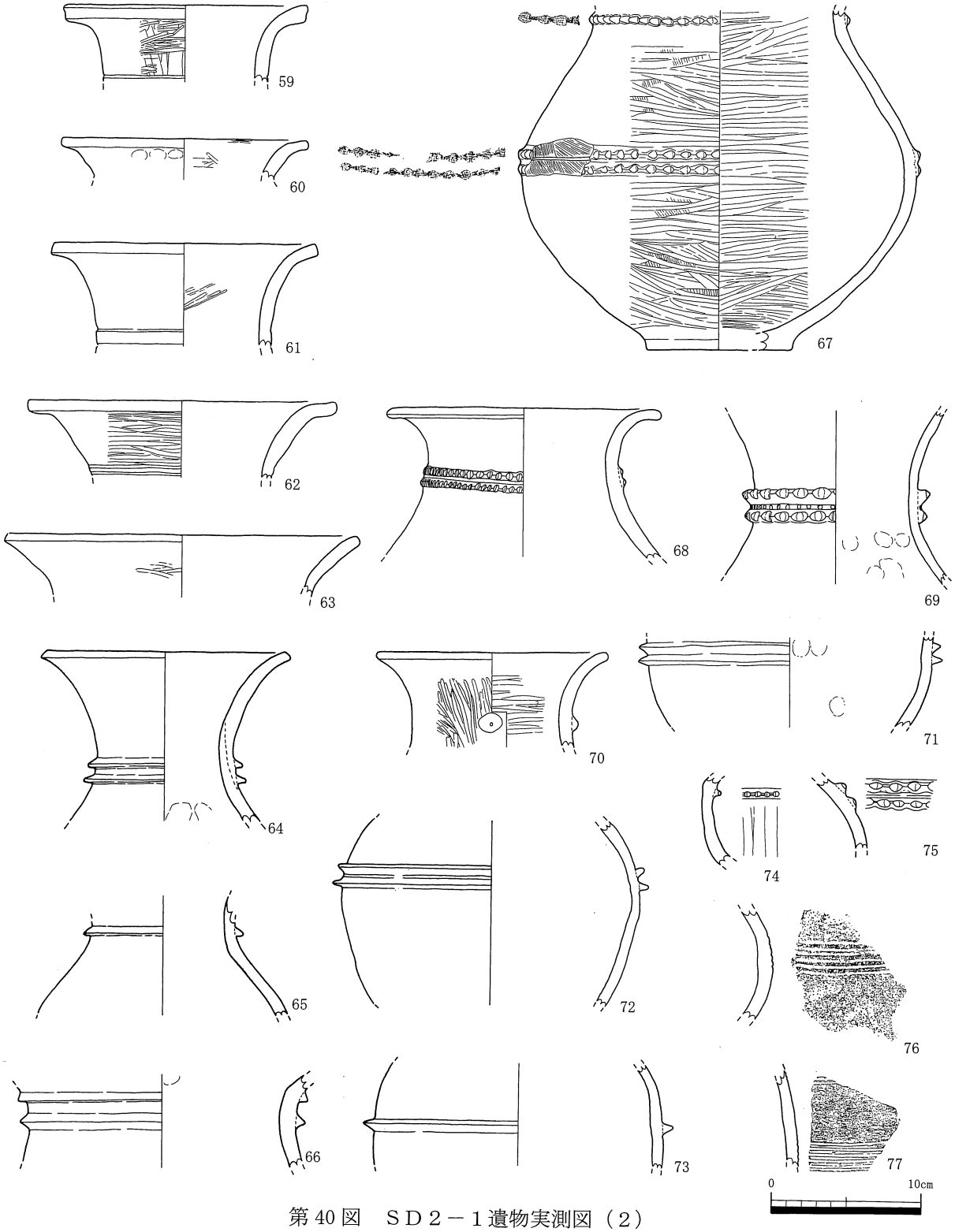
57（第 39 図）は蓋である。天井部外面は窪み、体部は緩やかに湾曲して開く。体部内外面の調整は密なヘラミガキが施され、天井部外面はヘラケズリ、内面は指オサエ後にヘラミガキが施される。

58（第 39 図）は鉢であり、口縁端部を僅かにつまみ上げる。

59 ～ 124 は中層から出土した弥生土器である。

59 ～ 84（第 40・41 図）は壺である。59 は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に１条のヘラ描き沈線を施す。口縁部外面の調整は指オサエ・板ナデの後にヘラミガキが施され、頸部外面は板ナデが施される。60 は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部を丸く納める。外面の調整は指オサエ後にヨコナデ、内面は摩滅が著しいがヘラミガキが部分的に残る。61 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に１条の削出突帯を施す。外面の調整はナデ、内面は摩滅するが部分的にヘラミガキが見える。62 は口縁端部が水平方向に広がり、頸部に２条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は密なヘラミガキが施される。63 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。64 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部には断面三角形の貼付突帯を２条有する。口縁部内外面の調整はナデ・ヨコナデ、頸部内面は指オサエが施される。接合痕が明瞭に見える。65 は頸部に断面三角形の貼付突帯を１条有する。体部外面はナデ、内面は指頭圧痕の

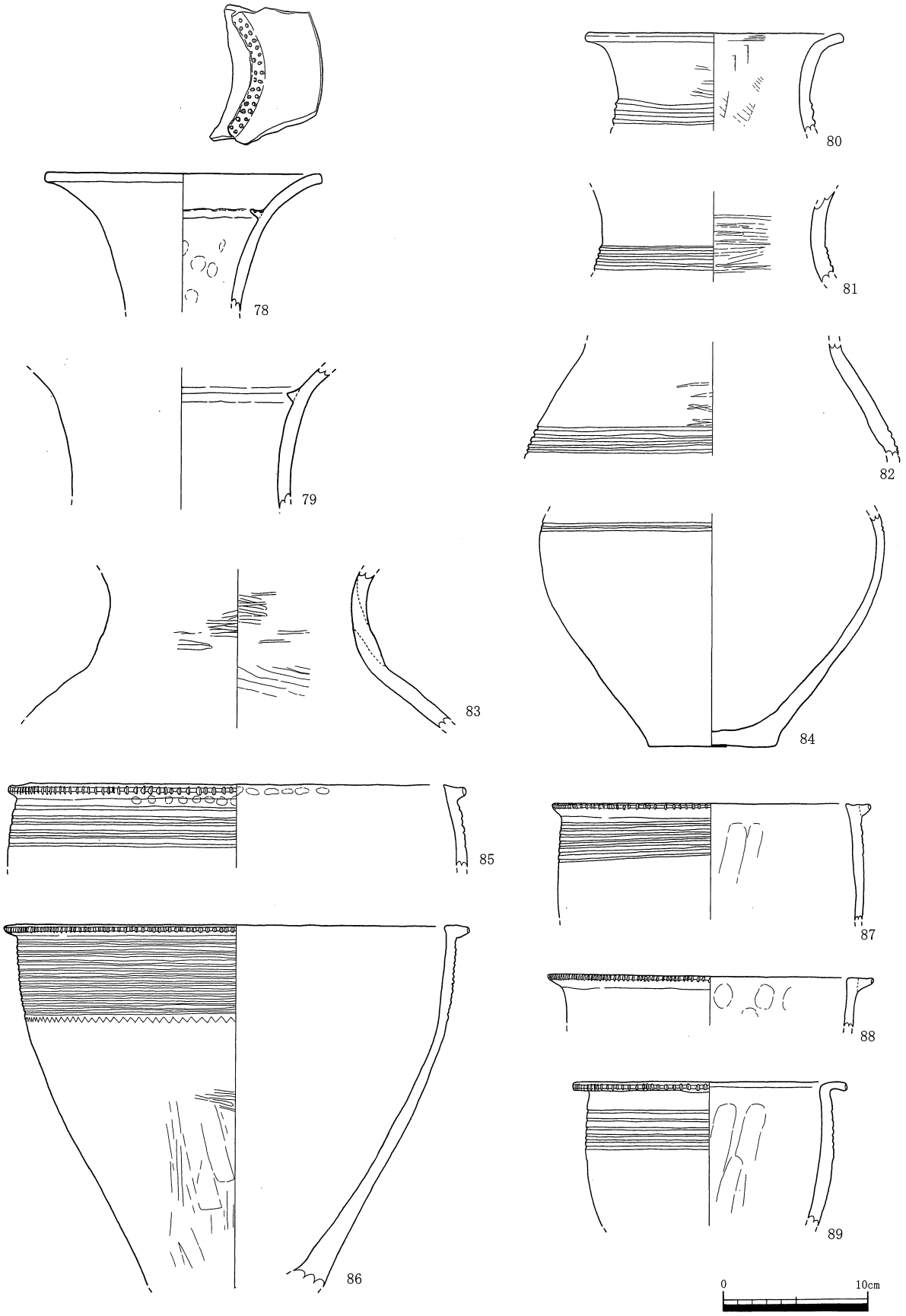
後にナデが施される。66 は頸部に断面三角形の貼付突帯を２条有する。67 は口縁部を欠損する。頸部と体部最大径部に指頭圧痕を施す貼付突帯が見られる。外面の調整はハケ後に密なヘラミガキ、内面は密なヘラミガキが施される。体部最大径部の貼付突帯の下には沈線が基準として１条施される。68 は口縁端部が水平方向に広がり、頸部に２条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。調整は内外面ともにナデが施される。69 は頸部に２条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。突帯の間には円形刺突文がある。外面の調整はナデ、内面はナデ・指オサエが施される。70 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は丸く納める。外面に円錐形の浮文を１個有する。外面の調整は縦方向のヘ




第 40 図　ＳＤ２－１遺物実測図（２）

ラミガキ、内面は横方向のナデ・ヘラミガキが施される。71 は体部下半であり、最大径部に断面三角形の貼付突帯を２条廻らす。突帯付近の調整はヨコナデが施される。72 は体部中位であり、最大径部に断面やや長い三角形の貼付突帯を２条廻らす。突帯付近の調整はヨコナデが施される。73 は体部中位であり、最大径部に断面三角形の貼付突帯を１条廻らす。74 は頸部に刻み目のある貼付突帯を１条廻らす。外面の調整は縦方向のナデが施される。75 は体部上位であり、指頭圧痕を施す貼付突帯が２条見られる。76 は体部中位であり、ヘラ描き沈線を６条施す。77 は体部中位であり、２条以上と６条以上の２段のヘラ描き沈線を施す。内外面の調整はヘラミガキが施される。78 は口縁部が緩やかに大きく広がり、口縁端部は面を持つ。内面に２列の円形刺突文を施す貼付突帯が廻る。外面の調整はナデ、内面は指オサエ後にナデが施される。79 は内面に断面三角形の貼付突帯を１条廻らす。80 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は丸く納める。頸部に削出突帯を３条施す。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はハケ後にナデが施される。81 は頸部であり、４条の削出突帯を施す。外面の調整はナデ、内面は横方向のヘラミガキが施される。82 は体部上半であり、４条の削出突帯を施す。外面の調整は部分的にナデ・ヘラミガキ、内面はナデが施される。83 は体部上位から頸部であり、頸部内外面の調整はナデ・ヘラミガキ、体部外面は摩滅、内面はヘラナデが施される。断面に輪積み痕が明瞭に見える。84 は底部から体部中位であり、最大径部に２条のヘラ描き沈線を施す。底面の調整は指オサエ後にナデが施される。

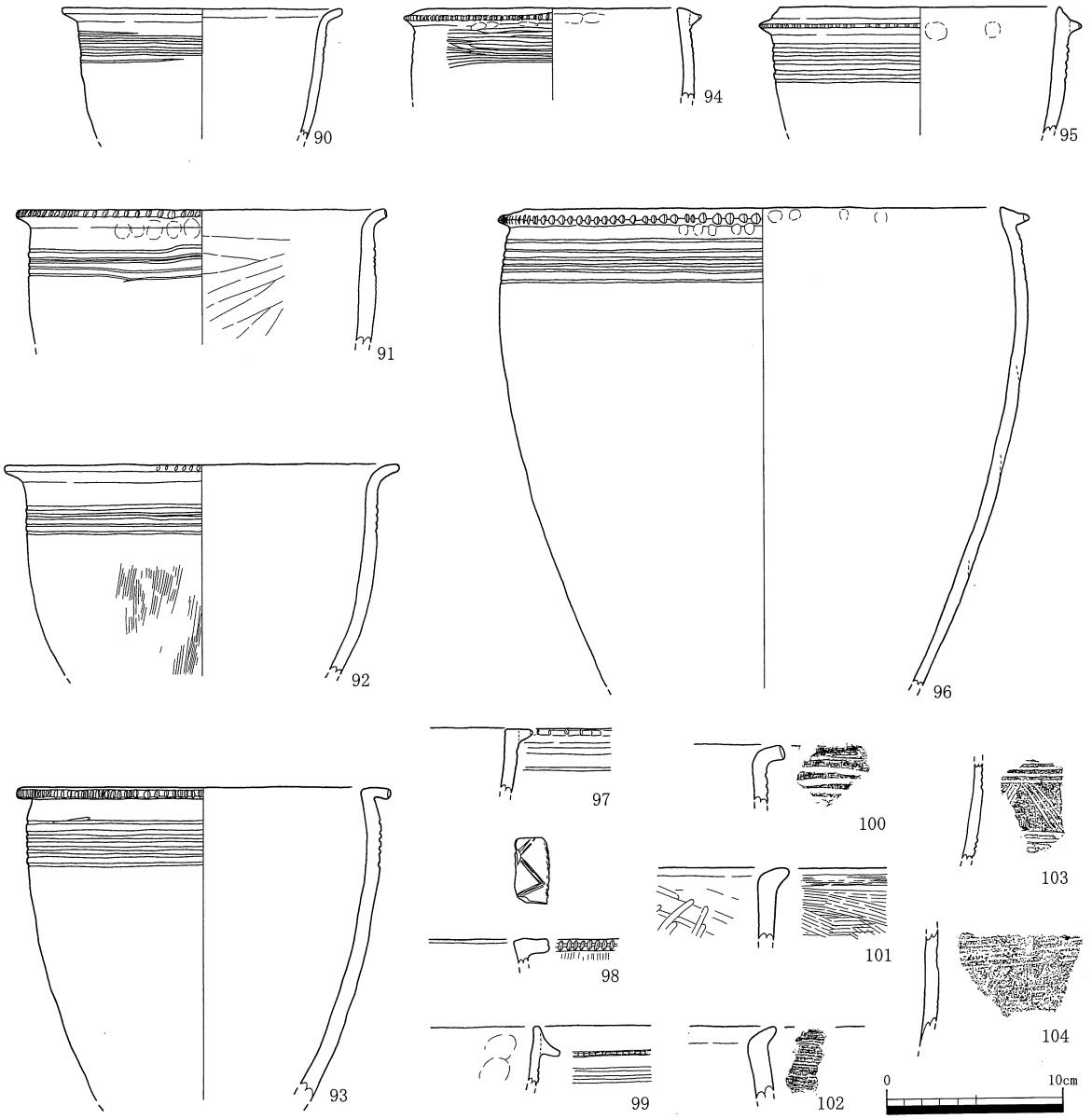
85 ～ 104（第 41・42 図）は甕である。85 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面をやや傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。口縁直下に６条のヘラ描き沈線を施す。口縁部内外面に指オサエが残る。86 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有し、底部を欠損する。口縁直下に 15 条のヘラ描き沈線と１条の山形刺突文を施す。体部下半の調整は板ナデ・ヘラミガキが施される。87 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下に７条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はナデ、内面は指ナデ後にナデが施される。88 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。貼付口縁の接合痕が明瞭に残る。外面の調整は縦方向のナデ、内面は指オサエ後にナデが施される。89 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁端部に刻み目を、口縁下に６条のヘラ描き沈線を施す。口縁部外面には指オサエが見られる。90 は如意状口縁のもので、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。内外面の調整はナデが施される。91 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を施す。口縁直下には４条の櫛描き直線文を施す。口縁部外面に指オサエ、体部内面にヘラナデが施される。92 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁下に４条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整はハケ後にナデ、内面はナデが施される。93 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁端部に刻み目を、口縁下に６条のヘラ描き沈線を施す。最上の沈線にはヘラの始点と終点が見られる。体部外面は摩滅、内面の調整は板ナデ・ナデが施される。94 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には７条以上のヘラ描き沈線を施す。沈線は重なり合う部分がある。内外面の調整はナデが施され、口縁部内面には指オサエが残る。95 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には小さな刻み目が施される。突帯直下には５条のヘラ描き沈線を施す。96 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向の板ナデ、内面は板ナデ・ナデが施される。輪積み痕が明瞭に残る。97 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には小さな刻み目を、口縁直下に１条のヘラ描き沈線を施す。98 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面四角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁部の水平面にヘラ描き山形文を施す。99 は直立する口縁のもので、口縁部




第41図　ＳＤ２－１遺物実測図（３）

直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には小さな刻み目が施される。突帯直下には３条のヘラ描き沈線を施す。100 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に４条のヘラ描き沈線を施す。101 は如意状口縁のもので、口縁部は短い。外面の調整は横方向のハケ、内面は板ナデ・ヘラミガキが施される。102 は如意状口縁のもので、口縁部は短い。口縁部直下には櫛描き直線文を施す。103・104 は体部片であり、外面にヘラ描き沈線とヘラ描き山形文が施される。

105 ～ 114（第 43 図）は底部である。105 の底部中心部は未調整である。106 の外面の調整はナデ・密なヘラミガキ、内面はナデ後にヘラミガキ、指ナデが施される。107 は底径 11.4 ㎝を測り、左右非対称な器形をなす。底部は未調整で、イネ籾のスタンプ痕が付いている。108 は歪な底部で、体部は急角度で立ち上がる。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデが施される。109 は底部の器壁が厚く、外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデが施される。底部は未調整で、イネ籾のスタンプ痕が付いている。110 の外面調整は縦方向のハケ、内面はナデが施され、底部にはイネ籾のスタンプ痕が付いている。111 は底径 12.2 ㎝を測り、体部内外面の調整はナデ、部分的にヘラミガキが施される。112 は体部が外反気味に急角度で立ち上がる。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデ・指ナデが施される。113 は体部が



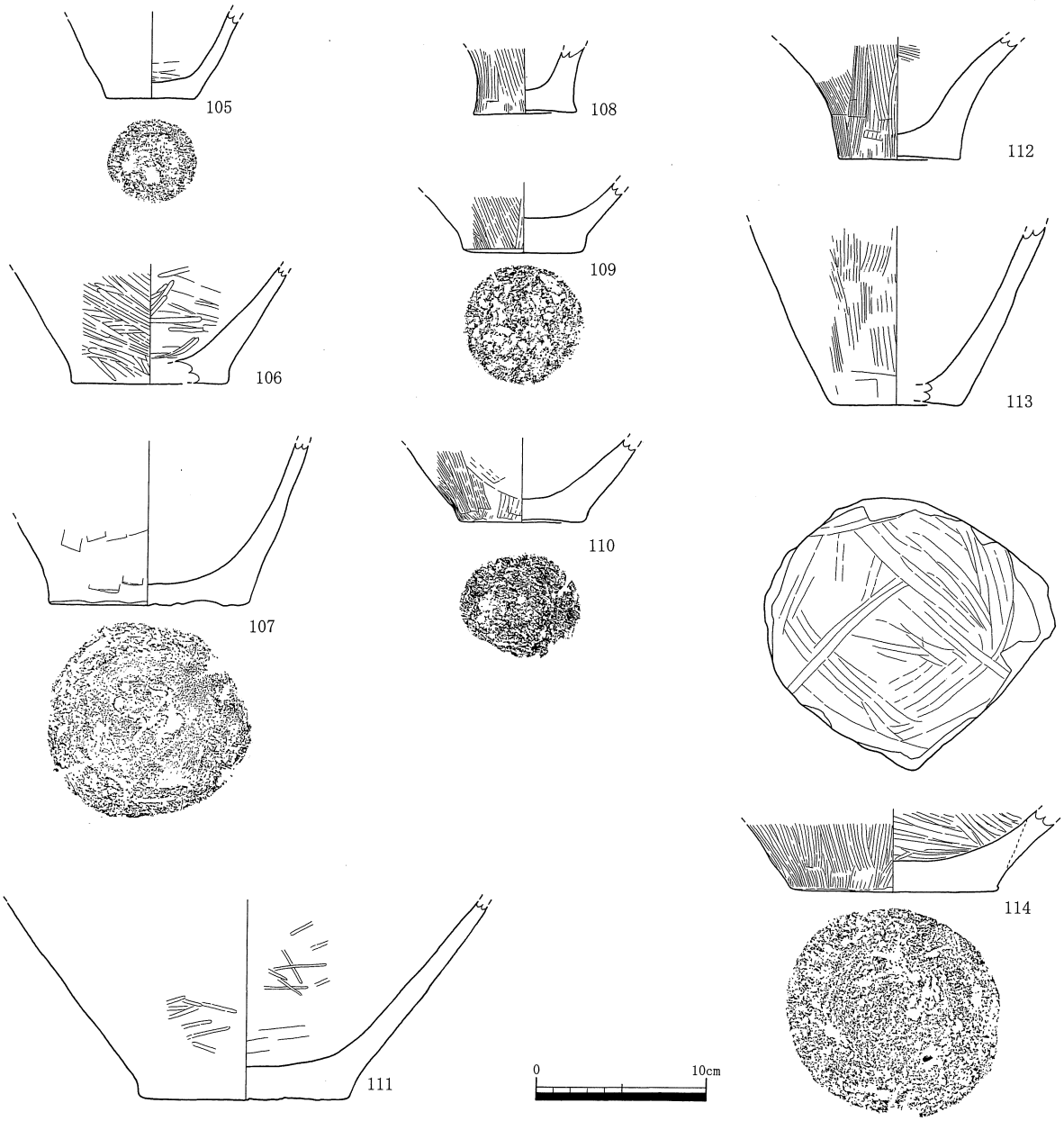

第 42 図　ＳＤ２－１遺物実測図（４）

急角度で立ち上がる。外面の調整はハケ・ナデ、内面はナデが施される。114 は底径 12.2cm を測り、外面の調整は縦方向のハケ、内面は指オサエ・ナデの後にヘラミガキが施される。底部は未調整で、イネ籾のスタンプ痕が付いている。輪積み痕が明瞭に残る。

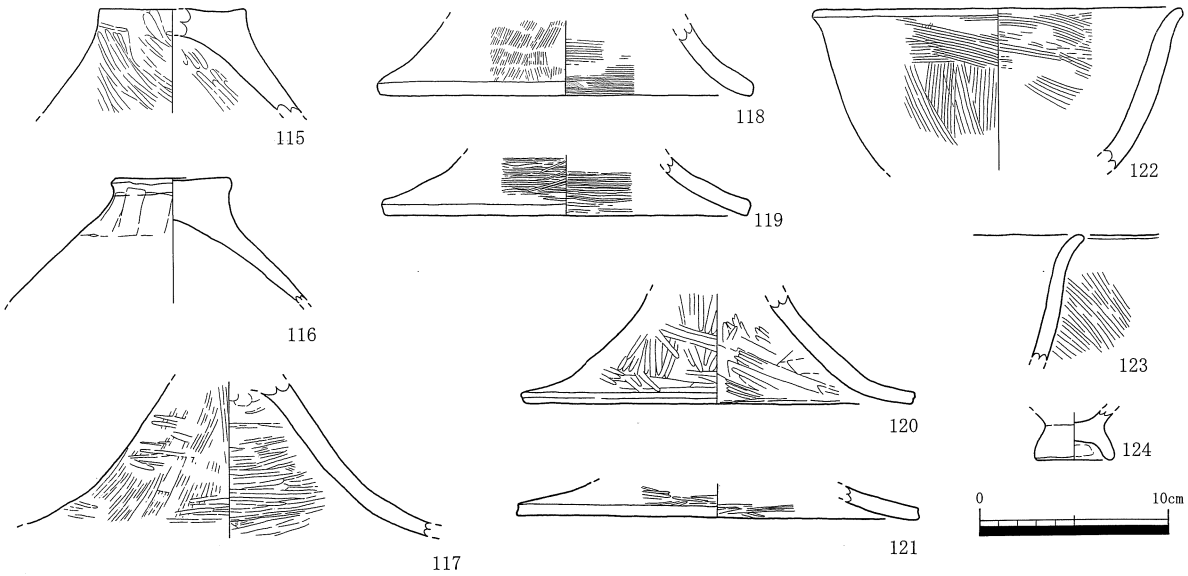
115 ～ 121（第 44 図）は甕蓋である。115 は内外面ともに縦方向のヘラミガキが施される。116 は外面にヘラナデ・ナデ、内面にナデが施される。117 は直線的に開いた後、口縁部付近で強く開く。外面の調整は縦方向のハケ後に部分的にヘラミガキ、内面は指オサエ・板ナデの後に密なヘラミガキが施される。118 は口縁部付近でやや開く。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデ・ハケが施される。119 は内外面ともに密なヘラミガキが施される。120 は直線的に開いた後、口縁部付近で強く開く。外面の調整はナデ･ヘラミガキ､内面は板ナデの後に部分的にヘラミガキが施される。121 は口縁部で強く開く。内外面の調整はヘラミガキが施される。

122･123（第 44 図）は鉢である。122 は口縁部が短く外反し、内外面の調整はナデ･ハケが施される。123 は口縁部が外反し、外面の調整はハケ、内面は指オサエ後にナデが施される。

124（第 44 図）は高杯であり、脚部外面の調整はナデ、内面はナデ・指オサエが施される。




第 43 図　ＳＤ２－１遺物実測図（５）



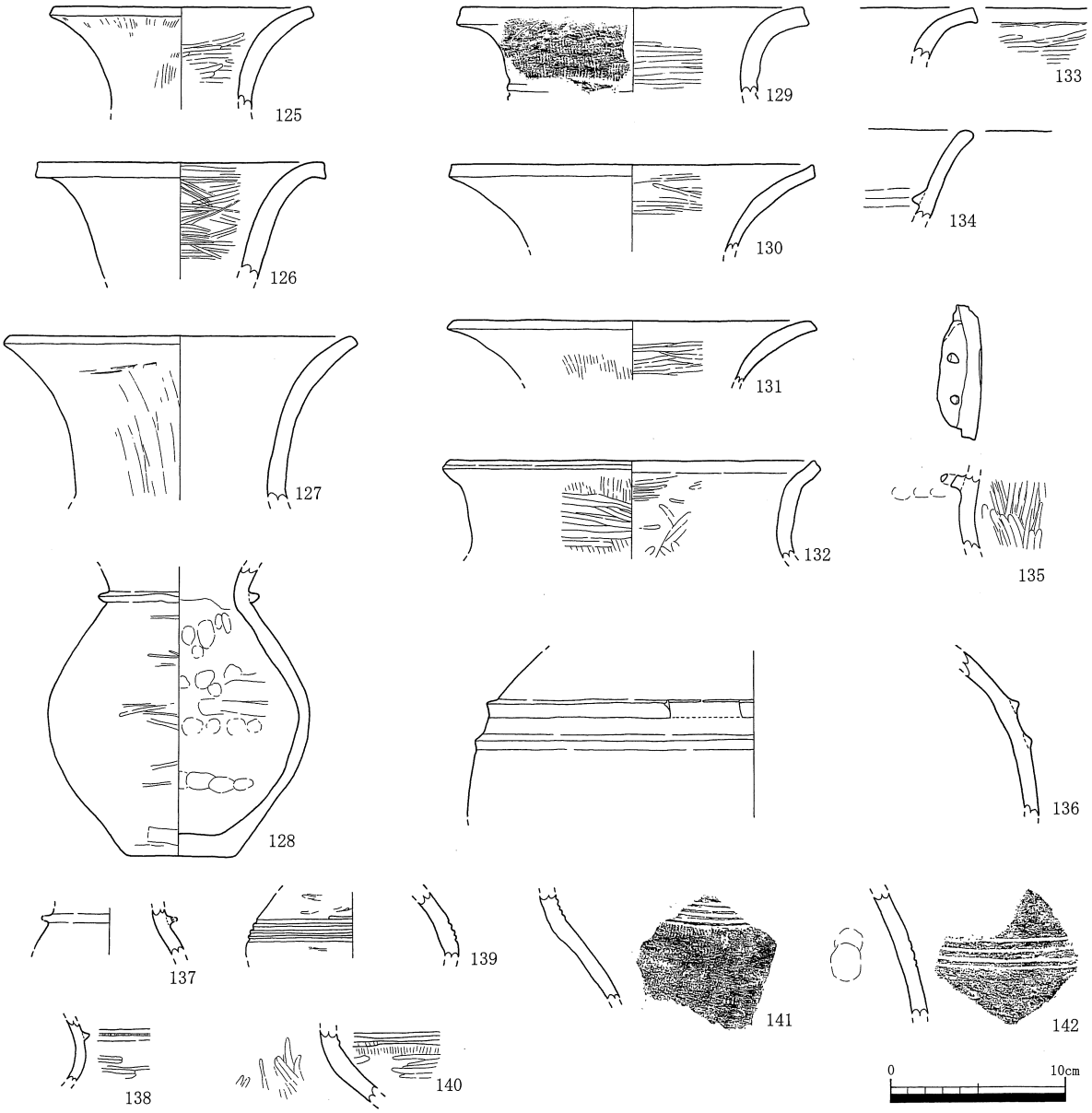

第44図　ＳＤ２－１遺物実測図（６）

125～178は下層～最下層から出土した弥生土器である。

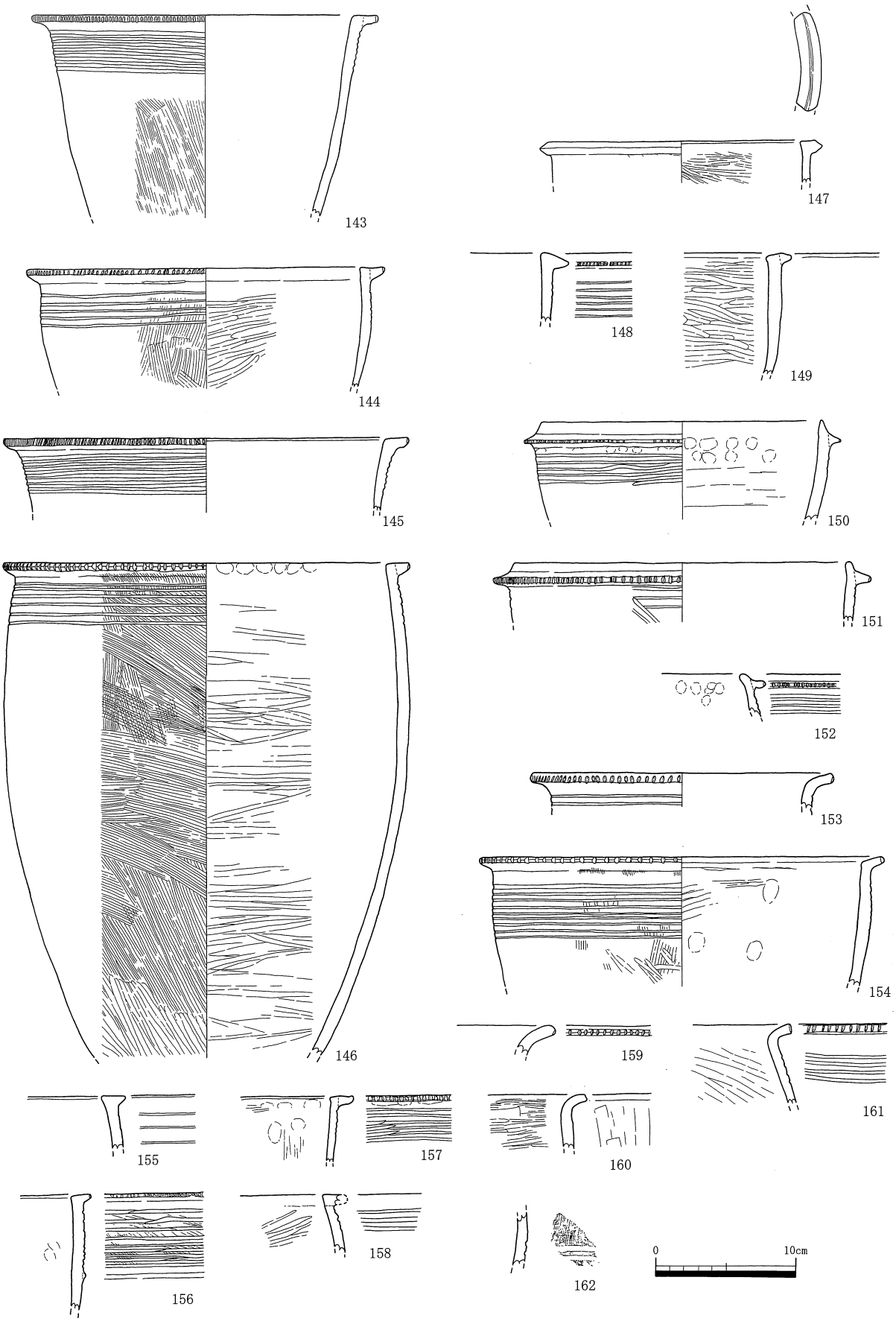
125～142（第45図）は壺である。125は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は縦方向のハケ後にヨコナデ、内面はヘラミガキが施される。126は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は水平に広がり面を持つ。外面は摩滅するが部分的にナデが見られ、内面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。127は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は板ナデ、内面はナデが施され、外面には工具痕が残る。128は口縁部を欠損する。最大径を体部中央に持ち、頸部に断面三角形の貼付突帯を施す。体部外面の調整はナデ・ヘラミガキ、底部近くは板ナデが施される。内面は指オサエ・指ナデ・ナデ、底面は１方向の指ナデが施される。129は口縁部が広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に削出突帯を施す。外面の調整はハケ後に若干のヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。130は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整はナデ、内面はナデ後にヘラミガキが施される。131は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は縦方向のハケ後にナデ、内面はヘラミガキが施される。132は口縁部が僅かに広がり、口縁端部付近で外に広がる。外面の調整はハケ後にナデ・ヘラミガキ、内面はヨコナデ・部分的にナデが施される。133は口縁端部が面を持ち、外面の調整はヘラミガキが施される。134は口縁部が緩やかに広がり、内面に断面三角形の貼付突帯を有する。135は頸部であり、内面に２個の孔のある把手状の貼付突帯を有する。外面の調整はヘラミガキが施される。136は体部上半であり、外面に断面三角形の貼付突帯を２条有する。突帯を欠損する部分では貼り付ける際に基準とした１条の沈線が見られる。外面の調整はヨコナデ、内面はナデが施される。137は頸部に断面三角形の貼付突帯を１条施す。138は体部中位であり、細かな刻み目のある貼付突帯を１条施す。139は体部上半であり、４条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は部分的にヘラミガキ、内面はナデが施される。140は頸部に１条の削出突帯を施し、141は５条の削出突帯を施す。142は３条のヘラ描き沈線を施す。

143～162（第46図）は甕である。143は逆「Ｌ」字状口縁のもので、体部は直線的である。口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には７条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向のハケ後にナデ、内面はナデが施される。144は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、

口縁直下には５条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向のハケ、内面はヘラミガキが施され、口縁直下に工具痕が残る。145 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、体部は直線的である。口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には７条のヘラ描き沈線を施す。146 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、体部は長胴である。口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整はハケ、底部近くはヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。口縁部内面に指オサエが残る。147 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下に工具痕が残り、内面はヘラミガキが施される。148 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。149 は「Ｌ」字状口縁のもので、断面三角形の貼付口縁を有する。外面の調整はナデ、内面はヘラミガキが施される。150 は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には細かな刻み目が施される。突帯直下には５条のヘラ描き沈線を施す。突帯直下と内面に指オサエが残る。151 は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面が長い三角形の貼付突帯を有する。突帯




第 45 図　ＳＤ２－１遺物実測図（７）




第46図　ＳＤ２－１遺物実測図（８）

の先端には刻み目が施される。突帯直下には３条のヘラ描き沈線と山形文を施す。152 は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面が長い三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には細かな刻み目が施される。突帯直下には４条のヘラ描き沈線を施す。内面に指オサエが残る。153 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に２条のヘラ描き沈線を施す。154 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に９条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はハケ後にヘラミガキ、内面は指オサエ後にヘラナデ・ヘラミガキが施される。155 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下にヘラ描き沈線を広い間隔で３条施す。156 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には９条のヘラ描き沈線を施す。沈線直下には断面三角形の貼付突帯を有する。沈線はヘラ描きの始点と終点が見られる。157 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。沈線はヘラ描きの終点が見られる。158 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部は欠損し、口縁直下には３条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整はヘラミガキが施される。159 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を施す。160 は如意状口縁のものである。161 は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に４条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整は板ナデが施される。162 は２条のヘラ描き沈線と山形刺突文を施す。

163 ～ 172（第 47 図）は底部である。163 は平底で、外面の調整は縦方向のハケ、底部と内面はナデが施される。164 はやや上げ底であり、外面の調整はナデ・ヘラナデ、内面はナデ・指ナデ、底部はナデが施される。内面に工具痕が残る。165 は平底で、接合痕が残る。内外面の調整はナデが施される。底部にイネ籾のスタンプ痕が付いている。166 はやや上げ底であり、外面の調整は板ナデ、内面は指オサエ後にナデ・ヘラミガキが施される。底部は中央に「＋」状のヘラ記号が見られる。167 は平底で、内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。168 は平底で、底部の器壁が厚い。外面の調整はヘラケズリ後に板ナデ、内面はナデ、内面中央は１方向の指ナデが施される。169 はやや上げ底気味の底部であり、内外面の調整はナデ後にヘラミガキが施される。底部はヘラケズリが施され、イネ籾のスタンプ痕が付いている。170 はやや上げ底気味の底部であり、外面の調整はナデ後にヘラミガキ、内面はナデ・指オサエが施される。底部にイネ籾のスタンプ痕が付いている。171 は復元底径 16.4cm であり、体部は緩やかな傾斜で立ち上がる。内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。底部周縁はヘラケズリ、中央はナデが施される。172 は復元底径 11.2cm の平底で、体部は緩やかな傾斜で立ち上がる。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はナデ・指オサエ、底部は指オサエが施される。

173 ～ 176（第 47 図）は甕蓋である。173 は天井部の破片であり、外面の調整は板ナデ、内面はナデが施され、工具痕が残る。174 は天井部の破片であり、外面中央が窪む。接合痕が明瞭に見える。175 は天井部の破片であり、器壁が厚い。内外面に指オサエが残り、接合痕が見える。176 は天井部外面が広く窪み、体部は直線的に開く。天井部の器壁は厚く、接合痕が見える。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はナデが施される。

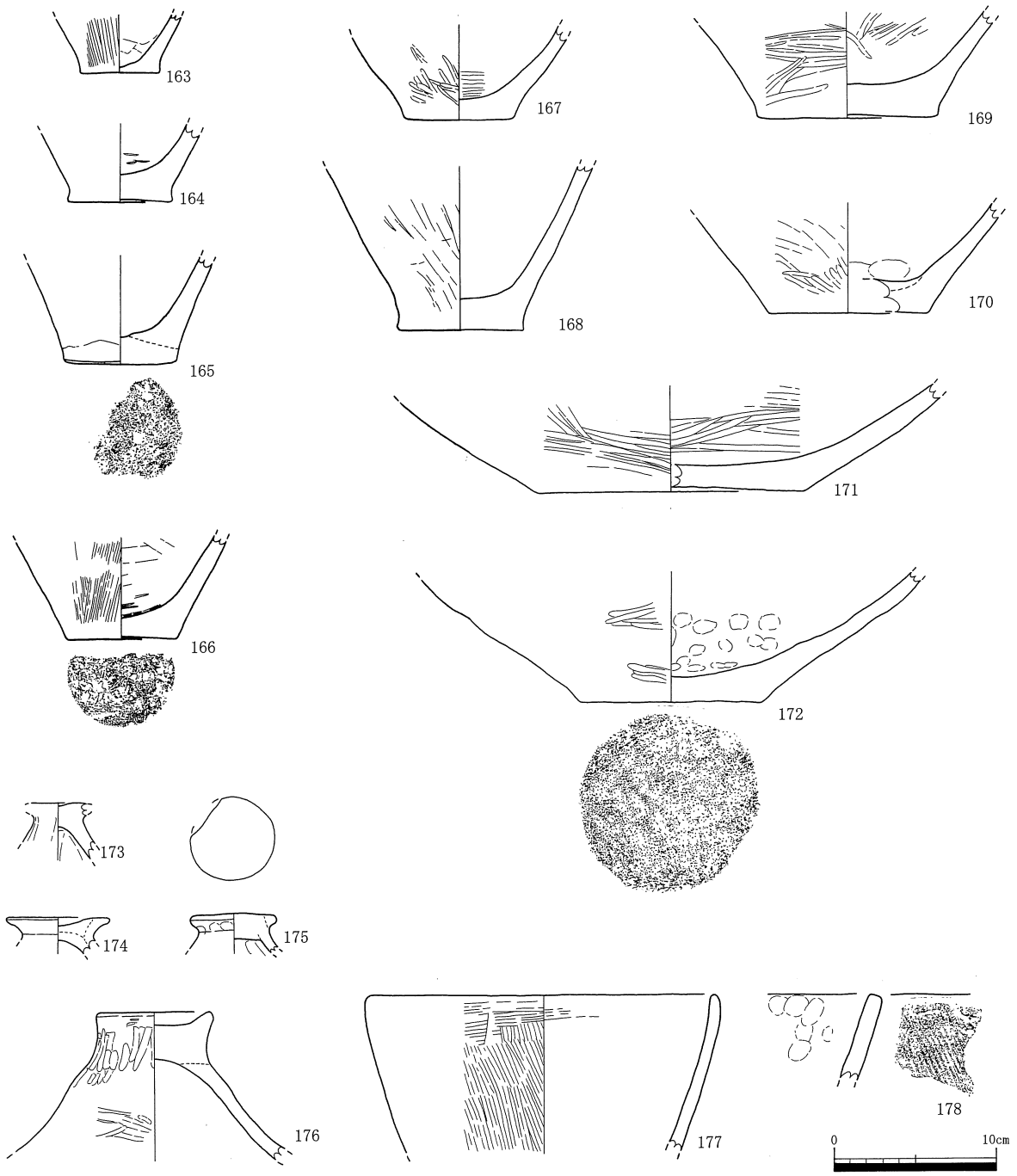
177・178（第 47 図）は鉢である。177 は直線的な体部からそのまま口縁部となる。外面の調整は横方向と縦方向のハケが施され、内面は摩滅するが僅かに板ナデが残る。178 は外面の調整がハケ、内面が指オサエ後にナデである。

179 ～ 197 は側溝出土の弥生土器と出土した土層が不明の弥生土器である。

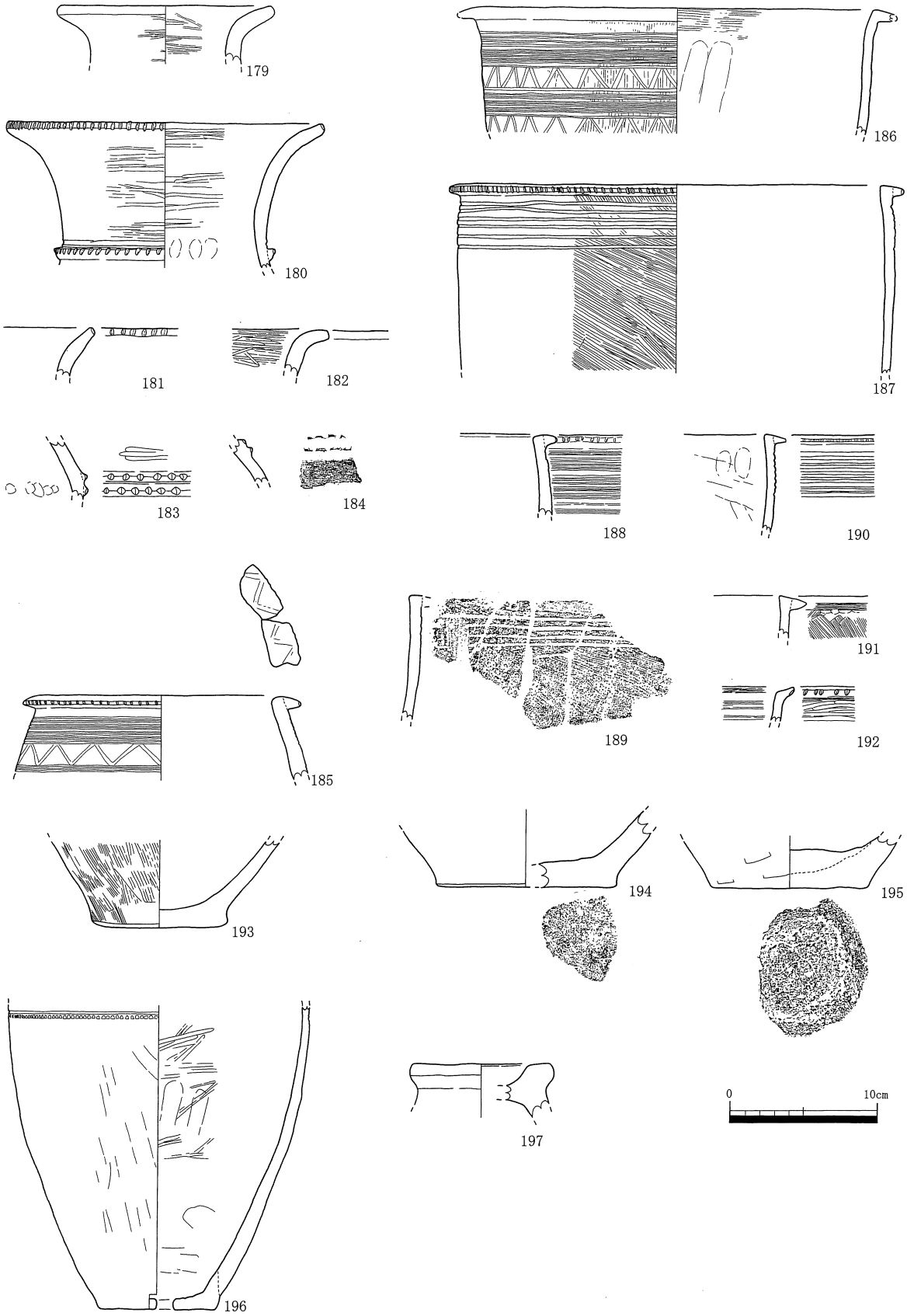
179 ～ 184（第 48 図）は壺である。179 は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部を丸く納める。内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。180 は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は刻み目を施す。頸部に刻み目のある断面三角形の貼付突帯を１条施し、突帯直上には１条のヘラ描き沈線を施す。内外

面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。181 は口縁部が短く広がり、口縁端部に刻み目を施す。182 は口縁端部付近が大きく外反し、内面の調整は密なヘラミガキが施される。183・184 は体部上位の破片であり、２条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。

185 ～ 192（第 48 図）は甕である。185 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には小さな刻み目を、口縁直下には８条のヘラ描き沈線と山形文と３条以上のヘラ描き沈線を施す。口縁部にはヘラ描きの山形文を施す。186 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下には 10 条のヘラ描き沈線と山形文と８条のヘラ描き沈線と山形文を施す。外面の調整はハケ後にナデ、内面はハケ・ナデ・指ナデが施される。187 は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には６条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は斜め方向のハケ、内面




第 47 図　ＳＤ２－１遺物実測図（９）




第48図　ＳＤ２－１遺物実測図（10）

は指オサエ後にナデが施される。188 は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には 16 条の櫛描き直線文を施す。189 は逆「L」字状口縁のもので、貼付口縁を欠損する。口縁直下には４条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はハケ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。190 は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には８条のヘラ描き沈線を施す。191 は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。外面の調整はハケが施される。192 は如意状口縁のもので、口縁端部に刻み目を施す。内外面の調整はヘラミガキが施される。

193 ～ 195（第 48 図）は底部である。193 は平底で、断面に接合痕が残る。外面の調整はハケ、底部はナデが施される。194 は平底で、底部にイネ籾のスタンプ痕が付いている。195 は器壁の厚い平底で、底部にイネ籾のスタンプ痕が付いている。

196（第 48 図）は甑であり、底部中央に孔を有する。体部上位にヘラ描き沈線と三角形の刺突文を施す。外面の調整は板ナデ後にナデ、内面は指ナデ・ナデ・ヘラミガキが施される。

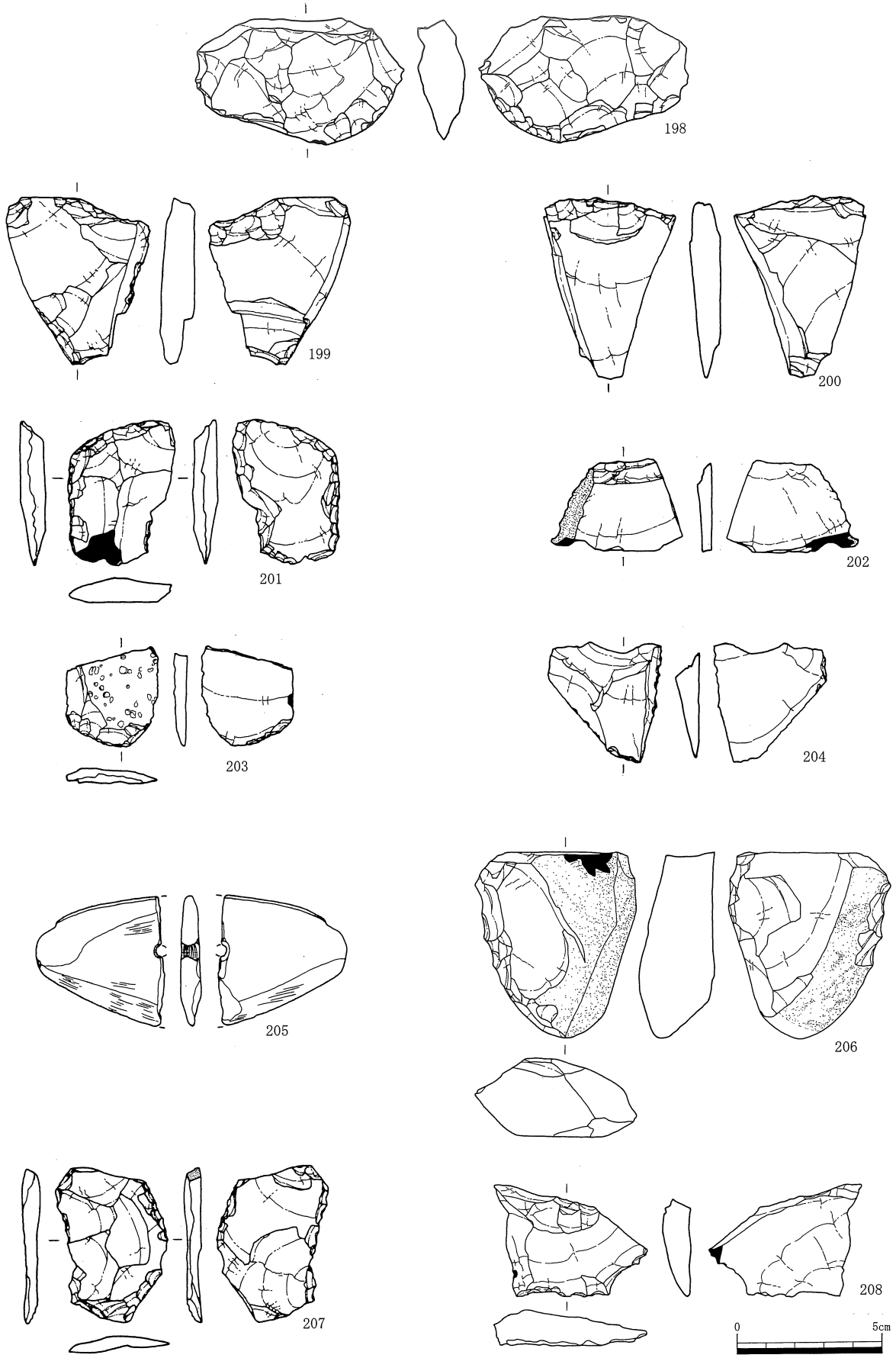
197（第 48 図）は甕蓋の天井部であり、外面が広く窪む。

198 ～ 204（第 49 図）は上～中層より出土した石製品であり、石材はすべてサヌカイトである。198 ～ 200 は楔形石器である。198 は横長剥片素材で、下端部に顕著な潰れが確認でき、階段状剥離と思われる剥離が一部にある。199・200 は板状石材を素材とし、上・下端部に潰れが確認できる。201・202 はスクレイパーである。201 の背部には背潰加工は認められず、刃部は背面側に調整が認められる。202 は側面に自然面を残し、刃部は欠損する。203・204 は微細剥離痕のある剥片である。203 は自然面を有し、二次加工痕がある。

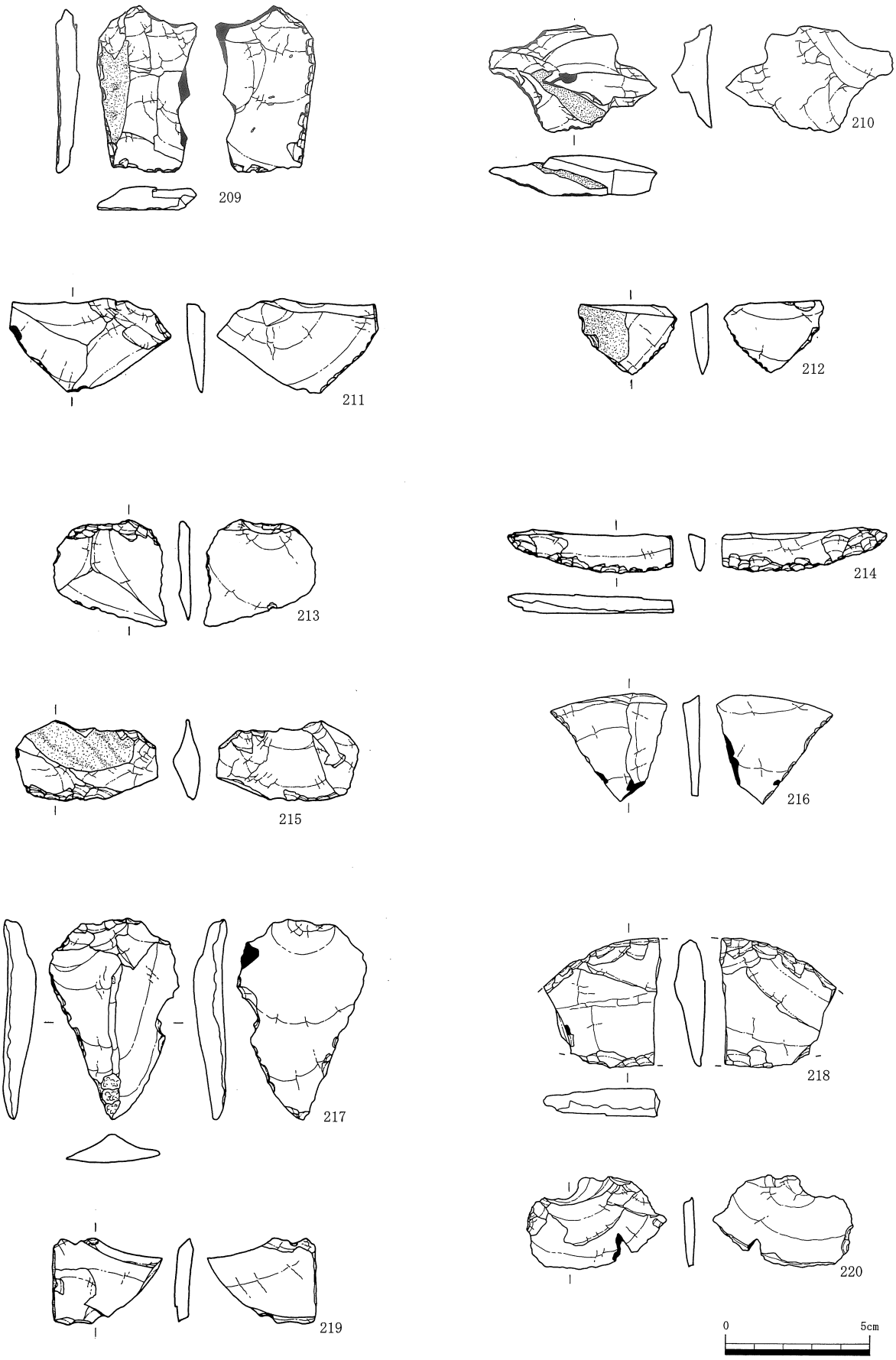
205 ～ 212（第 49・50 図）は中層より出土した石製品である。石材は流紋岩である 205 を除き、その他はサヌカイトである。205 は磨製石包丁で、背部と刃部が湾曲する杏仁形で、両刃である。紐部で欠損する。孔は両側から穿孔する。206 は打製石斧の剥片で、先端部に使用痕が確認できる。207 ～ 210 はスクレイパーである。207 は背部が自然面、刃部と両側辺に両面調整する。208 は背部の腹面側に調整、刃部の腹面側に微細剥離痕が確認できる。209 は刃部に微細剥離痕が確認でき、1 側辺に両面調整が確認できる。210 は不整形な形状を呈するが微細剥離痕が確認できる。211・212 は微細剥離痕のある剥片である。212 は階段状剥離が確認できる。

213 ～ 216（第 50 図）は下～最下層より出土した石製品である。石材はすべてサヌカイトである。213・214 はスクレイパーである。213 は背部に調整を施す。214 は横長剥片素材のスクレイパーで、刃部は両面に微細剥離痕が確認できる。215 は楔形石器で、腹面側に自然面を残し、上端部に微細剥離痕が確認でき、下端部は両面からの調整がある。216 は微細剥離痕のある剥片である。

217 ～ 220（第 50 図）は出土層が不明の石製品であり、石材はすべてサヌカイトである。217 はスクレイパーである。218 は打製石包丁で、両側辺を欠損している。背部には背潰加工が確認でき、刃部は両面調整が認められる。219 は打製石斧の剥片と考えられる。大きく折損しているため全体の形状は不明であるが、正面全面に使用痕が認められる。220 は二次加工痕のある剥片である。




第49図　ＳＤ２－１遺物実測図（11）




第50図　ＳＤ２－１遺物実測図（12）

ＳＤ２－２（第51図）

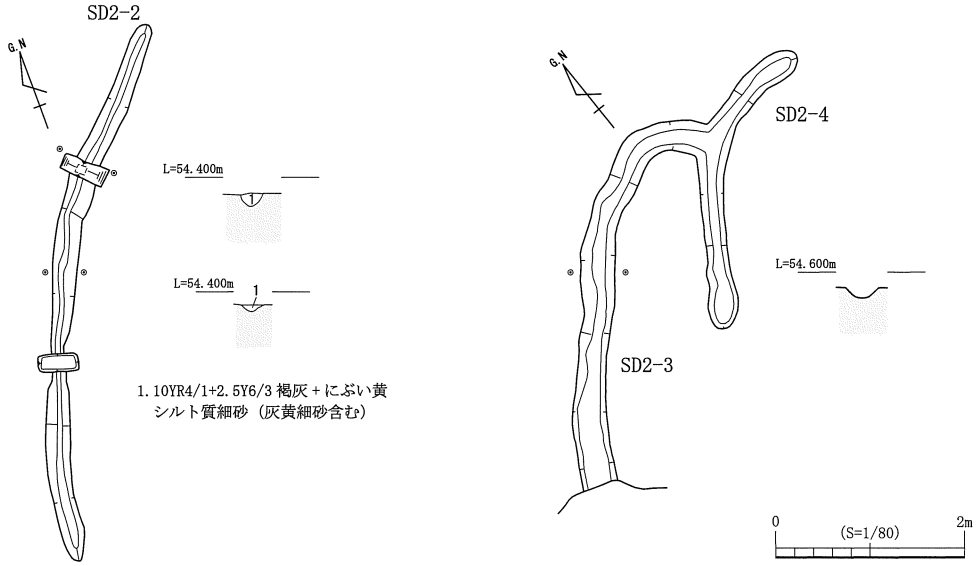
調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く堆積する帯状の砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.25ｍ前後である。溝の全長は5.83ｍ、幅は26cm、深さは９cmを測る。溝の方向はＮ－28°－Ｅであり、やや西側に湾曲しながら延びる。埋土は灰黄細砂を含む褐灰＋にぶい黄シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がＳＤ２－１に切られることからＳＤ２－１より古い時期と考えられる。

ＳＤ２－３（第51図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く帯状に堆積する砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.41～54.53ｍである。検出した全長は約4.50ｍ、幅は36cm、深さは８cmを測る。溝の方向はＮ－45°－Ｅであり、北端は東方に曲がり、ＳＤ２－４と合流する。埋土は灰黄細砂を含む褐灰＋にぶい黄シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がＳＤ２－１に切られることや埋土がＳＤ２－２と同じことからＳＤ２－２と同時期と考えられる。

ＳＤ２－４（第51図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く帯状に堆積する砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.43ｍ前後である。検出した全長は約3.20ｍ、幅は30cm、深さは７cmを測る。溝の方向はＮ－50°－Ｅであり、西方に湾曲し、中央付近でＳＤ２－３と合流する。埋土はＳＤ２－３と同一である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がＳＤ２－１に切られることや埋土が同じことからＳＤ２－２と同時期と考えられる。



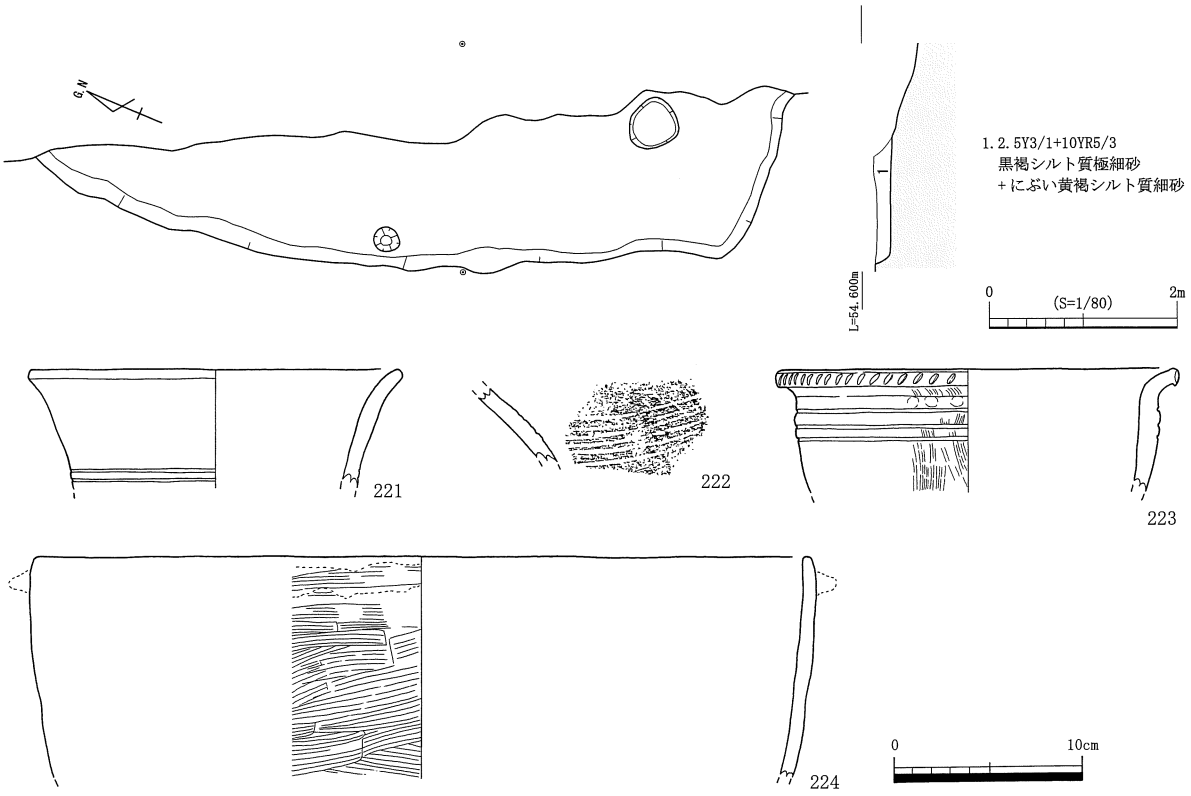

第51図　ＳＤ２－２～４平・断面図

性格不明遺構

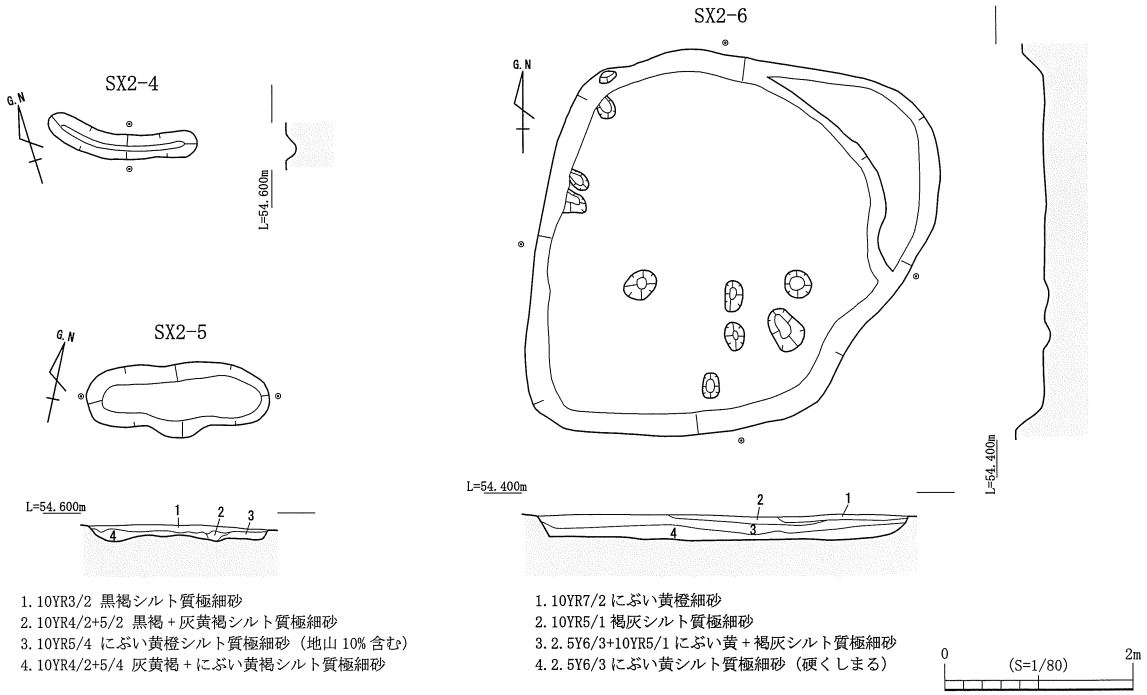
ＳＸ２－１（第52図）

調査区東端において検出した落ち込みであり、ＳＤ２－１に切られる。検出面の標高は54.33～54.51ｍである。検出できた平面形は三角形であるが、本来の形は長方形を呈していたと考えられる。検出できた規模は7.40×1.70ｍ、深さは10cmを測る。底面は平坦である。埋土は黒褐シルト質極細砂＋にぶい黄褐シルト質細砂の単一層である。所属時期は出土土器・埋土や他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

221 は弥生土器壺で、口縁部は比較的緩やかに開き、端部を丸く納める。頸部には２条のヘラ描き沈線を施す。222 は同壺の体部上半で、外面に６条のヘラ描き沈線を施す。223 は同甕で、口縁部は短く外反する如意状口縁である。口縁端部に刻み目を、口縁部直下には３条のヘラ描き沈線を施す。外面は縦方向のハケを施し、頸部には指頭圧痕が残る。224 は同甕で、直線的な口縁部を持つものである。口




第 52 図　ＳＸ２－１平・断面図、遺物実測図




第 53 図　ＳＸ２－４～６平・断面図

縁部直下には貼り付け突帯の接合痕が残存する。外面の調整は横方向のハケ、内面はナデが施される。

ＳＸ２－４（第53図）

調査区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は54.40～54.47ｍである。全長は1.60ｍ、幅27cm、深さ８cmを測る。方位はＮ－65°－Ｗである。埋土は褐灰シルト質極細砂＋褐灰シルトの単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＸ２－５（第53図）

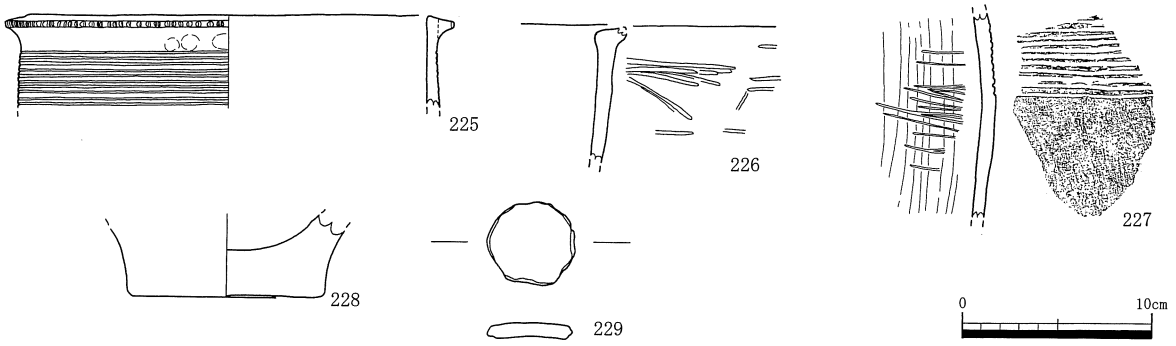
調査区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は54.50ｍ前後である。全長は1.93ｍ、幅67cm、深さ９cmを測る。方位はＮ－105°－Ｗである。埋土は４層に分層でき、第１層が黒褐シルト質極細砂、第２層が黒褐＋灰黄褐シルト質極細砂、第３層がにぶい黄橙シルト質極細砂、第４層が灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質極細砂であり、人為的と思える堆積を示す。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

ＳＸ２－６（第53図）

調査区中央やや東寄りにおいて検出した不整方形の遺構である。検出面の標高は54.15ｍ前後である。平面形は不整方形であり、北東隅が大きく拡張する。規模は4.12×4.06ｍ、深さは33cmを測る。底面はほぼ平坦であるが、北東隅に比高差が約10cm高い部分を有する。埋土は４層に分層でき、第１層がにぶい黄橙細砂、第２層が褐灰シルト質極細砂、第３層がにぶい黄＋褐灰シルト質極細砂、第４層がにぶい黄シルト質極細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

第２面出土遺物（第54図）

225～228は弥生土器甕である。225は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には10条のヘラ描き沈線を施す。226は逆「Ｌ」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部を欠損するため刻み目の有無は不明である。体部外面は板ナデ後に横方向のヘラミガキが施される。227は体部上半であり、11条のヘラ描き沈線を施す。内面はヘラナデ後に横方向のヘラミガキが施される。228は器壁の厚い底部である。229は弥生土器を利用した紡錘車の未成品である。




第54図　第２面出土遺物実測図

# 第４章　まとめ

## 第１節　遺構の変遷と集落構造

今回の発掘調査によって、弥生時代と古代と近世の遺構を検出した。しかし、その主要な土地利用は弥生時代前期末になされたことが検出遺構の内容や数と出土遺物の量から推定できる。ここでは、今回の調査成果の総括として、遺構の変遷と弥生時代前期の集落構造を論考し、本遺跡の様相を整理する。

### １　遺構の変遷（第55図）

**弥生時代前期末**

第２面において検出された全ての遺構であり、調査区全域に多数の遺構が検出され、当遺跡において中心的な位置を占める。主な遺構としては、ＳＩ２－１～11、ＳＢ２－１・２、ＳＤ２－１、ＳＫ２－19の土坑、ＳＡ２－１～６の柵列である。特に注目すべき遺構はＳＡ２－１の柵列を伴う環濠と考えられるＳＤ２－１である。第２面の検出面であり基盤層の13層は平坦ではなく、ＳＤ２－１の西側とＳＩ２－５の北側の２ヶ所に帯状の微低地が認められる。東側の微低地には洪水によると思われる砂礫層が堆積し、その下位にＳＤ２－２～４を検出した。西側の微低地には13層に類似の土が堆積し、上面に数基のピットを検出した。調査区東端には環濠と考えられる大規模な溝であるＳＤ２－１と付随する柵列ＳＡ２－１があり、その西側には11棟の竪穴建物状遺構、２棟の掘立柱建物、土坑、柵列を検出した。当該期の土地は若干の凹凸があり洪水の痕も見られるが、竪穴建物状遺構や掘立柱建物の居住施設と柵列を伴う環濠から構成される集落が営まれていた。ＳＤ２－１より出土した土器は森下編年の弥生前期Ⅱｂ～Ⅱｃに比定され、環濠は弥生時代前期末の短期間だけ機能していたと考えられる。居住域で検出された遺構は重複するものがあり若干の時期差があるが、検出面や埋土、遺構の構成からＳＤ２－１と同様に弥生時代前期末の短期間に属するものと考える。

**弥生時代後期**

３区の第１面検出のＳＢ１－３、２区の第１面検出のＳＤ１－２～４、３区の第１面検出のＳＸ１－３である。ＳＢ１－３は単独で存在しており、集落と認定することは甚だ難しいことであるが、調査区外である北西側に遺構が展開する可能性も考えられる。３条の溝は流れる方向の違いや切り合いがあることから溝としての性格や時期に差があると思われる。ＳＤ１－２とＳＤ１－４は南北方向にほぼ平行して延びており、区画溝である可能性も考えられる。一方、やや古い時期に属するＳＤ１－３は流れる方向等から区画溝でなく用水路であると考えられる。当該期の土地はほぼ平坦であり、安定した状態の微高地である。

**古代**

２区の第１面検出のＳＢ１－１・２、１・２区の第１面検出のＳＤ１－１である。ＳＢ１－１・２、１の２棟の掘立柱建物は規模が異なるが、主軸方位はほぼ同一であり、隣接して建てられていることから、総柱建物であるＳＢ１－１は母屋としての性格を有する建物であり、ＳＢ１－２はＳＢ１－１に付随する建物であると考える。周囲に他の建物が存在しないので集落と認定することは甚だ難しいことであるが、居住域としての様相を呈する。ＳＤ１－１は流れる方向等から区画溝でなく用水路と考えられる。当該期の土地はほぼ平坦であり、安定した状態の微高地である。

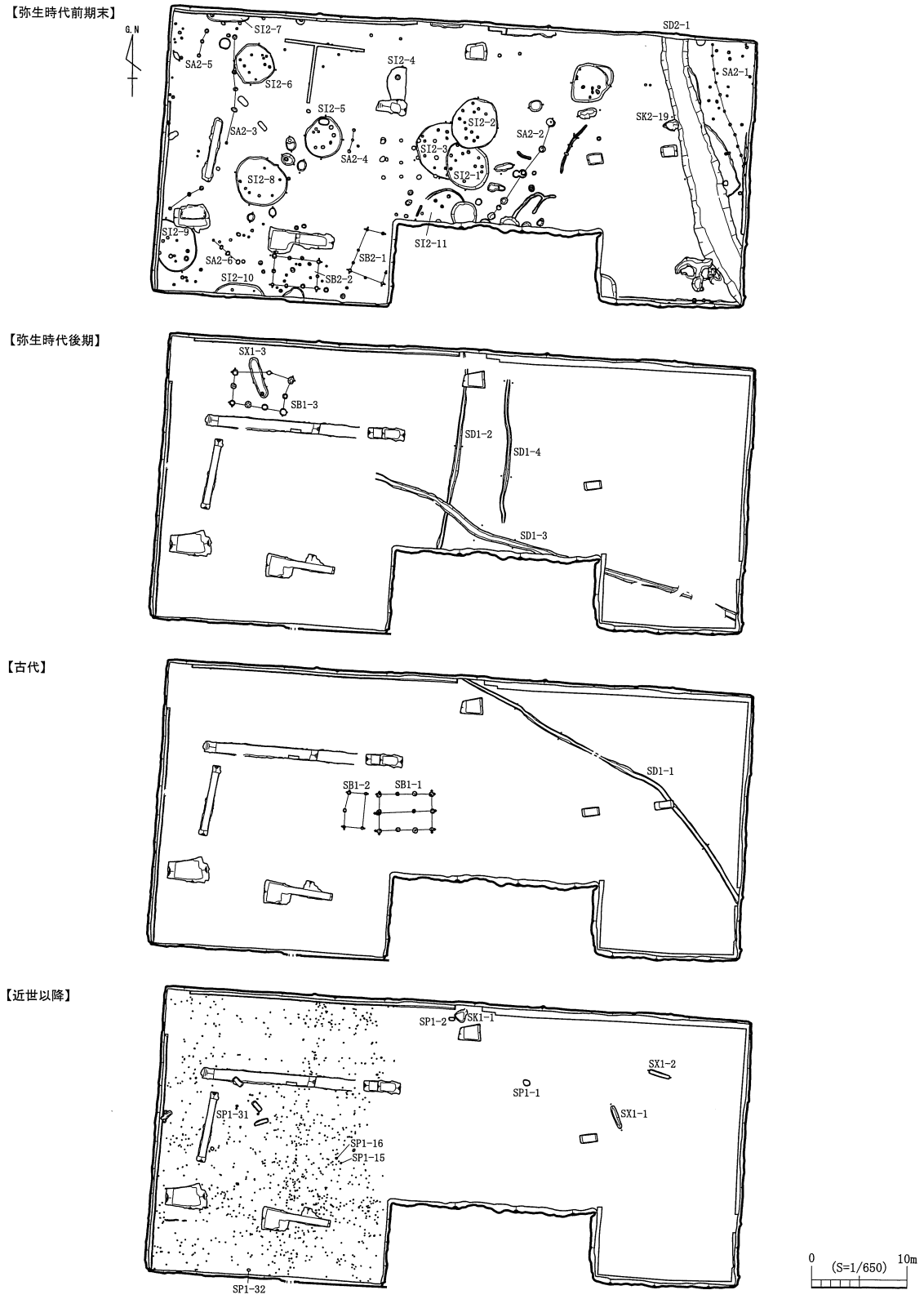
**近世**

２区第１面検出のＳＫ１－１、１区第１面検出のＳＸ１－１・２、２・３面第１面検出の６個の柱穴、３区第１面検出の稲架であり、調査区壁面の土層観察では３面の水田を確認した。稲架は直径４～10cm、深さ５cm前後のピットであり、３区全域に不規則な配置で検出された。１・２区においてもこの

ようなピットは検出されたが、調査は行わなかった。稲架以外に明確な遺構がほとんど見られないことと土層観察により３面の水田（２～４層）が確認されることから、調査区周辺の土地は生産域として利用されており、ＳＫ１－１は肥溜めの可能性が考えられる。

**近代**

埋め立てられた花崗土直下の水田（１層）であり、現代の水田である。調査区西端に電柱の控えを埋めた土坑が３基ある。




第55図　遺構変遷図

## ２　北口遺跡の集落構造

今回の調査成果の中で特筆できるのが、弥生時代前期末の集落の一端を明らかにすることができたことと遺跡の空白地であった高松平野南部の香川町大野において遺跡の存在が確認できたことである。ここでは遺構・遺物が最も多い弥生時代前期末の集落について論じる。

第３章と前項で概述したが、弥生時代前期末に属する遺構の概要を再度記述し、その後に集落構造について若干論究する。調査区東端にはＳＤ２－１と柵列ＳＡ２－１が検出され、その西側には11棟の竪穴建物状遺構、２棟の掘立柱建物、土坑、柵列が検出された。ＳＤ２－１は南北方向へほぼ直線的に延びる溝であり、ＳＡ２－１はＳＤ２－１と平行に延びる柵列である。竪穴建物状遺構は直径６ｍ未満の円形ないし楕円形を呈し、床面積は28㎡未満である。主柱穴は不規則な円形に配置する。床面は直床で全く踏み固められてない。地床炉は検出されず、壁溝はＳＩ２－11のみ検出した。遺物は全く出土しなかった。２棟の掘立柱建物は３×２間であり、主軸方向は異なるが近接している。ＳＡ２－２は竪穴建物状遺構の東側に、ＳＡ２－３は竪穴建物状遺構の西側において南北方向に延びる。

本遺跡において検出したＳＩ２－１～11は、平面形・規模、主柱穴配置等の基本的属性に関して弥生時代の一般的な竪穴建物と同じ範疇に入るが、地床炉や壁溝が存在しないことと遺物が皆無であることから竪穴建物と断定することは難しく、竪穴建物状遺構とした。ＳＩ２－１・２・３のように重複する建物と単独の建物があるが、その配置はほぼ等間隔に点在する。重複するＳＩ２－１～３は出土遺物が無いので確定的なことはいえないが、それほど時間差があるとは考えにくい。竪穴建物状遺構は竪穴建物の分類では円形多主柱タイプで、床面積が28㎡未満であり規模としては中規模の建物である[註1)]。このような竪穴建物状遺構が数棟集合して集落となったと考えられるが、集落としてはＳＤ２－１と同様に短期間のみ機能していたと考えられる。

ＳＤ２－１は僅かに湾曲気味だが南北方向にほぼ直線的に延び、上端の最大幅は4.15ｍ、深さは45cmを測り、その規模と他の遺構との関係から環濠であると考えられる。埋土中から森下編年前期Ⅱｂ～Ⅱｃに比定される弥生土器が多量に出土した。壺は口縁部が短く開くものと大きく外反するものがあり、ヘラ描き沈線は多条化する。甕は逆Ｌ字形口縁が大半を占め、ヘラ描き沈線が多条化し、櫛描き沈線も僅かであるが出現する。ＳＡ２－１はＳＤ２－１と平行に延び、環濠に付随する柵列である。その構造は等間隔に杭を打ち込み、その間を横板数枚でつなぐガードレール方式の柵列の可能性が考えられる[註2)]。溝を掘削した際に出た土を盛り上げて作る土塁は検出できなかった。

居住域に検出されたＳＡ２－２・３は、竪穴建物状遺構を挟むように東側と西側にほぼ同方向に延びている。二つの柵列は構成する柱穴の平面形・規模が異なっており、同時期に存在するが、その方式や性格に若干の違いがあると思われる。ＳＡ２－２とＳＤ２－１の間は遺構のない空白地域となっており、ＳＡ２－２は居住域を区画する機能を持つと考えられる。ＳＡ２－３の西側は調査区外であり竪穴建物状遺構等が展開するか不明であるが、ＳＡ２－３は柱穴の間隔が広く開いている部分があり、出入り口の可能性も考えられる。

以上が本遺跡の弥生前期における集落構造であり、ＳＤ２－１は柵列を伴う環濠であると推定できる。しかし、ＳＤ２－１が若干湾曲気味であることと竪穴建物状遺構に関しては居住施設と断定することはできないことから、本遺跡が環濠集落であることに不確定な部分がある。すなわち、本遺跡が環濠集落である可能性と環濠から東側に集落が存在し、本遺跡は環濠の外側に営まれた集落である可能性のふたつが考えられる。だが、東側は調査区外として未調査であるので、現段階では本遺跡が環濠集落であるという視点から考える。今後周辺部において発掘調査が実施されることにより、北口遺跡の性格や周辺の集落構成が解明されるであろう。

## 第２節　前期弥生土器について

今回の調査における前期弥生土器の大部分は環濠の可能性があるＳＤ２－１より出土した。ＳＤ２－１は最大幅 4.15 ｍ、深さ 0.45 ｍを測り、埋土は７層に分層され、第１～４層の上層と第５～７層の下層に大別される。土器の取り上げは上層を上面からの深さにより上層と中層に分け、下層を同様に下層と最下層に分けて行った。ここでは各土層の代表的な土器を抽出し（第 56 図）、若干の考察を加える。なお、文中の遺物番号は、本文中の遺物番号に依拠する。

**上層出土土器**　土器の個体数は少なく、器種は壺、甕、蓋である。壺は広口壺であり、口縁部と体部の境に３条のヘラ描き沈線を持つもの(31)、内面に貼付突帯を有するもの(32)がある。甕は如意状口縁(34)と逆「Ｌ」字状口縁（33）がある。

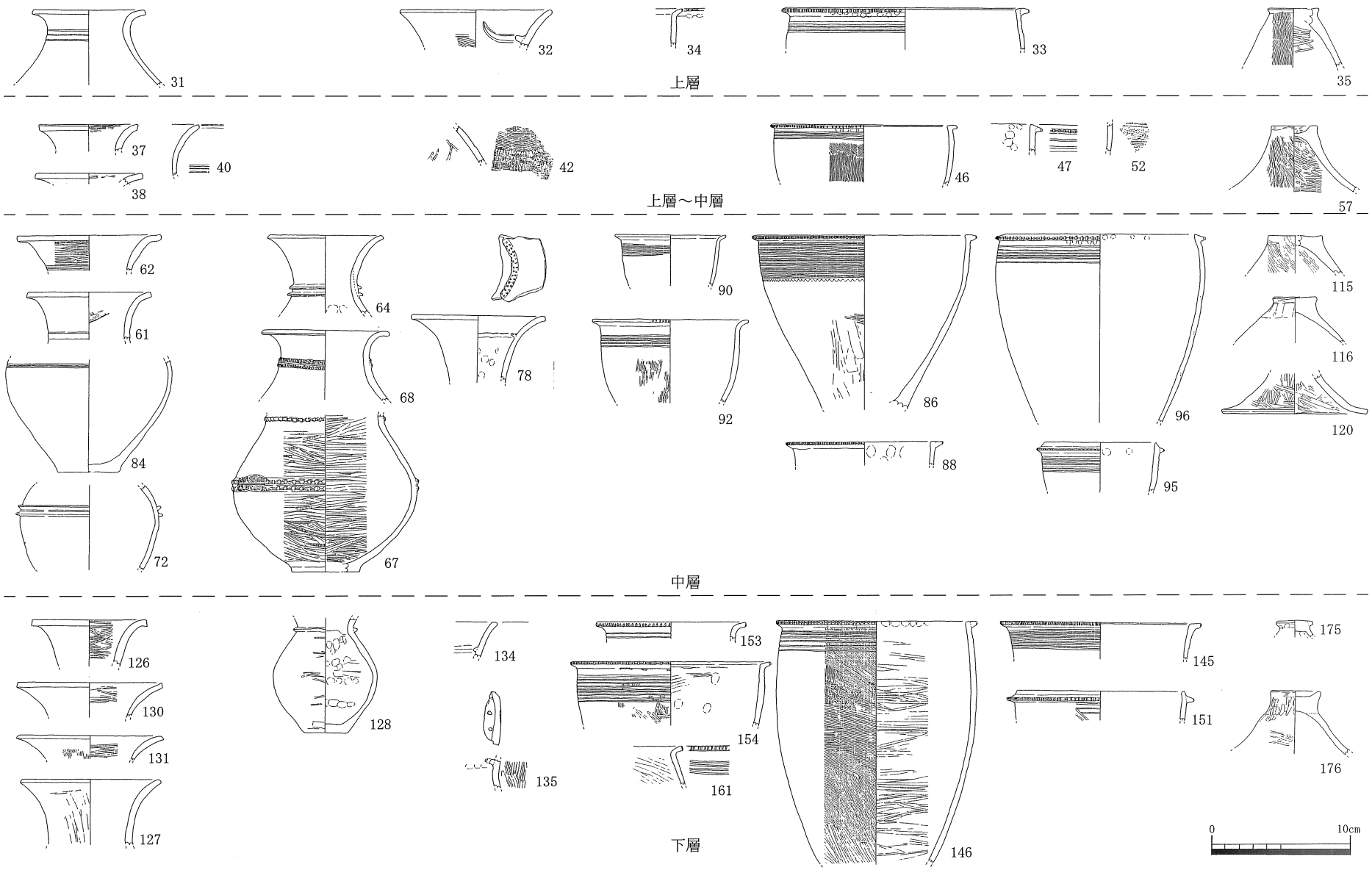
**上層～中層出土土器**　個体数はやや多くなり、器種構成は壺、甕、蓋、鉢である。壺は広口壺であり、口縁部が短いものとやや長いものがある。前者は口縁端部が丸いものと角張るものに分けられる。後者は口縁部と体部の境に数条のヘラ描き沈線を持つ（40）。体部に櫛描沈線を有する壺（42）が非常に僅かながら存在する。甕は逆「Ｌ」字状口縁のみであり、口縁端部に刻み目、口縁直下に数条のヘラ描き沈線を施す（46・47）。ヘラ描き沈線と３条の山形文を施すもの（52）もある。

**中層出土土器**　個体数は非常に多いが、器種構成は壺、甕、蓋、鉢、高杯である。壺は口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、加飾性が若干増し、バリエーションが豊かになる。口縁部と体部の境にヘラ描き沈線を施すもの（62）、削出突帯を施すもの（61）、貼付突帯を施すもの（64）、指頭圧痕のある貼付突帯を施すもの（67･68）がある。体部の最大径部に２条の貼付突帯を廻らすもの（72）と指頭圧痕のある貼付突帯を施すもの（67）がある。口縁部内面に貼付突帯を有するもの（78）もある。甕は如意状口縁と逆「Ｌ」字状口縁があり、口縁端部に刻み目、口縁直下に４～15 条のヘラ描き沈線を施す。少量であるが刻み目や沈線を有しないものや山形文を有するものある。

**下層～最下層出土土器**　個体数は多く、器種構成は壺、甕、蓋、鉢、高杯である。壺は口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、加飾性が少ない。口縁部と体部の境に貼付突帯を有する（128）、口縁部内面に貼付突帯や棒状浮文を有する（134、135）。甕は如意状口縁と逆「Ｌ」字状口縁があり、口縁端部に刻み目、口縁直下に３～９条のヘラ描き沈線を施す。少量であるが刻み目や沈線を有しないものや山形文を有するものある。

香川県内の弥生前期土器の編年は先学により一定の完成をみている。真鍋昌宏氏はＩ－１様式からＩ－５様式に細分し、壺は段を持つものから削出突帯、貼付突帯へと変化し、ヘラ描き沈線及び文様がみられ、甕は如意状口縁から逆「Ｌ」字状口縁へと変化し、ヘラ描き沈線が多条化することを明らかにした。さらに、森下英治氏は前期をＩ期とⅡ期に大別し、それぞれをａ～ｃに細分し、逆「Ｌ」字状口縁の甕出現直前をⅡａ期とし、出現以降をⅡｂ期、沈線が著しく多条化する時期をⅡｃと位置づけた。

ＳＤ２－１出土の土器が以上のような既存編年のどの位置に当たるかを考えると、上層から最下層までの土器はほぼ同様な様相を呈している。壺は段系壺が消滅し、口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、甕は逆「Ｌ」字状口縁が主流であり、口縁直下のヘラ描き沈線が著しく多条化する。上層において櫛描沈線の壺が数点みられる。これらのことから弥生前期末、すなわち森下編年Ⅱｂ～Ⅱｃ期に該当すると考えられ、上層出土の土器と下層・最下層出土の土器にはほとんど時期差はない。




第56図　ＳＤ２－１出土の前期弥生土器

# 第３節　高松平野の弥生時代前期の遺跡

高松平野における弥生時代の集落研究に関しては、既に大久保徹也氏、大嶋和則・川部浩司両氏、池見渉氏による研究があり、さらに渡邊誠氏が高松平野の集落動態について詳細な分析と論究を行っている。しかしながら、渡邊氏の論究は弥生時代中期から後期の範疇であり、北口遺跡の属する弥生時代前期に関しては明確な居住施設がほとんど確認されていないため僅かに言及しているのに過ぎない。そこで渡邊氏の分析を参考に前期の集落に関して若干論究してみる。

高松平野において確認された弥生時代前期の遺跡は、第１表に示したように37遺跡があげられ、その分布は第57図に表す。これらの遺跡は自然旧河川から数点の土器のみ出土した遺跡から居住施設のある集落までを含んでいる。

当該期の遺跡の概要は、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて平野部の微高地に集落域や微低地に水田の生産域が営まれる。同時に、居住施設は不明であるが、いくつかの環濠集落が出現する。空港跡地遺跡のように明確な居住施設も確認できるようになる。その後、前期末～中期前葉にかけて集落が平野部を中心に展開し、その中に数は少ないが本遺跡のような環濠集落も含まれる。

遺跡の分布を概観すると、鬼無藤井遺跡のある高松平野北西部、多数の遺跡がある平野中央部、諏訪神社遺跡の東部、北野遺跡をはじめとする南部、光専寺山遺跡をはじめとする南東隅部の５グループに分けられる。さらに中央部は北西部・北部・南部に細分できる。遺跡は高松平野の中央部に集中していることがわかる。ほとんどの遺跡は現有の河川か埋没旧河川に沿うように存在する。次に、立地条件は平野部と丘陵部に分かれ、大部分の遺跡は平野部に存在し、丘陵部は諏訪神社遺跡、光専寺山遺跡、本村遺跡の３箇所である。標高別の遺跡数では10ｍ未満が７、10ｍ台が18、20ｍ台が８、30～50ｍ台がそれぞれ１である。北口遺跡は53ｍであり、現在検出された遺跡では最も高い位置にある遺跡である。

遺跡の性格としては、集落域が26遺跡、墓域が１遺跡、生産域が４遺跡あり、土器が出土した埋没旧河川のみの遺跡が６ある。集落域は鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、天満・宮西遺跡、諏訪神社遺跡、汲仏遺跡、凹原遺跡、光専寺山遺跡、北口遺跡の８ヶ所が環濠集落であり、その中で鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、北口遺跡では居住施設が確認されている。環濠集落以外の集落で居住施設が確認されたのは北山浦遺跡、空港跡地遺跡である。しかし、これらの遺跡は集落としての規模や範囲、構造などは判然としない。その他の遺跡は溝や土坑等のみ検出である。墓域は墓の可能性が考えられる土坑を検出した林下所・木太今村上所遺跡である。生産域は上西原遺跡、さこ・長池遺跡、さこ・長池Ⅱ遺跡、さこ・松ノ木遺跡であり、埋没旧河川に隣接する不定形小区画水田を検出した。

遺跡を大まかな時期別に分けると次のようになる。縄文時代晩期から弥生時代前期初頭にかけては東中筋遺跡、林・坊城遺跡、宗高坊城遺跡をはじめとして幾つかの遺跡があるが、ほとんどが埋没旧河川のみの検出である。次の前期前半は上西原遺跡、井手東Ⅱ遺跡、林・坊城遺跡であり、遺跡は少ない。前期中葉になると遺跡は平野部を中心に急増し、その数は18となる。前期後半になると遺跡数は若干減少するが、平野部を中心に展開する。前期の遺跡の特徴として、ほとんどの集落が前期の間で消滅することが挙げられ、中期以降に継続する遺跡はさこ・松ノ木遺跡、さこ・長池遺跡、日暮・松林遺跡、多肥松林遺跡に過ぎない。

当該期の集落の特徴としては次のことが挙げられる。

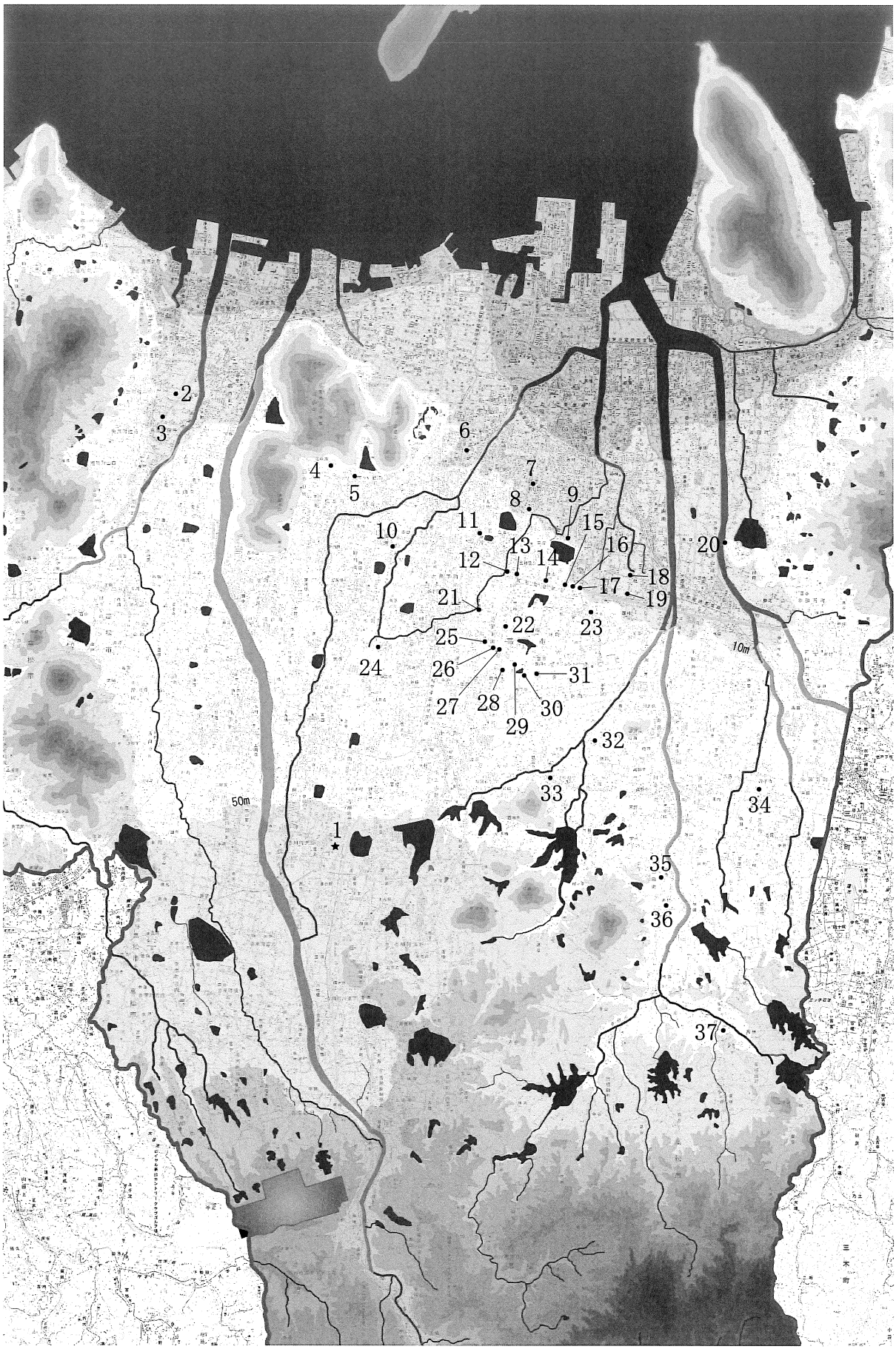
①環濠集落が出現し、時期差が認められる。

　前期前半末－汲仏遺跡、松並・中所遺跡

　前期後半初頭－鬼無藤井遺跡、天満・宮西遺跡、諏訪神社遺跡

　前期末－北口遺跡、凹原遺跡、光専寺山遺跡

②環濠集落を含め居住施設を確認した集落は、鬼無藤井遺跡や空港跡地遺跡などの数例にすぎず、集落




第 57 図　高松市における弥生前期遺跡分布図

としての規模や範囲、構造などは判然としない。

③経済的基盤である稲作に伴う水田は前期全般に確認されているが、集落が不明である。

④丘陵部にある遺跡は非常に僅かであり、遺跡の大部分は平野部に展開する。

⑤環濠集落を含めた集落のほとんどは前期で消滅し、存続期間が非常に短い。

第１表　高松市における弥生前期遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名 | 性格 | 立地 | 位置 | 遺構 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 北口遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高 53 m） | 南部 | 住・溝・土・柵 | 前期Ⅱｃ |
| 2 | 香西南西打遺跡 | | 平野（標高３m） | 北西部 | 川 | 前期中葉 |
| 3 | 鬼無藤井遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高４m） | 北西部 | 住・溝・土・墓 | 前期Ⅱａ |
| 4 | 北山浦遺跡 | 集落 | 平野（標高 14 m） | 中央北西部 | 住 | 前期Ⅰｃ |
| 5 | 松並・中所遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高 13 m） | 中央北西部 | 住・溝・土 | 前期前半末 |
| 6 | 東中筋遺跡 | 集落 | 平野（標高６m） | 中央北部 | 土・川 | 前期後半 |
| 7 | 天満・宮西遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高６m） | 中央北部 | 土・溝 | 前期Ⅰｃ |
| 8 | 松縄下所遺跡 | 集落 | 平野（標高６m） | 中央北部 | 溝 | 前期末 |
| 9 | 上西原遺跡 | 生産 | 平野（標高６m） | 中央北部 | 水 | 前期 |
| 10 | 上天神遺跡 | 集落 | 平野（標高 16 m） | 中央部 | 溝 | 前期中葉～後葉 |
| 11 | キモンドー遺跡 | | 平野（標高 10 m） | 中央北部 | 川 | 前期後葉 |
| 12 | 居石遺跡 | | 平野（標高 13 m） | 中央部 | 川 | 前期後葉 |
| 13 | 井手東Ⅱ遺跡 | 集落 | 平野（標高 13 m） | 中央部 | 溝 | 前期古段階 |
| 14 | さこ・長池Ⅱ遺跡 | 生産 | 平野（標高 12 m） | 中央部 | 土・水 | 前期末 |
| 15 | さこ・長池遺跡 | 生産 | 平野（標高 16 m） | 中央部 | 溝・水・川 | 前期末 |
| 16 | さこ・松ノ木遺跡 | 生産 | 平野（標高 10 m） | 中央部 | 水 | 前期末 |
| 17 | 林・坊城遺跡 | 集落 | 平野（標高 10 m） | 中央部 | 溝・川 | 前期中葉 |
| 18 | 林下所・木太今村上所遺跡 | 墓？ | 平野（標高７m） | 中央部 | 土 | 前期 |
| 19 | 林下所遺跡 | 集落 | 平野（標高 10 m） | 中央部 | 溝 | 前期 |
| 20 | 諏訪神社遺跡 | 環濠集落 | 丘陵（標高 26 m） | 中央東側 | 溝 | 前期後半前葉 |
| 21 | 汲仏遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高 18 m） | 中央部 | 土・溝 | 前期後半前葉 |
| 22 | 凹原遺跡 | 環濠集落 | 平野（標高 18 m） | 中央部 | 柱・土・溝 | 前期末 |
| 23 | 宗高坊城遺跡 | | 平野（標高 12 m） | 中央部 | 川 | 縄文晩期～前期中葉 |
| 24 | 上東原遺跡 | 集落 | 平野（標高 26 m） | 中央部 | 溝 | 前期 |
| 25 | 松林遺跡 | 集落 | 平野（標高 21 m） | 中央部 | 集・川 | 前期中葉 |
| 26 | 多肥松林遺跡 | 集落 | 平野（標高 21 m） | 中央部 | 溝 | 前期中葉 |
| 27 | 日暮・松林遺跡 | 集落 | 平野（標高 20 m） | 中央部 | 井 | 前期Ⅱｂ |
| 28 | 多肥宮尻遺跡（衣料品販売） | 集落 | 平野（標高 22 m） | 中央部 | 溝 | 前期末 |
| 29 | 多肥宮尻遺跡 | 集落 | 平野（標高 19 m） | 中央部 | 溝 | 前期末 |
| 30 | 空港跡地遺跡　Ｖ | 集落 | 平野（標高 19 m） | 中央部 | 住・土・川 | 前期末～中期初 |
| 31 | 空港跡地遺跡（Ｋ地区） | 集落 | 平野（標高 20 m） | 中央部 | 土・川 | 前期末～中期初 |
| 32 | 北野遺跡 | 集落 | 平野（標高 18 m） | 中央南部 | 土・溝 | 前期 |
| 33 | 横内東遺跡 | | 平野（標高 25 m） | 中央南部 | 川 | 前期～後期 |
| 34 | 砂入遺跡 | 集落 | 平野（標高 18 m） | 南東部 | 土・溝 | 前期 |
| 35 | 光専寺山遺跡 | 環濠集落 | 丘陵（標高 40 m） | 南東部 | 溝 | 前期末 |
| 36 | 本村遺跡 | | 丘陵（標高 30 m） | 南東部 | 川 | 前期 |
| 37 | 竹元遺跡 | 集落 | 平野（標高 48 m） | 南東部 | 溝 | 縄文晩期～弥生前期 |

住－住居跡、土－土坑、柱－柱穴、井－井戸、集－集石、水－水田、川－埋没旧河川
所属時期は各遺跡の報告書の記述を掲載する

# 第４節　香川における環濠集落

現在までに県内で確認されている環濠集落は、高松市で８遺跡、さぬき市・丸亀市・善通寺市で各１遺跡であり、総数は第２表のとおり 11 遺跡を数えるが、環濠全域を調査した遺跡がないため、集落としての規模や構造・様相は解明されていないのが現状である。特に高松市に所在する環濠集落の大半は居住施設も検出されていないので、高松市内の遺跡で環濠集落を論じるのは不可能である。そこで対象範囲を香川県内に拡大して、環濠集落について少し論ずることとする。なお、各遺跡の時期は報告書の記述を尊重している。

## １　遺跡の概要

鬼無藤井遺跡（高松市）　標高４ｍ台の平野に立地し、内環濠・外環濠の二重の溝が直径 60 ｍ強の楕円形に廻り、その内側に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、ある程度の空間利用区分が考えられる。墓の可能性がある土坑も検出された。時期は森下編年前期Ⅱａであり、環濠は比較的短期間に埋没した。高松市において最も集落の様相が確認される。

松並・中所遺跡（高松市）　標高 13 ｍ台の平野に立地し、環濠は一重で、直径は 50 ～ 60 ｍと推定される。内側に「松菊里型住居」の可能性がある竪穴住居が検出される。時期は前期前半末である。

天満・宮西遺跡（高松市）　標高６ｍ台の平野に立地し、一重の環濠が直径約 65 ｍの円形に廻る。内側では土坑のみ検出された。時期は前期前半後葉である。

諏訪神社遺跡（高松市）　標高 26 ｍの丘陵に立地し、一重の環濠が山頂部を廻る。時期は前期後半前葉である。

汲仏遺跡(高松市)　標高 18 ｍ台の平野に立地し、Ｖ字型の二重環濠である。内濠に陸橋部が存在する。内側に竪穴住居の可能性がある落ち込みが数基確認される。時期は前期後半前葉である。

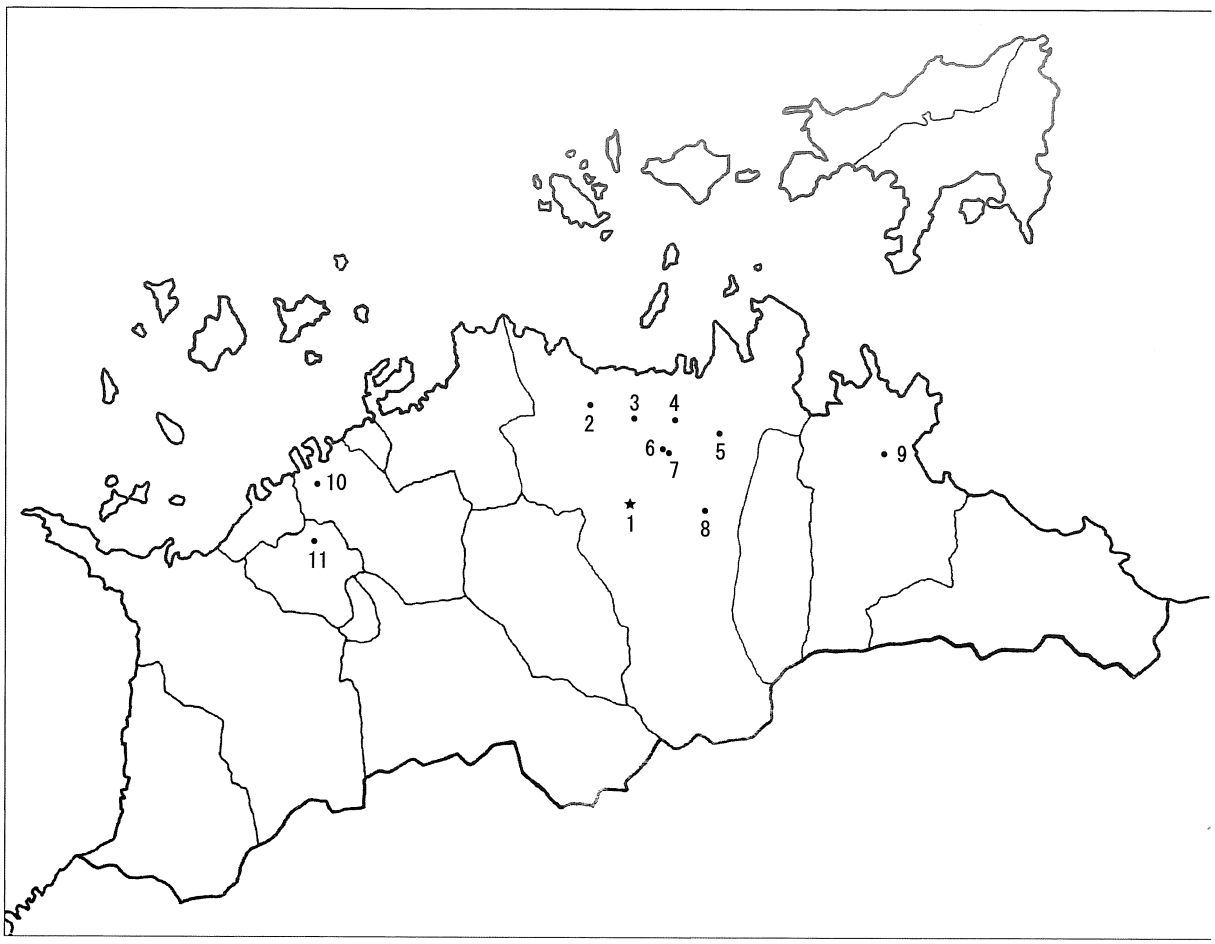
凹原遺跡（高松市）　標高 18 ｍの平野に立地し、一重の環濠であり、内側に柱穴と土坑を検出する。時期は前期末～中期初頭である。

光専寺山遺跡（高松市）　標高 40m 台の丘陵に立地し、一重の環濠が緩やかに湾曲する。時期は前期末である。

鴨部・川田遺跡（さぬき市）　標高８ｍ台の平野に立地し、前期後半から中期初頭にかけての集落であり、３段階に集落の様相が分かれる。第１段階は前期後半で環濠を伴わない集落であり、10 棟の居住施設を検出する。第２段階は前期後半に一重の環濠が掘削され、環濠集落となり、８棟の居住施設を検出する。第３段階は環濠が埋没した後の中期初頭の集落であり、５棟の居住施設を検出する。内側では居住施設以外に柱穴や土坑、さらに数本の方形区画溝が確認される。環濠集落の構造がわかる好例である。

中の池遺跡（丸亀市）　標高 11 ｍ台の平野に立地し、最終的には４条の環濠が掘削されるが、１時期に機能したのは１～３条の環濠である。つまり、最大で三重環濠が円形に廻っている。さらに、南側にも別の環濠と思われる溝が数本確認されており、３ヶ所の居住域が想定されている。円形の環濠に囲まれた内側では住居址・柱跡・土坑・柵列が検出される。環濠の外では２基の木棺墓が検出され、さらに東側には生産域の水田が展開する。時期は前期後半初頭～中期初頭である。居住域と墓域、水田が隣接する唯一の遺跡であり、県内最大規模の環濠集落である。

龍川五条遺跡（善通寺市）　標高 23 ｍの平野に立地し、前期前半の一重環濠と前期後半前葉の二重環濠が検出される。前半の環濠は東西方向に長い隅丸方形に廻り、南北 45 ｍ、東西約 70 ｍの範囲が居住域と推定される。内側では方形区画の溝があり、２ヶ所の区画された区域が存在し、竪穴住居や掘立柱建物の居住施設、土坑等が検出される。西微高地には周溝による区画の墓と木棺や土壙墓が存在する。内部区画と環濠が方形を意識した平面観と正方位を有しており、入口部分の規定もあることから、何ら




第 58 図　香川の環濠集落分布図

第２表　香川の環濠集落一覧

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 立地 | 遺構 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 北口遺跡 | 高松市 | 平野（標高 53 m） | 住・溝・土・柵 | 前期Ⅱｃ | 一重環濠 |
| 2 | 鬼無藤井遺跡 | 高松市 | 平野（標高 4 m） | 住・溝・土・墓 | 前期Ⅱａ | 二重環濠 |
| 3 | 松並・中所遺跡 | 高松市 | 平野（標高 13 m） | 住・溝・土 | 前期前半末 | 一重環濠 |
| 4 | 天満・宮西遺跡 | 高松市 | 平野（標高 6 m） | 土・溝 | 前期Ｉｃ | 一重環濠 |
| 5 | 諏訪神社遺跡 | 高松市 | 丘陵（標高 26 m） | 溝 | 前期後半前葉 | 一重環濠 |
| 6 | 汲仏遺跡 | 高松市 | 平野（標高 18 m） | 土・溝 | 前期後半前葉 | 二重環濠 |
| 7 | 凹原遺跡 | 高松市 | 平野（標高 18 m） | 柱・土・溝 | 前期末 | 一重環濠 |
| 8 | 光専寺山遺跡 | 高松市 | 丘陵（標高 40 m） | 溝 | 前期末 | 一重環濠 |
| 9 | 鴨部・川田遺跡 | さぬき市 | 平野（標高 9 m） | 住・溝・土 | 前期後半 | 一重環濠 |
| 10 | 中の池遺跡 | 丸亀市 | 平野（標高 11 m） | 住・溝・土 | 前期後半 | 三重環濠<br>外環濠帯 |
| 11 | 龍川五条遺跡 | 善通寺市 | 平野（標高 23 m） | 住・溝・土・墓 | 前期中頃～中期初頭 | 二重環濠 |

かの規格性のもとに集落の構造が考えられた。後半の環濠は前代からの環濠の外側に新たに環濠を掘削し、二重環濠となる。また、内側の環濠は生活残滓の廃棄場としての機能の再生を目的とした掘り直しも確認されている。環濠集落と墓域が関連しており、香川の環濠集落構造を考える上で非常に重要な遺跡である。

## 2　環濠集落の様相

上記の遺跡の概要を踏まえて、香川における環濠集落の様相をまとめ、北口遺跡の集落構造について考える。まず、立地は平野と丘陵に分かれるが、丘陵にある遺跡は諏訪神社遺跡と光専寺山遺跡のみであり、その他の遺跡は平野部に展開する。その位置は標高の低い現海岸線沿いではなく、標高４ｍ以上で埋没旧河川と接するか近接する所に集中する。時期は、前期前半、前期後半前葉、前期末の３期に分けられるが、全ての環濠集落において言えるのは環濠が掘削されてから埋没して廃棄されるまでの存続期間が短いことであり、中期以降に継続しない。この立地条件・時期に関しては環濠集落以外の集落も同様である。

構造を考える上で参考になるのは、居住施設、墓や水田が確認できた鴨部・川田遺跡、中の池遺跡、龍川五条遺跡である。環濠は一重～三重があり、最も多いのは一重環濠である。環濠の平面形は、鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、天満・宮西遺跡、鴨部・川田遺跡、中の池遺跡のように楕円形に廻る環濠と龍川五条遺跡のように隅丸方形の環濠がある。その規模は直径 50 ～ 60 ｍと想定される。環濠に伴う土塁や柵列は、ほとんど検出されていないが、中の池遺跡の第 12 次調査において環濠に沿ってやや湾曲する柵列を検出している。居住施設は竪穴住居と平地住居、掘立柱建物があり、集落全域を調査していないので不完全な要素があるが 10 棟前後が存在する。松並・中所遺跡では「松菊里型住居」の可能性がある竪穴住居が検出されている。居住施設の配置に関しては、鬼無藤井遺跡では内環濠に囲まれた範囲の中央部と南部に分布しており、ある程度の空間利用区分を意識しており、さらにその意識を高めた様相を示すのが鴨部・川田遺跡、龍川五条遺跡であり、居住域を方形区画溝で囲んでいる。龍川五条遺跡では環濠内側の集落と方形区画溝により区画された集落の二つの形態があり、集落内で何らかの差異が生じたと考えられる。

環濠集落と墓域を検出したのは、鬼無藤井遺跡と中の池遺跡、龍川五条遺跡である。鬼無藤井遺跡は谷状の地形を挟む微高地に細長い楕円形の土坑が検出され、墓の可能性も考えられている。中の池遺跡では環濠と水田の中間位置に２基の木棺墓、龍川五条遺跡では西微高地に周溝による区画の墓３基と木棺や土壙墓のような区画を持たない墓３基が存在する。これらの遺跡で共通するのは、墓域が環濠の外側に隣接する位置に確認されるということである。

環濠集落を含む集落と弥生時代の経済的基盤である水田が同時に確認できたのは、中の池遺跡のみである。水田は環濠の南東側の埋没旧河川の浅谷底部に存在し、基幹水路を持たない不定形小区画水田であり、幅狭い帯状に存在する。県内では川津下樋遺跡やさこ・長池遺跡などで前期の水田が検出されており、特にさこ・長池遺跡は広範囲にわたって小区画水田が検出されている。しかし、経営母体である集落は確認されていない。

以上の様相を参考に北口遺跡の環濠集落について考えてみる。立地は多くの集落と同様に平野であり、香東川と埋没旧河川とのほぼ中間に位置する。環濠と考えられるＳＤ２－１出土土器の時期は森下編年Ⅱｂ～Ⅱｃ期に相当することから、環濠は弥生時代前期末に掘削され、短期間だけ環濠として機能し、中期になる直前に環濠は埋没してしまい、北口遺跡の前期環濠集落は廃絶したと考えられる。つまり、北口遺跡の環濠集落は存続期間が非常に短い。

環濠の検出が調査区東端のため、環濠の本数は不確定要素があるが一重ないしそれ以上である。平面形は検出した範囲で僅かに湾曲気味であるがほぼ直線であり、幅や深さの規模はほかの遺跡の環濠とほ

ぼ同規模である。土墨は検出されていないが、東側に柵列を伴っている。居住施設は11棟の竪穴建物状遺構と２棟の掘立柱建物を検出している。竪穴建物状遺構は地床炉の不検出や出土遺物の皆無であるが、その規模や平面形は同時期の竪穴建物と同様であるので居住施設と考える。居住施設は環濠の西側にほぼ等間隔に配置されている。鴨部・川田遺跡、龍川五条遺跡のような居住域を囲む方形区画溝は検出されなかったが、居住域の中に２基の柵列が存在しており、何らかの空間利用区分の意識が認められる。今回の調査では墓域と水田は検出していないが、将来的に周辺部においてこれらの遺構が確認される可能性もある。

## 註

１）池見氏が北山浦遺跡の報告書第５章第１節において弥生時代中期前葉～古墳時代前期初頭の竪穴建物に関して詳細な分析を行っている。本遺跡の竪穴建物状遺構が所属する弥生前期は竪穴建物の検出例が非常に少ないので、池見氏の分析を参考にする。

２）国立歴史民俗博物館が1996年に刊行した『倭国乱る』にガードレール方式の柵列の復原創造図が掲載されており、歴博が所蔵する関東南部の代表的な環濠集落である横浜市大塚遺跡の復原模型は2013年にこの方式の柵列に改修された。

## 参考文献


池見　渉 2012「第１節　北山浦遺跡の集落構造とその変遷　ａ竪穴建物遺構の構造」『北山浦遺跡』高松市教育委員会
「第２節　北山浦遺跡周辺環境　ｂ社会環境　周辺集落の動向　イ集落動態（２）「建物群」分布状況の概要」
『北山浦遺跡』 高松市教育委員会

大久保徹也 1995「上天神遺跡の集落構成」『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第六冊　上天神遺跡』香川県教育委員会

大嶋和則・川部浩司 1999「高松平野における集落の様相」『みずほ』第30号大和弥生文化の会

川部浩司 2001「鬼無藤井遺跡の前期弥生土器と環濠集落」『鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会

真鍋昌宏 2000「讃岐地域」『弥生土器の様式と編年』木耳社

宮崎哲治 1995「香川における弥生前期土器の様相」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

森下英治 1998「龍川五条遺跡出土前期弥生土器の編年」『龍川五条遺跡Ⅱ　飯野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会

渡邊　誠 2014「弥生時代中期から後期における高松平野の集落動態」『東アジア古文化論攷２』中国書店


## 報告書


東信男・佐藤亜聖・角南聡一郎・橋本英将編 2003『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中の池遺跡－第８次調査－』丸亀市教育委員会・（財）元興寺文化財研究所

東信男・佐藤亜聖・橋本英将・舩築紀子編 2004『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中の池遺跡－第９・10次調査－』丸亀市教育委員会・（財）元興寺文化財研究所

東信男・岡本広義・佐藤亜聖・塚本敏夫・舩築紀子その他編 2005『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中の池遺跡－第11次調査－』丸亀市教育委員会・（財）元興寺文化財研究所

東信男・佐藤亜聖・舩築紀子その他編 2006『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中の池遺跡－第13次調査－　平池東遺跡－第３次調査－』丸亀市教育委員会・（財）元興寺文化財研究所

東信男・近藤武司・佐藤亜聖その他編 2008『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中の池遺跡－第12次調査－』丸亀市教育委員会・（財）元興寺文化財研究所

大久保徹也・森　格也編 1995『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第六冊　上天神遺跡』香川県教育委員会

大嶋和則編 1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　松林遺跡』高松市教育委員会

大嶋和則編 2006『衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡（衣料品販売店）』高松市教育委員会

小川　賢 2001『高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第二冊　鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会

小川　賢・中西克也編 2001『都市計画道路東浜花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　東中筋遺跡　第１次調査』高松市教育委員会

小川　賢編 2004『都市計画道路東浜花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　東中筋遺跡　第２次調査』高松市教育委員会

小川　賢・山元敏裕編 2004『都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第２冊　宗高坊城遺跡』高松市教育委員会

小川　賢編 2004『四国横断自動車道関連特別用地対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　林下所・木太今村上所遺跡』高松市教育委員会

小川　賢編 2004『四国横断自動車道関連特別用地対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　林下所遺跡』高松市教育委員会

小川　賢・上原ふみ編 2012『三谷コミュニテイセンター整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　横内東遺跡』高松市教育委員会

片桐孝治編 2006『県道塩江屋島西線道路局部改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　竹元遺跡』香川県教育委員会

川畑　聡・末光甲正編 2000『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第三冊　上西原遺跡　附　汲仏遺跡』高松市教育委員会
川畑　聡 2001『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第四冊　松縄下所遺跡』高松市教育委員会
川畑　聡 2001『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第五冊　凹原遺跡』高松市教育委員会
川畑　聡 2002『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第六冊　天満・宮西遺跡～集落・水田編～』高松市教育委員会
川畑　聡・小川　賢編 2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会
川畑　聡・山元敏裕編 2007『諏訪神社本殿移築・久米山墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　諏訪神社遺跡　久米山遺跡群－諏訪神社御旅所地区－』高松市教育委員会
川畑　聡編 2008『高松平野南東部における埋蔵文化財発掘調査報告書　本村遺跡　光専寺山遺跡』高松市教育委員会
木下晴一・三辻利一編 2002『空港跡地整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第５冊　空港跡地遺跡Ⅴ』香川県教育委員会
木下晴一 2002『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成 13 年度　北野遺跡』香川県教育委員会
蔵本晋司編 2001『香川県警察本部機動隊舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　汲仏遺跡Ⅱ』香川県教育委員会
谷口　梢 2015『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査　中の池遺跡』丸亀市教育委員会
西岡達哉 2007『三木郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　砂入遺跡』香川県教育委員会
乗松真也編 2014『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　上東原遺跡』香川県教育委員会
藤井雄三・山元敏裕編 1995『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第７冊　居石遺跡』高松市教育委員会
松本和彦編 2000『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会
松本豊凰編 1998『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中ノ池遺跡Ⅰ』丸亀市・松本考古学研究所
松本豊凰編 2000『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　中ノ池遺跡Ⅱ』丸亀市・松本考古学研究所
宮崎哲治編 1993『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二冊　林・坊城遺跡』香川県教育委員会
宮崎哲治編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十三冊　龍川五条遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
森格也編 1997『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第七冊　鴨部・川田遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
森下英治編 1998『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十九冊　龍川五条遺跡Ⅱ　飯野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会
森下友子・大久保徹也編 2000『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊　鴨部・川田遺跡Ⅱ』香川県教育委員会
山下平重編 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊　多肥松林遺跡』香川県教育委員会
山元敏裕・小川　賢編 2000『高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊　香西南西打遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕編 1993『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊　さこ・長池遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也編 1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二冊　さこ・松ノ木遺跡』高松市教育委員会
山本英之・中西克也編 1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡』高松市教育委員会
山本英之・中西克也編 1999『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第六冊　キモンドー遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕編 1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三冊　さこ・長池Ⅱ遺跡』高松市教育委員会
山本英之・山元敏裕・中西克也編 1995『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第五冊　井手東Ⅱ遺跡』高松市教育委員会
山元素子・岡本　利編 1999『香川県警察本部機動隊舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　汲仏遺跡』香川県教育委員会
山元素子編 2007『インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　空港跡地遺跡（Ｋ地区）』香川県教育委員会
渡邊　誠・舩築紀子・池見　渉編 2012『木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第２冊　北山浦遺跡』高松市教育委員会

# 第３表　遺構表

**第1面**

| 遺構番号 | 平面形 | 直径・幅 | 深さ | 埋土 | 備考　()は調査時の遺構名 |
|---|---|---|---|---|---|
| SB1-1　P1 | 円形 | 45 | 53 | 土層図 | |
| P2 | 円形 | 45 | 38 | 土層図 | |
| P3 | 円形 | 35 | 43 | 土層図 | |
| P4 | 不正円形 | 45 | 29 | 土層図 | |
| P5 | 不正楕円形 | 63×47 | 42 | 土層図 | |
| P6 | 円形 | 50×40 | 39 | 土層図 | |
| P7 | 円形 | 45×40 | 28 | 土層図 | |
| P8 | 円形 | 55 | 50 | 土層図 | |
| P9 | 円形 | 41×37 | 47 | 土層図 | |
| P10 | 円形 | 45 | 35 | 土層図 | |
| P11 | 円形 | 38×31 | 41 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む)<br>10YR5/1 褐灰シルト質極細砂 | (SP1-10) |
| SB1-2　P1 | 円形 | 29 | 13 | 土層図 | |
| P2 | 円形 | 35 | 17 | 土層図 | |
| P3 | 円形 | 35 | 17 | 土層図 | |
| P4 | 円形 | 28 | 18 | 土層図 | |
| P5 | 円形 | 27 | 15 | 土層図 | |
| SB1-3　P1 | 楕円形 | 73×60 | 19 | 土層図 | |
| P2 | 円形 | 40 | 16 | 土層図 | |
| P3 | 円形 | 60 | 23 | 土層図 | |
| P4 | 円形 | 55 | 25 | 土層図 | |
| P5 | 円形 | 55 | 23 | 土層図 | |
| P6 | 円形 | 67×62 | 24 | 土層図 | |
| P7 | 円形 | 60 | 19 | 土層図 | |
| P8 | 不整円形 | 70 | 22 | 土層図 | |
| P9 | 円形 | 52 | 19 | 土層図 | |
| SD1-1 | — | 40～70 | 7～29 | 土層図 | |
| SD1-2 | — | 16～65 | 5～13 | 土層図 | |
| SD1-3 | — | 47～90 | 10～20 | 土層図 | |
| SD1-4 | — | 26～55 | 3～12 | 土層図 | |
| SK1-1 | 隅丸三角形 | 140×120 | 17 | 5Y8/2　灰白細～中砂 | |
| SP1-1 | 不整楕円形 | 76×60 | 9 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-2 | 長方形 | 65×34 | 9 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-3 | 円形 | 30 | 21 | 10YR6/2＋4/1　灰黄褐＋褐灰シルト質極細砂 | |
| SP1-4 | 円形 | 16 | 18 | 10YR6/2＋4/1　灰黄褐＋褐灰シルト質極細砂 | |
| SP1-5 | 楕円形 | 54×40 | 25 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-6 | 円形 | 30 | 23 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-7 | 円形 | 40×35 | 22 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-8 | 円形 | 22 | 10 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-9 | 円形 | 21 | 10 | 10YR6/1＋5/1　褐灰＋褐灰シルト質極細砂(2.5Y7/1　灰白シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-11 | 円形 | 33 | 17 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-12 | 楕円形 | 30×23 | 12 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-13 | 円形 | 30 | 13 | 10YR4/1＋5/2　褐灰＋灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-14 | 円形 | 25 | 11 | 2.5Y7/2　灰黄シルト質細砂(10YR4/2　灰黄褐シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-15 | 円形 | 15 | 11 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-16 | 円形 | 19 | 7 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-17 | 不整円形 | 25 | 18 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-18 | 円形 | 25 | 10 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-19 | 円形 | 22 | 10 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-20 | 円形 | 30 | 18 | 10YR4/1＋5/2　褐灰＋灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-21 | 円形 | 25 | 16 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-22 | 円形？ | 38 | 12 | 10YR5/2　灰黄褐シルト質極細砂(10YR4/1　褐灰シルト質極細砂を含む) | |
| SP1-23 | 隅丸方形 | 40 | 37 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂・10YR3/1　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP1-24 | 不整円形？ | 34 | 30 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-25 | 円形 | 24 | 18 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-26 | 円形 | 24 | 19 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-27 | 円形 | 28 | 30 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-28 | 円形 | 20 | 20 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-29 | 円形 | 30 | 22 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-30 | 円形 | 29 | 19 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP1-31 | 円形 | 40×30 | 19 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-32 | 楕円形 | 33×25 | 19 | 2.5Y8/2　灰白シルト質極細砂 | |
| SP1-33 | 円形 | 22 | 14 | — | |
| SX1-1 | 溝状 | 253×65 | 9 | 10YR6/2　灰黄褐シルト質細砂 | |
| SX1-2 | 溝状 | 230×48 | 8 | 10YR6/2　灰黄褐シルト質細砂 | |
| SX1-3 | 溝状 | 440×113 | 13 | 土層図 | |

**第2面**

| 遺構番号 | 平面形 | 直径・幅 | 深さ | 埋土 | 備考　()は調査時の遺構名 |
|---|---|---|---|---|---|
| SI2-1 | 楕円形 | 535×454 | 14 | 土層図 | |
| P1 | 円形 | 33 | 21 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P2 | 円形 | 27 | 13 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P3 | 円形 | 30 | 14 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P4 | 円形 | 28 | 24 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P5 | 円形 | 28 | 10 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P6 | 円形 | 25 | 18 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P7 | 円形 | 25 | 20 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P8 | 円形 | 23 | 17 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P9 | 円形 | 27 | 19 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| SI2-2 | 楕円形 | 550×478 | 15 | 土層図 | |
| P1 | 円形 | 25 | 20 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P2 | 円形 | 29×24 | 16 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P3 | 円形 | 30 | 28 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P4 | 円形 | 26 | 14 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P5 | 円形 | 28 | 17 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P6 | 円形 | 25 | 15 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| P7 | 円形 | 25 | 23 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4　にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | P8 | 円形 | 27 | 12 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P9 | 円形 | 23 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P10 | 円形 | 20 | 15 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P11 | 円形 | 23 | 18 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P12 | 円形 | 25 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| SI2-3 | | 楕円形 | 592×(340) | 7 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 32×28 | 13 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P2 | 円形 | 27 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P3 | 円形 | 26 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P4 | 円形 | 26 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P5 | 円形 | 20 | 21 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P6 | 円形 | 25 | 21 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P7 | 円形 | 20 | 20 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P8 | 円形 | 28 | 18 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P9 | 楕円形 | 30×20 | 23 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂(10YR7/4 にぶい黄橙シルト質極細砂を含む) | |
| | P10 | 円形 | 24 | 20 | — | |
| SI2-4 | | 円形？ | (342) | 6 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 50 | 17 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SI2-5 | | 円形 | 422×390 | 10 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 40 | 10 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P2 | 円形 | 35 | 11 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P3 | 円形 | 25 | 14 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P4 | 円形 | 20 | 10 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P5 | 円形 | 21 | 10 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P6 | 円形 | 25 | 14 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P7 | 楕円形 | 38×30 | 11 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| | P8 | 楕円形 | 110×70 | 10 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質細砂(地山を10%含む) | |
| SI2-6 | | 円形 | 410 | 8 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 20 | 11 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P2 | 円形 | 23 | 16 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P3 | 円形 | 25 | 15 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P4 | 円形 | 21 | 8 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P5 | 円形 | 16 | 10 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質細砂 | |
| | P6 | 円形 | 28 | 14 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P7 | 円形 | 25 | 9 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P8 | 円形 | 23 | 11 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P9 | 円形 | 20 | 12 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P10 | 円形 | 17 | 12 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SI2-7 | | 円形? | (453) | 6 | 10YR5/2＋4/3 灰黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P1 | 円形？ | 38 | 9 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SI2-8 | | 不整円形 | 570×498 | 8 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 20 | 14 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P2 | 円形 | 30×22 | 10 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P3 | 円形 | 27×20 | 9 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P4 | 円形 | 23 | 10 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P5 | 円形 | 25 | 9 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P6 | 円形 | 20 | 12 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P7 | 円形 | 20 | 10 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SI2-9 | | 楕円形 | 580×412 | 9 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 30 | 13 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P2 | 円形 | 28 | 12 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P3 | 円形 | 20 | 16 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P4 | 円形 | 35 | 20 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P5 | 円形 | 50 | 14 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P6 | 円形 | 20 | 21 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P7 | 円形 | 22 | 11 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P8 | 円形 | 41 | 12 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| | P9 | 円形 | 52 | 5 | 2.5Y5/3＋10YR5/3 黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SI2-10 | | 円形？ | (516) | 16 | 土層図 | |
| | P1 | 円形 | 26 | 14 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質細砂 | |
| | P2 | 円形 | 12 | 12 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂 | |
| SI2-11 | | 円形 | (362) | 0 | — | |
| | P1 | 円形 | 35 | 14 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | (SP2-37) |
| | P2 | 円形 | 30 | 21 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | (SP2-39) |
| | P3 | 円形 | 25 | 5 | — | (SP2-40) |
| | P4 | 円形 | 31 | 15 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | (SP2-38) |
| SB2-1 | P1 | 円形 | 30 | 30 | 土層図 | |
| | P2 | 円形 | 27 | 24 | 土層図 | |
| | P3 | 円形 | 23 | 19 | 土層図 | |
| | P4 | 円形 | 25 | 17 | 土層図 | |
| | P5 | 円形 | 36×30 | 21 | 土層図 | |
| | P6 | 円形 | 24 | 23 | 土層図 | |
| | P7 | 円形 | 28 | 20 | 土層図 | |
| | P8 | 円形 | 23 | 18 | 土層図 | |
| SB2-2 | P1 | 円形 | 40 | 20 | 土層図 | |
| | P2 | 円形 | 37 | 18 | 土層図 | |
| | P3 | 円形 | 35 | 15 | 土層図 | |
| | P4 | 円形 | 48 | 17 | 土層図 | |
| | P5 | 円形 | 37 | 14 | 土層図 | |
| | P6 | 円形 | 31 | 16 | 土層図 | |
| | P7 | 楕円形 | 40×31 | 15 | 土層図 | |
| | P8 | 円形 | 44 | 27 | 土層図 | |
| | P9 | 円形 | 41 | 17 | 土層図 | |
| | P10 | 円形 | 30 | 21 | 土層図 | |
| SA2-1 | P1 | 円形 | 25 | 10 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| | P2 | 円形 | 25 | 10 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| | P3 | 円形 | 26 | 18 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P4 | 円形 | 26 | 24 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P5 | 円形 | 27 | 25 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | P6 | 円形 | 25 | 20 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P7 | 円形 | 26 | 28 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P8 | 円形 | 21 | 12 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P9 | 円形 | 25 | 17 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P10 | 円形 | 21 | 20 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P11 | 円形 | 21 | 11 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| | P12 | 円形 | 30 | 25 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| SA2-2 | P1 | 楕円形 | 92×75 | 22 | 土層図 | (SK2-3) |
| | P2 | 円形 | 67 | 16 | 10YR5/2 灰黄褐シルト質極細砂 | (SK2-4) |
| | P3 | 円形 | 86 | 13 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | (SK2-6) |
| | P4 | 円形 | 75 | 18 | 2.5Y6/3 にぶい黄シルト質細砂～極細砂 | (SK2-11) |
| | P5 | 円形 | 78×67 | 20 | 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂 | (SK2-12) |
| SA2-3 | P1 | 円形 | 46 | 15 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-68) |
| | P2 | 円形 | 40×30 | 21 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂 | (SP2-70) |
| | P3 | 円形 | 43 | 25 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂 | (SP2-71) |
| | P4 | 楕円形 | 65×40 | 19 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-72) |
| | P5 | 円形 | 26 | 15 | 10YR4/3＋3/1 にぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂 | (SP2-73) |
| | P6 | 円形 | 40 | 14 | 10YR4/3＋3/1 にぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂 | (SP2-76) |
| | P7 | 円形 | 40 | 13 | 10YR4/3＋3/1 にぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂 | (SP2-77) |
| | P8 | 円形 | 30 | 12 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-78) |
| SA2-4 | P1 | 円形 | 30 | 16 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-120) |
| | P2 | 円形 | 24 | 8 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂 | (SP2-119) |
| | P3 | 円形 | 35×29 | 14 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-117) |
| SA2-5 | P1 | 円形 | 42 | 15 | 10YR4/3 にぶい黄褐シルト質細砂 | (SP2-61) |
| | P2 | 円形 | 36 | 17 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂 | (SP2-62) |
| | P3 | 円形 | 35 | 18 | 10YR4/3＋3/1 にぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂 | (SP2-63) |
| SA2-6 | P1 | 円形 | 22 | 22 | 10YR4/3＋3/1 にぶい黄褐＋黒褐シルト質細砂 | (SP2-85) |
| | P2 | 楕円形 | 43×26 | 18 | 10YR4/3 にぶい黄褐シルト質細砂 | (SP2-88) |
| | P3 | 不整円形 | 51×40 | 16 | 10YR4/1 褐灰シルト質細砂(2.5Y7/3 浅黄シルト質細砂を含む) | (SP2-89) |
| | P4 | 円形 | 46×39 | 16 | 10YR6/3＋4/1 にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | (SP2-90) |
| SK2-1 | | 円形 | 96 | 24 | 10YR3/2 黒褐シルト質極細砂 | |
| SK2-2 | | 円形 | 136×115 | 13 | 土層図 | |
| SK2-5 | | 欠番 | | | | |
| SK2-7 | | 円形 | 76 | 9 | 10YR4/1 褐灰シルト質極細砂 | |
| SK2-8 | | 不整円形 | 200×(80) | 37 | 土層図 | |
| SK2-9 | | 欠番 | | | | |
| SK2-10 | | 円形 | 68×58 | 20 | — | |
| SK2-13 | | 円形？ | 112 | 7 | 2.5Y5/3 黄褐シルト質極細砂 | |
| SK2-14 | | 円形 | 70 | 10 | 2.5Y6/3 にぶい黄シルト質細砂～極細砂 | |
| SK2-15 | | 円形 | 265 | 33 | 土層図 | |
| SK2-16 | | 円形? | 54 | 1 | 2.5Y5/3 黄褐シルト質極細砂 | |
| SK2-17 | | 楕円形 | 73×50 | 23 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂(10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂を若干含む | |
| SK2-18 | | 円形 | 55 | 22 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂(10YR5/3 にぶい黄褐シルト質極細砂を若干含む | |
| SK2-19 | | 不整楕円形 | 168×107 | 37 | 土層図 | |
| SK2-20 | | 不整楕円形 | 200×90 | 32 | 土層図 | |
| SK2-21 | | 不整楕円形 | 180×90 | 12 | 2.5Y5/3 黄褐シルト質極細砂 | |
| SK2-22 | | 楕円形 | 140×102 | 12 | 土層図 | |
| SK2-23 | | 楕円形 | 130×120 | 11 | 土層図 | |
| SK2-24 | | 円形 | 111×94 | 12 | 土層図 | |
| SK2-25 | | 円形 | 94×73 | 16 | 土層図 | |
| SK2-26 | | 円形 | 85×73 | 19 | 土層図 | |
| SK2-27 | | 円形 | 112 | 8 | — | |
| SK2-28 | | 楕円形 | 99×46 | 12 | — | (SP2-55) |
| SK2-29 | | 円形？ | 100 | 8 | — | |
| SK2-30 | | 楕円形 | 86×65 | 18 | 10YR5/3 にぶい黄褐シルト質細砂 | (SP2-34) |
| SD2-1 | | — | 275～414 | 45 | 土層図 | |
| SD2-2 | | — | 26 | 9 | 土層図 | |
| SD2-3 | | — | 36 | 8 | 10YR4/1＋2.5Y6/3 褐灰＋にぶい黄シルト質細砂(灰黄細砂を含む) | |
| SD2-4 | | — | 30 | 7 | 10YR4/1＋2.5Y6/3 褐灰＋にぶい黄シルト質細砂(灰黄細砂を含む) | |
| SP2-1 | | 円形 | 20 | 14 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-2 | | 円形 | 15 | 13 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-3 | | 円形 | 30 | 12 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-4 | | 円形 | 17 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-5 | | 円形 | 25 | 18 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-6 | | 円形 | 18 | 16 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-7 | | 円形 | 28 | 13 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-8 | | 円形 | 32×27 | 12 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-9 | | 欠番 | | | | |
| SP2-10 | | 円形 | 28×23 | 19 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-11 | | 円形 | 17 | 12 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-12 | | 円形 | 21 | 17 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-13 | | 円形 | 23×19 | 16 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-14 | | 円形 | 27×23 | 20 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-15 | | 円形 | 23 | 10 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-16 | | 楕円形 | 33×24 | 11 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-17 | | 円形 | 20 | 19 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-18 | | 円形 | 26×23 | 22 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-19 | | 円形 | 23 | 13 | 10YR4/1＋4/3 褐灰＋にぶい黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-20 | | 円形 | 18 | 8 | 10YR4/2 灰黄褐シルト質極細砂 | |
| SP2-21 | | 円形 | 38×32 | 12 | 10YR4/1＋2.5Y6/2 褐灰シルト質極細砂＋灰黄細砂 | |
| SP2-22 | | 欠番 | | | | |
| SP2-23 | | 欠番 | | | | |
| SP2-24 | | 欠番 | | | | |
| SP2-25 | | 欠番 | | | | |
| SP2-26 | | 円形 | 37 | 24 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂(10YR6/3 にぶい黄橙シルト質細砂を含む) | |
| SP2-27 | | 円形 | 33 | 17 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂(10YR6/3 にぶい黄橙シルト質細砂を含む) | |
| SP2-28 | | 円形 | 46×37 | 34 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂(10YR6/3 にぶい黄橙シルト質細砂を含む) | |
| SP2-29 | | 円形 | 20 | 17 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂(10YR6/3 にぶい黄橙シルト質細砂を含む) | |
| SP2-30 | | 円形 | 22 | 14 | 10YR3/1 黒褐シルト質極細砂(10YR6/3 にぶい黄橙シルト質細砂を含む) | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| SP2-31 | 円形 | 18 | 20 | 2.5Y5/2＋7/4　暗灰黄＋浅黄シルト質細砂 | |
| SP2-32 | 円形 | 24 | 19 | 2.5Y5/2＋7/4　暗灰黄＋浅黄シルト質細砂 | |
| SP2-33 | 円形 | 40 | 10 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-35 | 円形 | 50 | 12 | 2.5Y6/3　にぶい黄シルト質細砂～極細砂 | |
| SP2-36 | 欠番 | | | | |
| SP2-41 | 欠番 | | | | |
| SP2-42 | 円形 | 42 | 4 | — | |
| SP2-43 | 円形 | 24 | 17 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-44 | 円形 | 16 | 21 | 10YR5/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-45 | 円形 | 40 | 10 | — | |
| SP2-46 | 円形 | 20 | 22 | 10YR3/1　黒褐シルト質極細砂（10YR6/3　にぶい黄橙シルト質細砂を含む） | |
| SP2-47 | 不整円形 | 53×50 | 20 | — | |
| SP2-48 | 円形 | 24 | 11 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-49 | 円形 | 17 | 9 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-50 | 円形 | 35 | 10 | 10YR3/1　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP2-51 | 円形 | 27 | 10 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-52 | 欠番 | | | | |
| SP2-53 | 円形 | 15 | 10 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-54 | 円形 | 16 | 7 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-56 | 円形 | 30 | 13 | 10YR3/1　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP2-57 | 円形 | 15 | 4 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-58 | 円形 | 22 | 11 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-59 | 円形 | 32 | 17 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-60 | 円形 | 26 | 11 | 10YR3/1　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP2-64 | 楕円形 | 46×33 | 13 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-65 | 円形 | 29 | 7 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-66 | 円形 | 23 | 9 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-67 | 円形 | 40×34 | 14 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-69 | 円形 | 34 | 4 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-74 | 円形 | 20 | 11 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-75 | 円形 | 15 | 9 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-79 | 円形 | 33 | 17 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-80 | 円形 | 20 | 14 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-81 | 円形 | 23 | 16 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-82 | 円形 | 23 | 15 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-83 | 円形 | 35 | 16 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-84 | 円形 | 23 | 32 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-86 | 円形 | 22 | 15 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-87 | 円形 | 26 | 17 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-91 | 円形 | 34 | 15 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-92 | 楕円形 | 44×33 | 19 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-93 | 円形 | 20 | 23 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-94 | 円形 | 22 | 22 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-95 | 円形 | 29 | 20 | — | |
| SP2-96 | 円形 | 29 | 20 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-97 | 円形 | 40 | 24 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-98 | 円形 | 35 | 24 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-99 | 円形 | 41 | 17 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-100 | 円形 | 46×40 | 18 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-101 | 円形 | 17 | 12 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-102 | 円形 | 27 | 21 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-103 | 円形 | 33 | 21 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-104 | 不整円形 | 48 | 12 | 10YR4/3　にぶい黄褐シルト質細砂 | |
| SP2-105 | 円形 | 21 | 15 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-106 | 不整円形 | 25 | 19 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-107 | 円形 | 24 | 11 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-108 | 円形 | 20 | 17 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-109 | 円形 | 34 | 21 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-110 | 円形 | 48 | 14 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-111 | 円形 | 20 | 15 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-112 | 円形 | 18 | 13 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-113 | 円形 | 50 | 17 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-114 | 円形 | 28 | 18 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-115 | 円形 | 30 | 20 | 10YR3/2　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP2-116 | 円形 | 38 | 19 | 10YR3/2　黒褐シルト質極細砂 | |
| SP2-118 | 円形 | 25 | 16 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-121 | 楕円形 | 41×33 | 11 | 10YR6/3＋4/1　にぶい黄橙＋褐灰シルト質細砂 | |
| SP2-122 | 円形 | 31 | 13 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-123 | 円形 | 26 | 19 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-124 | 円形 | 37 | 18 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂，炭化材を含む） | |
| SP2-125 | 円形 | 22 | 10 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-126 | 欠番 | | | | |
| SP2-127 | 円形 | 30 | 4 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-128 | 円形 | 20 | 7 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-129 | 円形 | 20 | 8 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-130 | 円形 | 15 | 9 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-131 | 円形 | 21 | 14 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SP2-132 | 円形 | 19 | 20 | 10YR4/1　褐灰シルト質細砂（2.5Y7/3　浅黄シルト質細砂を含む） | |
| SX2-1 | — | (740)×(170) | 10 | 土層図 | |
| SX2-2 | 欠番 | | | | |
| SX2-3 | 方形 | (240)×(160) | 33 | 2.5Y4/1　黄灰シルト質細砂（2.5Y5/3　黄褐シルト質細砂を含む）<br>2.5Y7/4　浅黄シルト<br>2.5Y5/2　暗灰黄シルト質極細砂 | 風倒木痕 |
| SX2-4 | 溝状 | 160×27 | 8 | 10YR5/1＋2.5Y6/3　褐灰シルト質極細砂＋にぶい黄シルト | |
| SX2-5 | 溝状 | 193×67 | 9 | 土層図 | |
| SX2-6 | 不整方形 | 412×406 | 33 | 土層図 | |
| SX2-7 | 不整円形 | (233)×(104) | 6 | 2.5Y5/3＋10YR5/3　黄褐＋にぶい黄褐シルト質細砂 | 風倒木痕 |

## 第４表　遺物観察表

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm)<br>口径 | 底径 | 器高 | 調整<br>外面 | 内面 | 色調<br>上:外面 下:内面 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | SB1-1 P5 | 土師器 | 杯 | — | — | 〔0.8〕 | ナデ | ナデ | 10YR5/2 灰黄褐<br>7.5YR 6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 回転ヘラ切り後ナデ |
| 2 | SB1-1 P1 | 須恵器 | 杯 蓋 | (8.8) | — | 〔2.3〕 | 回転ナデ | 回転ナデ | 2.5Y5/1 黄灰<br>2.5Y5/1 黄灰 | 精良 | 良 | |
| 3 | SB1-1 P7 | 須恵器 | 杯 | — | — | 〔2.1〕 | ナデ | ナデ | N5/0 灰<br>N5/0 灰 | 普 | 良 | 内面に火襷 |
| 4 | SB1-1 P7 | 弥生土器 | 甕 | — | (5.0) | 〔1.5〕 | ナデ | ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 1mm～2mm大の石英・長石・雲母・角閃石を含む | 良 | |
| 5 | SB1-3 P2 | 弥生土器 | 高坏 | — | (16.4) | 〔1.7〕 | 摩滅 | ヘラ削り | 7.5YR5/6 明褐<br>7.5YR5/6 明褐 | 1mm～2mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 6 | SB1-3 P2 | 弥生土器 | 甕 | — | 4.6 | 〔2.8〕 | ナデ | 摩滅 | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR8/3 浅黄橙 | 1mm～5mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 7 | SB1-3 P5 | 弥生土器 | 高坏 | — | — | — | — | ヘラミガキ | 5YR6/6 橙<br>5YR5/6 明赤褐 | 1mm～5mm大の石英、1mm大の雲母・角閃石を含む | 良 | |
| 8 | SD1-1 | 土師器 | 高坏 | — | (14.0) | 〔1.9〕 | 摩耗 | ヘラ削り | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 1mm～5mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 9 | SD1-1 | 土師器 | 甕 | — | — | 〔1.5〕 | ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 1mm～2mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 10 | SD1-2 | 弥生土器 | 壺 | (10.8) | — | 〔1.3〕 | 摩滅 | 摩滅 | 2.5Y7/3 浅黄<br>2.5Y8/2 灰白 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 11 | SD1-2 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.4〕 | ハケ | ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm～3mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 12 | SD1-3 | 弥生土器 | 甕 | (12.0) | — | 〔3.8〕 | 貼付突帯1条、刻目、ナデ、ヨコナデ | ヘラナデ、指頭圧 | 10YR6/2 灰黄褐<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 2.5mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 13 | SD1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.7〕 | ヘラ描沈線2条、刺突文、ナデ | 摩滅 | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 14 | SD1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.6〕 | ナデ | ヘラナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 1.5mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 15 | SD1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.2〕 | 沈線2条、ハケ、ナデ | ナデ | 7.5YR6/3 にぶい褐<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1.5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 16 | SD1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | (9.0) | 〔4.0〕 | ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 17 | SD1-4 | 弥生土器 | 高坏 | — | — | 〔2.75〕 | ヨコナデ、ヘラ削り | ヨコナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/3 にぶい褐 | 1mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母を含む | 良 | |
| 18 | SD1-4 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔2.9〕 | 押圧突帯2条、ヨコナデ | ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR7/2 明褐灰 | 2.5mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 19 | SD1-4 | 弥生土器 | 甕 | — | (4.6) | 〔1.4〕 | ナデ | ヘラ削り | 7.5YR5/3 にぶい褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 1mm以下の石英・長石・金雲母・角閃石を含む | 良 | |
| 20 | SX1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.4〕 | ハケ、ナデ | ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR5/3 にぶい褐 | 1mm～3mm大の石英・長石・雲母・角閃石を含む | 良 | |
| 21 | SX1-3 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.4〕 | タタキ | 摩滅 | 10YR4/1 褐灰<br>10YR6/2 灰黄褐 | 普 | 良 | |
| 22 | SX1-3 | 弥生土器 | 高坏 | — | — | 〔3.7〕 | 摩滅 | 摩滅 | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 1mm以下の石英・長石・角閃石・赤色粒を多量に含む | 良 | |
| 23 | 第1面上面 | 須恵器 | 杯 | (15.0) | — | 〔3.1〕 | 回転ナデ | 回転ナデ | 10YR5/1 褐灰<br>5YR6/1 褐灰 | 普 | 良 | 外面に自然釉 |
| 24 | 第1面上面 | 須恵器 | 杯 | — | (9.6) | 〔1.1〕 | ナデ | ナデ | N6/0 灰<br>N6/0 灰 | 1mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 25 | 第1面上面 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔7.9〕 | ヘラ描沈線4条、指オサエ後ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 1mm～3mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 26 | 第1面上面 | 弥生土器 | 蓋 | — | (24.0) | 〔7.9〕 | ナデ | ヘラナデ後ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm～5mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 内面下部が煤化 |
| 27 | SK2-19 | 弥生土器 | 壺 | (15.0) | — | 〔3.1〕 | ヘラ描沈線、ナデ | 板ナデ後ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 1mm～3mm大の石英・長石、1mm大の雲母・赤色粒を含む | 良 | |
| 28 | SK2-19 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔5.8〕 | ヘラ描沈線、ヘラミガキ | 板ナデ | 7.5YR6/3 にぶい褐<br>2.5YR6/8 橙 | 1mm～4mm大の石英・長石、1mm大の雲母・赤色粒を含む | 良 | |
| 29 | SK2-19 | 弥生土器 | 甕 | — | (9.0) | 〔5.3〕 | ハケ | ナデ | 5YR7/6 橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm～4mm大の石英・長石、1mm大の雲母・赤色粒を含む | 良 | |
| 30 | SK2-19 | 弥生土器 | 甕 | — | 9.2 | 〔8.8〕 | ハケ、ヘラミガキ、ヘラ削り後ナデ | ヘラ削り | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR6/6 橙 | 1mm～5mm大の石英・長石、1mm大の赤色粒を含む | 良 | |
| 31 | SD2-1<br>(上層) | 弥生土器 | 甕 | (16.0) | — | 〔11.0〕 | ヘラ描沈線3条、摩滅 | 摩滅 | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 32 | SD2-1<br>(上層) | 弥生土器 | 壺 | (21.4) | — | 〔5.5〕 | 摩滅、剥離、ヘラミガキ | 摩滅、ナデ、指オサエ、貼付突帯 | 7.5YR4/4 褐<br>7.5YR7/6 橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 33 | SD2-1<br>(上層) | 弥生土器 | 甕 | (31.8) | — | 〔6.0〕 | 刻目、ヘラ描沈線4条、指オサエ、ナデ、摩滅 | 摩滅 | 7.5YR7/6 橙<br>7.5YR7/6 橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 34 | SD2-1<br>(上層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.5〕 | ヨコナデ、指オサエ、ナデ、刻目 | ヨコナデ、ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 35 | SD2-1<br>(上層) | 弥生土器 | 蓋 | 天井部径<br>(7.4) | — | 〔8.5〕 | ハケ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR5/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 36 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | (11.0) | — | 〔4.5〕 | ヨコナデ、ナデ | ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/6 橙 | 1mm～3mm程度の石英・長石を含む | 良 | |

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm)<br>口径 | 底径 | 器高 | 調整<br>外面 | 内面 | 色調<br>上:外面 下:内面 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | (14.0) | — | 〔3.85〕 | ナデ、板ナデ後ナデ | ヘラミガキ、ヘラナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 38 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | (15.2) | — | 〔1.5〕 | ナデ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR6/2 灰黄褐<br>10YR6/2 灰黄褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 39 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔5.6〕 | ヘラ描沈線1条、板ナデ後ヨコナデ、ヘラミガキ | ナデ | 10YR8/3 浅黄橙～<br>10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 40 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔7.4〕 | ヘラ描沈線3条、ナデ、剥離 | ナデ、剥離 | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm～5mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 41 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.7〕 | ヘラ描沈線5条、ナデ | ハケ | 10YR4/1 褐灰<br>7.5YR7/3 にぶい橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に被熱痕 |
| 42 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔5.0〕 | 櫛描直線文、刺突文、ハケ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 43 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.2〕 | ナデ、貼付突帯 | ナデ、摩滅 | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 44 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔6.6〕 | ヨコナデ、板ナデ | 指オサエ後ナデ | 7.5YR4/2 灰褐<br>7.5YR5/3 にぶい褐 | 5mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 45 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔7.95〕 | ハケ後ナデ、ヘラ描沈線5条 | 指オサエ後ナデ | 10YR8/4 浅黄橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 4mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | 口縁端部に接合痕 |
| 46 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | (27.0) | — | 〔8.5〕 | 刻目、ヘラ描沈線3条、ヨコナデ、指オサエ、ハケ | ナデ、剥離 | 7.5YR6/3 にぶい褐<br>10YR6/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 外面に煤付着 |
| 47 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.9〕 | 刻目、ヘラ描沈線3条、ナデ | ナデ、指頭圧 | 10YR8/3 浅黄橙～<br>10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 48 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.6〕 | ヨコナデ、ナデ、刻目 | 板ナデ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 49 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.2〕 | ナデ、ヘラ描沈線4条 | ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 接合痕 |
| 50 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.7〕 | ヘラ描沈線4条、ヘラナデ、ナデ | ヘラミガキ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR5/6 明褐 | 0.5mm～3mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の赤色粒を含む | 良 | |
| 51 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.2〕 | ハケ、ヘラ描沈線、山形文 | ナデ | 10YR5/4 にぶい黄褐<br>10YR5/4 にぶい黄褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 52 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.2〕 | ヘラ描沈線、山形文、ナデ | ナデ | 10YR5/2 灰黄褐<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 53 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.65〕 | ヘラ描沈線、刺突文、ナデ、ヘラミガキ | ナデ | 7.5YR4/2 灰褐<br>7.5YR4/2 灰褐 | 1mm～3mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 54 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.5〕 | 削出突帯、板ナデ | ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 55 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 6.8×6.5 | 〔8.2〕 | ハケ、ヘラミガキ、ナデ | ナデ、指オサエ、板ナデ、指ナデ | 5YR6/6 橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 56 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 6.6 | 〔5.9〕 | ヘラナデ、ナデ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 57 | SD2-1<br>(上～中層) | 弥生土器 | 蓋 | 天井部径<br>(6.5) | — | 〔9.6〕 | 横方向のナデ、ヘラミガキ、ヘラ削り | ヘラミガキ、ナデ | 7.5YR5/2 灰褐<br>5YR4/1 褐灰、5YR5/6 明赤褐 | 4mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 58 | B層<br>(下層) | 弥生土器 | 鉢 | (19.2) | — | 〔5.2〕 | ヨコナデ、ナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ナデ | 7.5YR4/1 褐灰<br>5YR5/4 にぶい赤褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 59 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (16.1) | — | 〔5.1〕 | ヘラ描沈線1条、ヨコナデ、指オサエ、ナデ、ヘラミガキ、板ナデ | ナデ | 10YR8/3 浅黄橙 | 3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 60 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (16.4) | — | 〔2.7〕 | ヨコナデ、指オサエ後ヨコナデ | ヘラミガキ、摩滅 | 10YR8/3 浅黄橙<br>10YR5/1 褐灰 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 61 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (17.5) | — | 〔6.9〕 | 削出突帯、ヨコナデ、ナデ | ヘラミガキ、摩耗 | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 62 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (20.8) | — | 〔5.1〕 | ヘラ描沈線2条、ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>10YR6/3 にぶい黄褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 63 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (23.4) | — | 〔4.1〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 64 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (16.1) | — | 〔11.4〕 | ナデ、ヨコナデ、貼付突帯 | ヨコナデ、指オサエ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 65 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔8.1〕 | ナデ | 指頭圧後ナデ | 10YR8/3 浅黄橙<br>7.5YR8/4 浅黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 66 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.2〕 | ヨコナデ、ナデ、貼付突帯2条 | ナデ、指オサエ | 2.5YR4/6 赤褐<br>10YR3/3 暗褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 67 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | (9.6) | 〔22.8〕 | 貼付突帯、指頭圧痕、ハケ後ヘラミガキ | ヘラミガキ | 7.5YR4/3 褐<br>7.5YR4/4 褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良好 | 押圧文に工具痕が残存 |
| 68 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (16.8) | — | 〔9.9〕 | 貼付突帯、指頭圧痕、ナデ | ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 69 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔9.6〕 | 貼付突帯2条、円形刺突文、指頭圧痕 | ナデ、指オサエ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 70 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (15.2) | — | 〔6.4〕 | ヨコナデ、ヘラミガキ、貼付文 | ヨコナデ、ヘラミガキ | 5YR4/6 赤褐<br>5YR4/8 赤褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 71 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.0〕 | ナデ、ヨコナデ、貼付突帯2条 | 指オサエ後ナデ | 10YR8/4 浅黄橙<br>10YR8/4 浅黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 72 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔12.4〕 | 貼付突帯2条、ナデ、ヨコナデ | ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR8/2 灰白 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | | | 調整 | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 上:外面 下:内面 | | | |
| 73 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.9〕 | 貼付突帯1条、ナデ、摩滅 | ナデ、摩滅 | 10YR8/4 浅黄橙<br>10YR8/4 浅黄橙 | 3mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 74 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.0〕 | 貼付突帯1条、刻目、ナデ | ナデ | 7.5YR5/6 明褐<br>7.5YR5/6 明褐 | 0.5mm～3.5mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 75 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔4.6〕 | 貼付突帯2条、指頭圧痕、摩滅 | ナデ | 10YR6/6 明黄褐<br>10YR4/2 灰黄褐、<br>10YR6/6 明黄褐 | 1.5mm～4mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 76 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔7.2〕 | ヘラ描沈線6条、ナデ | ナデ | 5YR5/6 明赤褐<br>2.5Y7/3 浅黄 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 77 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.3〕 | ヘラ描沈線、ヘラミガキ | ナデ後ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 78 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (19.2) | — | 〔9.6〕 | ナデ、摩滅 | 貼付突帯、円形刺突文、指オサエ後ナデ、摩滅 | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む | 良 | |
| 79 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔9.7〕 | 摩滅 | ナデ、貼付突帯1条 | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR5/6 明褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 内面に黒斑 |
| 80 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | (17.6) | — | 〔6.7〕 | 削出突帯、ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石を含む、2mm以下の赤色粒を含む | 良 | |
| 81 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔5.55〕 | ナデ、削出突帯文4条 | ヘラミガキ | 2.5Y7/3 浅黄<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 82 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔7.8〕 | ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ、削出突帯4条 | ナデ | 2.5Y7/3 浅黄<br>10YR8/3 浅黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 83 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔11.0〕 | ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ、ヘラナデ | 7.5YR6/8 橙<br>10YR6/6 明黄褐 | 5mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 外面に煤付着、輪積み痕 |
| 84 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 壺 | — | (8.4) | 〔16.2〕 | ヘラ描沈線2条、摩滅 | 摩滅 | 10YR6/4 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 内面に黒斑、底部:指オサエ後ナデ |
| 85 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (28.8) | — | 〔5.8〕 | 刻目、ヘラ描沈線6条、ヨコナデ、指オサエ、ナデ | 指オサエ、ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 86 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (29.0) | — | 〔25.2〕 | 刻目、ヘラ描沈線文、刺突文、ヘラミガキ、板ナデ | 摩滅 | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 87 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (18.8) | — | 〔8.1〕 | 刻目、ヘラ描沈線7条、ヨコナデ、ナデ | 指ナデ後ナデ | 10YR6/2 灰黄褐<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 88 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (19.0) | — | 〔3.4〕 | 刻目、ヨコナデ、ナデ | 指オサエ後ナデ | 10YR5/3 にぶい黄褐<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 89 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (15.4) | — | 〔10.0〕 | 刻目、ヘラ描沈線6条、ヨコナデ、指オサエ、ナデ | 指ナデ後ナデ | 7.5YR7/3 にぶい橙<br>7.5YR6/3 にぶい褐 | 4mm以下の石英・長石・黒色粒を含む | 良 | 外面一部に黒斑 |
| 90 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (15.6) | — | 〔7.4〕 | ヨコナデ、ヘラ描沈線6条、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 5YR4/6 赤褐<br>5YR5/6 明赤褐 | 4mm以下の石英・長石含む | 良 | |
| 91 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (20.8) | — | 〔7.6〕 | 刻目、櫛描直線文、ヨコナデ、指オサエ | ヨコナデ、ヘラナデ | 10YR6/2 灰黄褐<br>10YR6/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 92 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (22.6) | — | 〔12.0〕 | 刻目、ヘラ描沈線4条、ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ナデ | 10YR5/3 にぶい黄褐<br>2.5Y6/3 にぶい黄 | 2mm～4mmの石英を含む | 良 | |
| 93 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | — | 〔17.8〕 | 刻目、ヘラ描沈線6条、ヨコナデ、ナデ | 板ナデ、ナデ | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR6/2 灰褐 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 94 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (14.4) | — | 〔5.2〕 | 貼付突帯、刻目、指オサエ、ヘラナデ、ヘラ描沈線7条 | ヘラナデ、指オサエ | 10YR4/6 褐<br>10YR5/4 にぶい黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 95 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (15.8) | — | 〔7.2〕 | 刻目、ヘラ描沈線5条、ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、指オサエ、ナデ | 7.5YR3/3 暗褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 96 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | (27.2) | — | 〔27.2〕 | 刻目、ヘラ描沈線文6条、ヨコナデ、板ナデ | 指オサエ、板ナデ、ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm～6mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 輪積み痕 |
| 97 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.7〕 | 刻目、ヘラ描沈線1条、摩滅 | ナデ | 5YR5/6 明赤褐<br>5YR5/6 明赤褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 98 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔1.4〕 | 山形文、刻目、沈線1条、ナデ、板ナデ | ナデ | 7.5YR4/4 褐<br>7.5YR4/3 褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 99 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.3〕 | ヨコナデ、刻目、ヘラ描沈線 | ヨコナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 100 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.3〕 | 刻目、ナデ、ヘラ描沈線4条 | ナデ | 7.5YR7/4 にぶい橙<br>7.5YR7/6 橙 | 4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 101 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.1〕 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、板ナデ、ヘラミガキ | 5YR7/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 102 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.1〕 | 櫛描直線文、ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 103 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.5〕 | ヘラ描沈線、山形文、板ナデ、ナデ | 板ナデ | 10YR4/2 灰黄褐、<br>10YR4/3 にぶい黄褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 0.5mm～3mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 104 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔6.7〕 | ヘラ描沈線、山形文、ハケ後ナデ | ナデ | 10YR5/3 にぶい黄褐<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 105 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | (5.1) | 〔5.1〕 | ナデ | ナデ、指ナデ | 5YR5/4 にぶい赤褐～<br>5YR5/6 明赤褐<br>7.5YR6/6 橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を含む | 良 | 外面の底部～体部に煤化 |
| 106 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | (9.2) | 〔6.9〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ、ヘラミガキ、指ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙、<br>5YR6/6 橙<br>5YR5/6 明赤褐 | 1mm～4.5mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 107 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 11.4 | 〔9.65〕 | ナデ、ヘラナデ | 指ナデ、ナデ | 7.5YR6/3 にぶい褐<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3.5mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 底部にモミ痕、外面一部に黒斑 |
| 108 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 6.1×5.5 | 〔3.8〕 | ハケ、ナデ | 板ナデ | 10YR3/2 黒褐<br>10YR3/2 黒褐 | 普 | 良 | |

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | | | 調整 | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 上:外面 下:内面 | | | |
| 109 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 7.2 | 〔4.0〕 | ハケ | 指ナデ、ナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 3.5mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 底部にモミ痕、外面一部に黒斑 |
| 110 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | (7.4) | 〔4.9〕 | ハケ | ナデ、指ナデ | 7.5YR7/3 にぶい橙<br>7.5YR7/3 にぶい橙 | 1mm～4mm程度の石英・長石を含む、1.5mm程度の赤色粒を含む | 良 | 底部にモミ痕 |
| 111 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 12.2 | 〔11.7〕 | ナデ、ヘラミガキ | 指ナデ、ヘラミガキ | 10YR8/3 浅黄橙～<br>10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 112 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 7.2 | 〔7.2〕 | ハケ | ナデ、ハケ、指ナデ | 7.5YR4/1 褐灰<br>7.5YR7/6 橙 | 4mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 113 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | (7.3) | 〔10.5〕 | ハケ、ヘラナデ、ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を多量に含む | 良 | |
| 114 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 底部 | — | 12.2 | 〔4.8〕 | ハケ | 指オサエ、ナデ後ヘラミガキ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 5mm以下の石英・長石を含む | 良 | 底部にモミ痕、輪積み痕 |
| 115 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | — | 天井部径<br>(7.6) | 〔5.5〕 | ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ | 7.5YR7/1 黒<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 116 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | — | 天井部径<br>6.0 | 〔6.6〕 | ヘラナデ、ナデ | ナデ | 5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 4mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多量に含む | 良 | |
| 117 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | — | — | 〔8.0〕 | ハケ後ナデ、ヘラミガキ | 指オサエ、板ナデ後ヘラミガキ | 10YR5/3 にぶい黄褐<br>5YR7/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に剥落痕 |
| 118 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | (19.6) | — | 〔3.9〕 | ハケ、ナデ | ハケ、ナデ | 7.5YR5/8 明褐<br>7.5YR5/6 明褐 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒を含む | 良 | |
| 119 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | (19.2) | — | 〔3.1〕 | ヘラミガキ、ナデ | ヘラミガキ、ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 120 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | (20.6) | — | 〔5.8〕 | ナデ、ヘラミガキ、ヨコナデ | 板ナデ、ヘラミガキ、ヨコナデ | 10YR4/1 褐灰<br>10YR5/1 褐灰 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 121 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 蓋 | (21.4) | — | 〔1.7〕 | ナデ後ヘラミガキ | ヘラナデ後ヘラミガキ | 7.5YR6/3 にぶい褐<br>7.5YR6/3 にぶい褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 122 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 鉢 | (19.2) | — | 〔8.5〕 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ハケ、ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 123 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 鉢 | — | — | 〔6.7〕 | ナデ、ハケ | 指オサエ後ナデ | N2/0 黒<br>10YR4/2 灰黄 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 124 | SD2-1<br>(中層) | 弥生土器 | 高杯 | — | (4.0) | 〔2.6〕 | ナデ | ナデ、指オサエ | 10YR8/3 浅黄橙<br>10YR6/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 125 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (14.8) | — | 〔5.85〕 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ヘラミガキ | 7.5YR7/4 にぶい橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 内面に黒斑 |
| 126 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (16.4) | — | 〔6.7〕 | ナデ、摩滅 | ナデ、ヘラミガキ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 3mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 127 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (19.7) | — | 〔9.35〕 | 板ナデ、ナデ | ナデ | 10YR6/2 灰黄褐<br>10YR5/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | 工具痕 |
| 128 | SD2-1<br>(最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | 6.3 | 〔16.6〕 | 貼付突帯1条、板ナデ、ナデ、ヘラミガキ | 指オサエ、ナデ、指ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 3mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 129 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (19.6) | — | 〔4.85〕 | ヨコナデ、ハケ、ヘラミガキ、削出突帯 | ヨコナデ、ヘラミガキ | 5YR6/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 130 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (20.7) | — | 〔5.0〕 | ナデ | ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ | 7.5YR8/6 浅黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 131 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (20.6) | — | 〔3.4〕 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 132 | SD2-<br>(下層) | 弥生土器 | 壺 | (21.0) | — | 〔5.55〕 | ハケ、ヨコナデ、ヘラミガキ | ヨコナデ、ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 133 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔2.85〕 | ヨコナデ、ヘラミガキ | ヨコナデ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 134 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔5.1〕 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、貼付突帯 | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR6/6 橙 | 1mm～3mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 135 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔4.3〕 | ヘラミガキ | ナデ、指頭ナデ、貼付突帯 | 7.5YR7/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 136 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔9.45〕 | ヨコナデ、貼付突帯 | ナデ | 2.5YR5/6 暗褐<br>2.5Y4/2 暗灰黄 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 突帯貼付の下に沈線 |
| 137 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔2.5〕 | 貼付突帯、ナデ | ナデ | 5YR6/6 橙<br>5YR5/6 明赤褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 138 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.5〕 | ヘラミガキ、貼付突帯、刻目 | ナデ | 10YR8/3 浅黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 体部に黒斑 |
| 139 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.65〕 | ヘラミガキ、ヘラ描沈線4条 | ナデ | 7.5YR3/1 黒褐<br>7.5YR2/1 黒 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 140 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔4.1〕 | 削出突帯、ハケ、ヘラミガキ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 141 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.0〕 | 削出突帯、ハケ、ヘラミガキ | 剥離 | 5YR6/6 橙<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 142 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔6.9〕 | ヘラ描沈線、ナデ | 指オサエ、ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 143 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (21.2) | — | 〔14.3〕 | 刻目、ヘラ描沈線7条、ハケ、ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ | ナデ、ヨコナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR5/3 にぶい褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 144 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (22.4) | — | 〔8.5〕 | ヨコナデ、工具痕、ハケ、刻目、ヘラ描沈線 | ヨコナデ、ヘラミガキ | 7.5YR5/3 にぶい褐<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | | | 調整 | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 上:外面 下:内面 | | | |
| 145 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (28.8) | — | 〔5.1〕 | ヨコナデ、刻目、ヘラ描沈線7条 | ヨコナデ、ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>5YR6/6 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | 外面に黒班 |
| 146 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 甕 | (28.2) | — | 〔35.2〕 | 貼付突帯、刻目、ヘラ描沈線6条、ハケ、ヘラミガキ | 指オサエ、ヨコナデ後ヘラミガキ、ヨコヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒班 |
| 147 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 壺 | (17.0) | — | 〔3.0〕 | ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ、工具痕 | ヨコナデ、ヘラミガキ | 10YR8/4 浅黄橙<br>10YR1.7/1 黒 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 148 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.8〕 | ヘラ描沈線6条、刻目、摩滅 | 摩滅 | 7.5YR8/4 浅黄橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を多量に含む | 良 | |
| 149 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔8.5〕 | ナデ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/2 にぶい黄橙<br>10YR4/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 内面に煤(被熱痕)付着 |
| 150 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (20.0) | — | 〔7.0〕 | 刻目、ヘラ描沈線5条、ヨコナデ、板ナデ | ヨコナデ、ナデ、板ナデ、指オサエ | 7.5YR4/2 灰褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 1mm～3mm程度の石英・長石・雲母を含む | 良 | |
| 151 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (24.0) | — | 〔4.25〕 | ヨコナデ、ヘラ描沈線、山形文 | 摩滅 | 10YR4/3 にぶい黄褐<br>10YR5/4 にぶい黄褐 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 152 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 甕 | (22.4) | — | 〔2.95〕 | 刻目、ヘラ描沈線4条、ヨコナデ | ナデ、指オサエ、ヨコナデ | 7.5YR7/3 にぶい橙～<br>7.5YR7/4 にぶい橙<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 153 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (21.3) | — | 〔2.4〕 | ナデ、刻目、ヘラ描沈線2条 | ナデ | 5YR7/8 橙<br>7.5YR7/6 橙 | 1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 154 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 甕 | (28.4) | — | 〔9.2〕 | ヨコナデ、ナデ、ハケ、ヘラミガキ、刻目、ヘラ描沈線9条 | ヨコナデ、指オサエ後ヘラナデ、ヘラミガキ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 155 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔3.75〕 | ヘラ描沈線3条、摩滅 | 摩滅 | 2.5Y8/3 淡黄<br>10YR7/6 明黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 156 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 甕 | (16.6) | — | 〔8.2〕 | 刻目、ヘラ描沈線9条、貼付突帯、ヨコナデ、ハケ後ナデ | 指オサエ後ナデ | 10YR3/1 黒褐<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 157 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.7〕 | ヨコナデ、指オサエ、刻目、ヘラ描沈線6条 | ヨコナデ、ヘラミガキ、指オサエ | 5YR7/6 橙<br>10YR5/4 にぶい黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 158 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.1〕 | ヨコナデ、ヘラ描沈線3条 | ヨコナデ、ヘラミガキ | 10YR3/2 黒褐<br>10YR4/1 褐灰 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に煤付着 |
| 159 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔2.0〕 | ヨコナデ、刻目 | ヨコナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>10YR6/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 160 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | (24.2) | — | 〔3.7〕 | ヨコナデ、板ナデ後ナデ | 板ナデ後ヘラミガキ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒を含む | 良 | |
| 161 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.6〕 | ヨコナデ、刻目、ヘラ描沈線4条 | ヨコナデ、板ナデ | 10YR7/2 にぶい黄橙<br>10YR6/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 162 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔4.25〕 | ハケ、ヘラ描沈線2条、刺突文 | ナデ | 10YR3/2 黒褐<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 164 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 底部 | — | 6.4 | 〔4.8〕 | ナデ、ヘラナデ | ナデ、指ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>5YR5/6 明赤褐 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | 内面に工具痕 |
| 165 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | (6.4) | 〔6.6〕 | ナデ | ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | 接合痕、底部にモミ痕 |
| 166 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | (6.7) | 〔6.3〕 | 板ナデ、ナデ | 指オサエ、ナデ、ヘラミガキ | 7.5YR6/4 にぶい橙～<br>7.5YR5/4 にぶい褐<br>5YR6/6 橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 底面にヘラ記号様のものがある |
| 167 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 底部 | — | (6.8) | 〔5.9〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 黒班 |
| 168 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 底部 | — | 7.6～7.9 | 〔10.1〕 | ヘラケズリ後板ナデ、横方向のナデ | 1方向の指ナデ、ナデ | 7.5YR7/6 橙<br>5YR7/6 橙 | 4mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | |
| 169 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | 11.2 | 〔6.5〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/3 にぶい黄橙<br>5YR6/6 橙 | 1mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | 底部にモミ痕・黒班 |
| 170 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | (9.8) | 〔6.75〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ、指オサエ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR8/6 黄橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | 底部にモミ痕 |
| 171 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | (16.4) | 〔6.5〕 | ヘラミガキ、ナデ、削り | ヘラミガキ、ナデ | 5YR6/6 橙<br>5YR5/8 明赤褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 172 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 底部 | — | 11.2 | 〔7.4〕 | ナデ、ヘラミガキ | 指オサエ、ナデ | 7.5YR6/8 橙<br>7.5YR6/6 橙 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 173 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 蓋 | — | — | 〔3.25〕 | 板ナデ | ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR5/2 灰黄褐 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 174 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 蓋 | — | 天井部径<br>(6.4) | 〔2.2〕 | ナデ、板ナデ | 指頭圧、板ナデ、ナデ | 10YR5/2 灰黄褐<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm～3mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 175 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 蓋 | — | 天井部径<br>5.0 | 〔2.45〕 | ナデ、指オサエ | 指オサエ | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR8/4 浅黄橙 | 2mm以下の石英・長石を多量に含む | 良 | 外面に煤付着 |
| 176 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 蓋 | — | 天井部径<br>6.8 | 〔9.15〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ | 10YR5/4 にぶい黄褐<br>5YR6/8 橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 177 | SD2-1<br>(下層) | 弥生土器 | 鉢 | (21.2) | — | 〔9.65〕 | ハケ | 摩滅(一部に板ナデ) | 10YR4/2 灰黄褐<br>10YR6/2 灰黄褐 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に煤付着 |
| 178 | SD2-1<br>(下～最下層) | 弥生土器 | 鉢 | — | — | 〔5.3〕 | ハケ | 指頭圧後ナデ | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 179 | SD2-1 | 弥生土器 | 壺 | (14.4) | — | 〔3.9〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ、ヘラミガキ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 180 | SD2-1 | 弥生土器 | 壺 | (21.4) | — | 〔9.9〕 | 沈線1条、貼付突帯、刻目、ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ | ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ、指オサエ | 10YR4/2 灰黄褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 3mm以下の石英・長石・金雲母・赤色粒を含む | 良 | |
| 181 | 側溝 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.25〕 | ナデ、刻目 | ナデ | 10YR3/2 黒褐<br>10YR4/1 褐灰 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |

| 番号 | 遺構名<br>層位名 | 種類 | 器種 | 法量(cm) | | | 調整 | | 色調<br>上:外面 下:内面 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | | | | |
| 182 | SD2-1 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.2〕 | ナデ | ヘラミガキ | 5YR5/6 明赤褐<br>5YR5/6 明赤褐、<br>5YR4/4 にぶい赤褐 | 0.5mm～4.5mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 183 | 側溝 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔3.8〕 | 貼付突帯、ヘラミガキ、ナデ | ナデ、指頭圧 | 7.5YR7/6 橙<br>10YR8/3 浅黄橙 | 4mm以下の石英・長石・黒色粒を含む | 良 | 工具による押圧 |
| 184 | 側溝 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔2.9〕 | ナデ、貼付突帯 | ナデ | 10YR4/1褐灰、<br>10YR4/8浅黄橙<br>10YR4/8浅黄橙 | 3mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 185 | 側溝 | 弥生土器 | 甕 | (15.2) | — | 〔5.8〕 | 刻目、ヘラ描沈線11条以上、山形文、ナデ | 摩滅 | 7.5YR6/4 にぶい橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む | 良 | |
| 186 | 側溝 | 弥生土器 | 甕 | (27.0) | — | 〔8.5〕 | ヘラ描沈線18条、山形文、ナデ、ハケ | ハケ、ナデ、指ナデ | 10YR5/4 にぶい黄褐、<br>10YR5/4 にぶい黄橙<br>10YR6/4 にぶい黄橙 | 0.5mm～3.5mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 187 | SD2-1 | 弥生土器 | 甕 | (27.8) | — | 〔12.8〕 | 刻目、ヘラ描沈線6条、ヨコナデ、ハケ | 指オサエ後ナデ | 2.5Y8/3 淡黄<br>2.5Y8/3 淡黄 | 2mm～3mm程度の石英を含む | 良 | |
| 188 | 側溝 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.5〕 | 刻目、櫛描直線文16条、摩滅 | 摩滅 | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 189 | SD2-1 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔8.4〕 | ヘラ描沈線4条、ハケ | ナデ、ヘラミガキ | 2.5Y8/2 灰白<br>10YR7/2 にぶい黄橙 | 1mm以下の石英・長石を含む | 良 | 外面に黒斑 |
| 190 | SD2-1 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔5.7〕 | 刻目、ヘラ描沈線8条、ヨコナデ、板ナデ | 指頭圧、ヨコナデ、ヘラナデ | 10YR3/3 暗褐<br>7.5YR5/4 にぶい褐 | 2mm以下の石英・長石を含む | 良 | |
| 191 | 側溝 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔2.9〕 | ヨコナデ、指オサエ、ハケ | ナデ、板ナデ | 10YR3/2 黒褐<br>7.5YR7/4 にぶい橙 | 2mm以下の石英・長石・赤色粒を多量に含む | 良 | |
| 192 | SD2-1 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔2.4〕 | 刻目、ヘラミガキ | ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ | 10YR6/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm～4mm程度の石英・長石を含む | 良 | |
| 193 | 側溝 | 弥生土器 | 底部 | — | 9.2×7.8 | 〔6.0〕 | ハケ、ナデ | 摩滅 | 10YR6/3 にぶい黄橙<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 3mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 194 | 側溝 | 弥生土器 | 底部 | — | (12.4) | 〔5.2〕 | 摩滅 | 摩滅、ナデ | 7.5YR6/6 橙<br>7.5YR6/6 橙 | 0.5mm～4mm程度の石英・長石を含む、1mm程度の赤色粒を含む | 良 | 底部にモミ痕 |
| 195 | SD2-1 | 弥生土器 | 底部 | — | 10.6 | 〔3.2〕 | 摩滅(一部に板ナデ) | 摩滅 | 7.5YR7/4 にぶい橙<br>10YR8/7 灰白 | 4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | 体部に煤付着 |
| 196 | 側溝 | 弥生土器 | 甑 | — | (8.0) | 〔20.6〕 | ヘラ描沈線、刺突文、板ナデ後ナデ、ナデ | 指ナデ、ナデ、ヘラミガキ、ヘラナデ | 5YR4/6 赤褐<br>7.5YR4/6 褐 | 1mm～5mm大の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 197 | 側溝 | 弥生土器 | 蓋 | 天井部径<br>(9.8) | — | 〔3.7〕 | ナデ | ナデ | 7.5YR3/1 黒褐<br>10YR7/3 にぶい黄橙 | 4mm以下の石英・長石・赤色粒を含む | 良 | |
| 221 | SX2-1 | 弥生土器 | 壺 | (19.4) | — | 〔6.3〕 | ヘラ描沈線2条、ナデ | 板ナデ後ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>10YR7/6 明黄褐 | 1mm～4mm大の石英・長石、1mm大の赤色粒を含む | 良 | |
| 222 | SX2-1 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 〔4.0〕 | ヘラ描沈線6条、摩滅 | ナデ | 7.5YR7/6 橙<br>7.5YR5/6 明褐 | 1mm～4mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 223 | SX2-1 | 弥生土器 | 甕 | (21.8) | — | 〔6.5〕 | 刻目、ヘラ描沈線、ハケ後指オサエ | ナデ | 7.5YR5/3 にぶい褐<br>10YR6/3 にぶい黄橙 | 1mm～5mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 224 | SX2-1 | 弥生土器 | 甕 | (40.4) | — | 〔11.7〕 | ハケ | ナデ | 7.5YR5/4 にぶい褐<br>7.5YR5/3 にぶい褐 | 1mm～3mm大の石英・長石を含む | 良 | |
| 225 | 第2面上面 | 弥生土器 | 甕 | (21.2) | — | 〔4.9〕 | 刻目、ヘラ描沈線10条、指オサエ後ヨコナデ | ナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙<br>10YR7/4 にぶい黄橙 | 1mm～3mm大の石英・長石、1mm以下の赤色粒を含む | 良 | |
| 226 | 第2面上面 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔7.2〕 | ナデ、ヘラミガキ | ナデ | 10YR2/1 黒<br>10YR8/3 浅黄橙 | 1mm～3mm大の石英・長石、1mm大の赤色粒を含む | 良 | |
| 227 | 第2面上面 | 弥生土器 | 甕 | — | — | 〔10.8〕 | ヘラ描直線文、ナデ | ヘラナデ後ヘラミガキ | 10YR7/4 にぶい黄橙<br>7.5YR6/4 にぶい橙 | 1mm～3mm大の石英・長石、1mm大の赤色粒を含む | 良 | |
| 228 | 第2面上面 | 弥生土器 | 底部 | — | (10.4) | 〔4.4〕 | 摩滅 | ナデ | 7.5YR7/6 橙<br>5YR7/8 橙 | 1mm～3mm大の石英・長石、1mm大の赤色粒を含む | 良 | |

| 番号 | 出土遺構名 | 名称 | 法量(cm) | | | 重さ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 198 | SD2-1(上～中層) | 楔形石器 石核 | 4.3 | 7.2 | 1.6 | 57.8 | 階段状剥離あり |
| 199 | SD2-1(上～中層) | 楔形石器 | 5.8 | 5.0 | 1.2 | 40.9 | |
| 200 | SD2-1(上～中層) | 楔形石器 | 6.3 | 4.6 | 1.1 | 32.1 | |
| 201 | SD2-1(上～中層) | スクレイパー | 5.0 | 3.7 | 0.85 | 9.3 | |
| 202 | SD2-1(上～中層) | 剥片 RF | 3.2 | 4.6 | 0.5 | 17.2 | 折損あり |
| 203 | SD2-1(上～中層) | RF | 3.5 | 3.2 | 0.4 | 6.3 | 二次加工痕あり |
| 204 | SD2-1(上～中層) | 剥片 | 4.1 | 3.9 | 0.8 | 9.2 | 微細剥離痕あり |
| 205 | SD2-1(中層) | 磨製石包丁 | 〔4.4〕 | 〔4.5〕 | 0.8 | 15.7 | 流紋岩 使用痕あり |
| 206 | SD2-1(中層) | 打製石斧 | 6.45 | 5.5 | 2.6 | 107.4 | 使用痕あり |
| 207 | SD2-1(中層) | スクレイパー | 5.4 | 3.8 | 0.55 | 12.8 | |
| 208 | SD2-1(中層) | スクレイパー | 3.9 | 5.3 | 1.0 | 19.8 | |
| 209 | SD2-1(中層) | スクレイパー | 5.75 | 3.45 | 0.85 | 15.9 | |
| 210 | SD2-1(中層) | スクレイパー | 3.7 | 5.85 | 1.45 | 18.3 | 微細剥離痕あり |
| 211 | SD2-1(中層) | 剥片(MF) | 3.25 | 5.6 | 0.6 | 10.5 | 微細剥離痕あり |
| 212 | SD2-1(中層) | 剥片 | 2.95 | 3.45 | 0.6 | 4.8 | 微細剥離痕あり |
| 213 | SD2-1(下層) | 剥片 | 3.7 | 3.9 | 0.45 | 7.5 | 使用痕あり |
| 214 | SD2-1(下～最下層) | スクレイパー | 5.75 | 1.5 | 0.7 | 5.6 | 微細剥離痕あり |
| 215 | SD2-1(下～最下層) | 楔の剥片 | 2.8 | 5.0 | 0.9 | 12.5 | 微細剥離痕あり |
| 216 | SD2-1(下～最下層) | 剥片 | 3.8 | 4.0 | 0.6 | 6.3 | 微細剥離痕あり |
| 217 | SD2-1 | スクレイパー | 7.0 | 4.5 | 1.1 | 22.4 | |
| 218 | SD2-1 | 打製石包丁 | 〔4.5〕 | 4.0 | 1.05 | 19.5 | 背つぶし加工 |
| 219 | SD2-1 | 打製石斧片 | 3.0 | 3.8 | 0.6 | 8.7 | 使用痕あり |
| 220 | SD2-1 | 剥片 | 3.2 | 4.9 | 0.4 | 6.3 | 二次加工痕あり |
| 229 | 第2面上面 | 弥生土器<br>紡錘車 | 4.5×4.7 | — | 0.8 | 19g | 内外面:摩滅 7.5YR6/6 橙 1mm～3mm大の石英・長石を含む |

# 写真図版

# 写真図版 1

1・2区　第1面完掘（南東から）

1・2区　第2面完掘（西から）

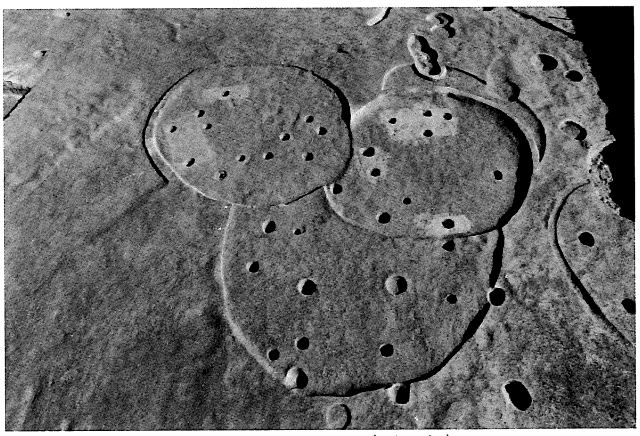
1・2区　第1面完掘（西から）

3区　第2面完掘（東から）

3区　第1面完掘（東から）

3区　第2面完掘（北西から）

1・2区　第2面完掘（南東から）

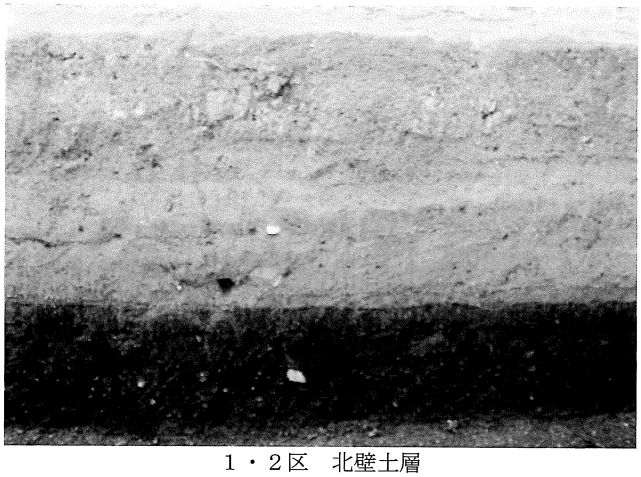


ＳＩ２－１～３　（西から）

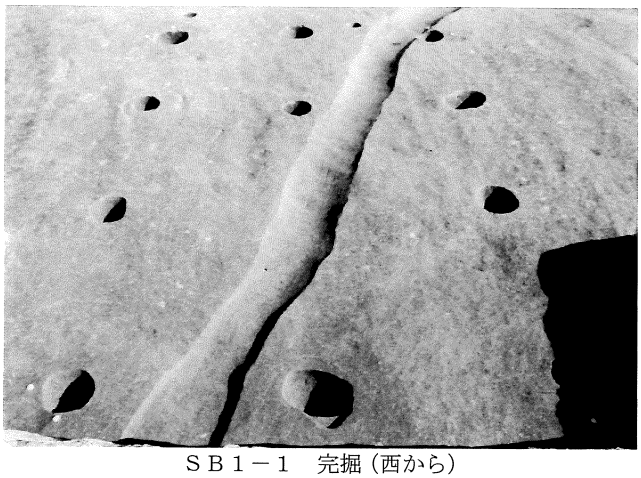
# 写真図版 2

1・2区　北壁土層

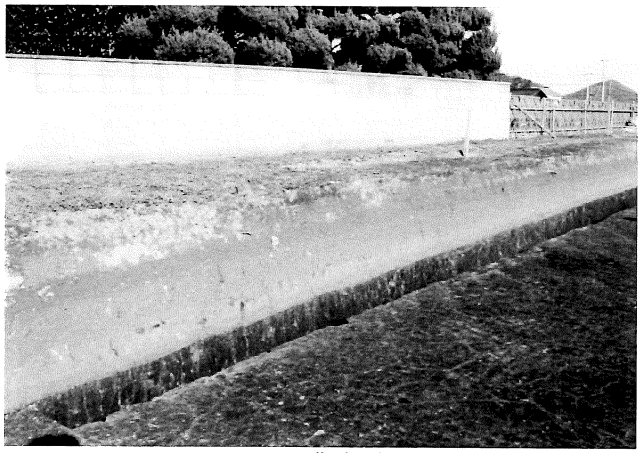
3区　西壁土層



1・2区　北壁土層

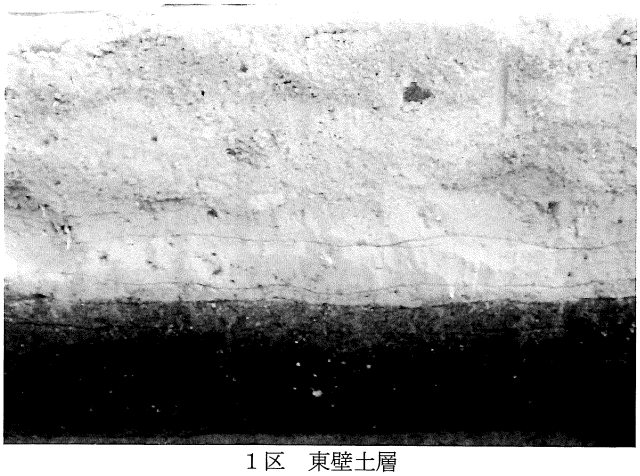


ＳＢ１－１　完掘（西から）

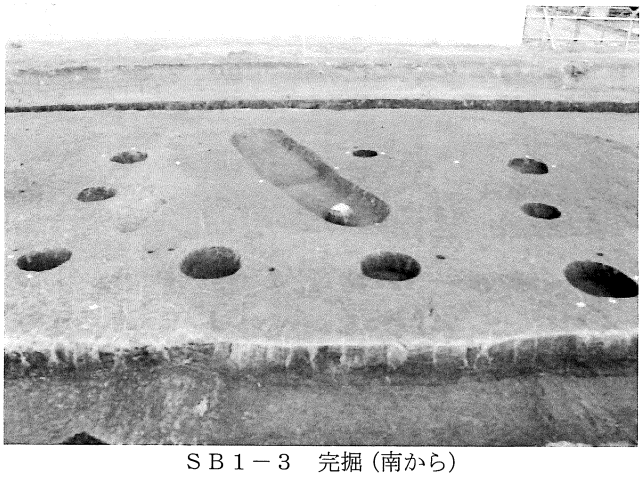


3区　北壁土層

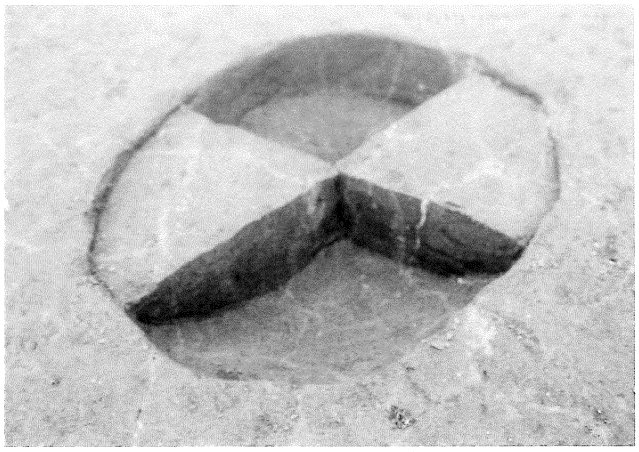
ＳＢ１－２　完掘（南から）



1区　東壁土層

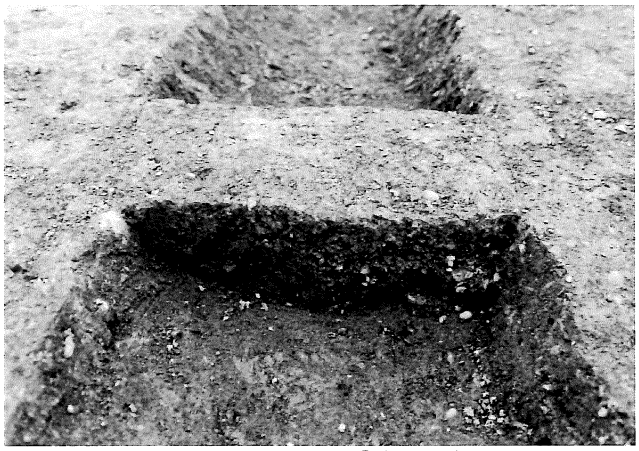


ＳＢ１－３　完掘（南から）



ＳＢ１－３　Ｐ１土層

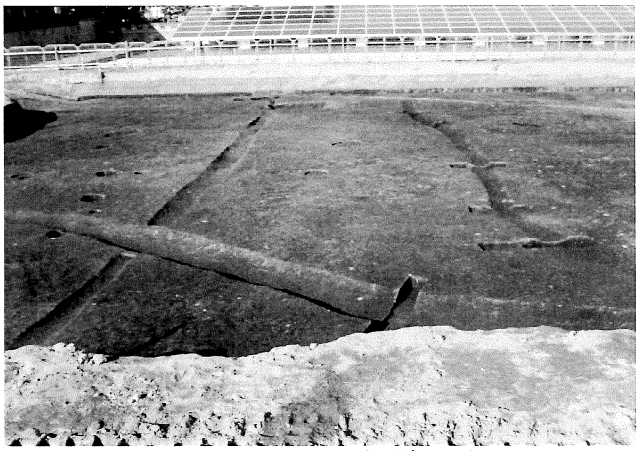
ＳＤ１－１　完掘（南東から）



ＳＤ１－１　土層①（東から）

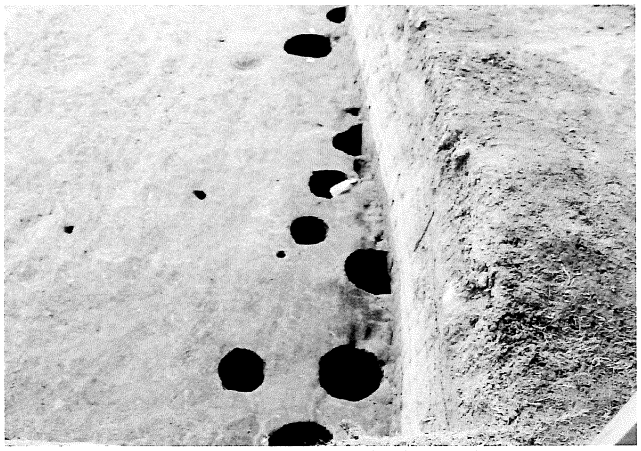
ＳＤ１－３　土層①（東から）

ＳＤ１－１　土層③（東から）



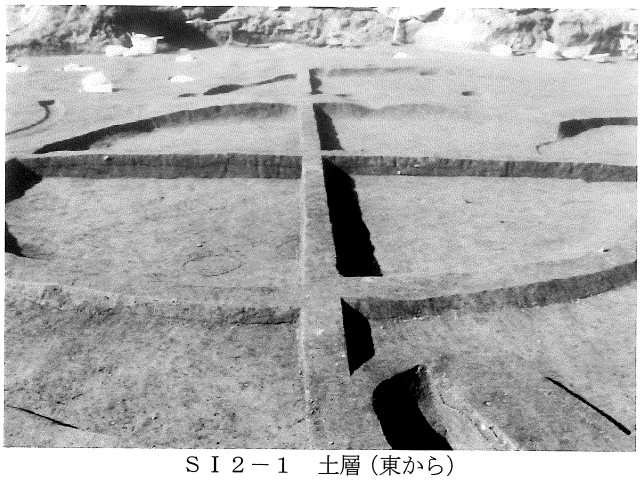
ＳＤ１－２～４　完掘（南から）

ＳＤ１－１　完掘（北西から）



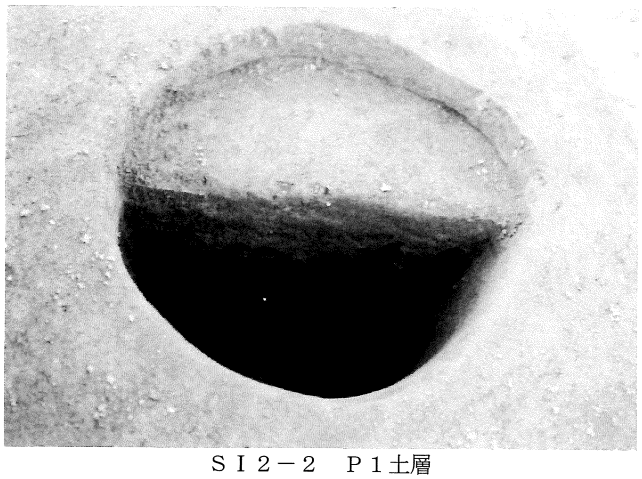
ＳＰ１－22～31　完掘（北から）

# 写真図版 4

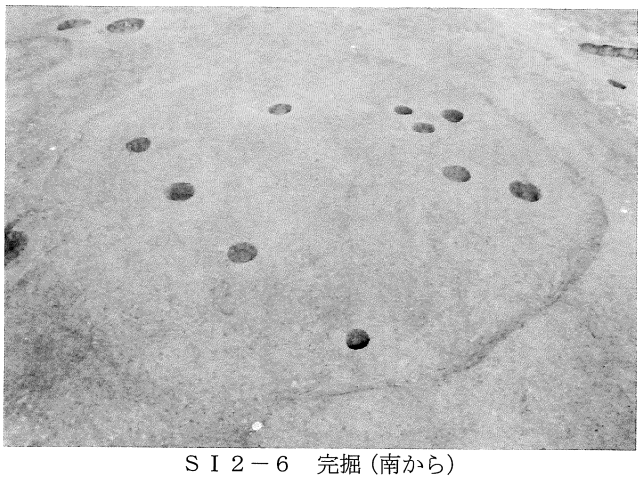


ＳＩ２－１　土層（東から）

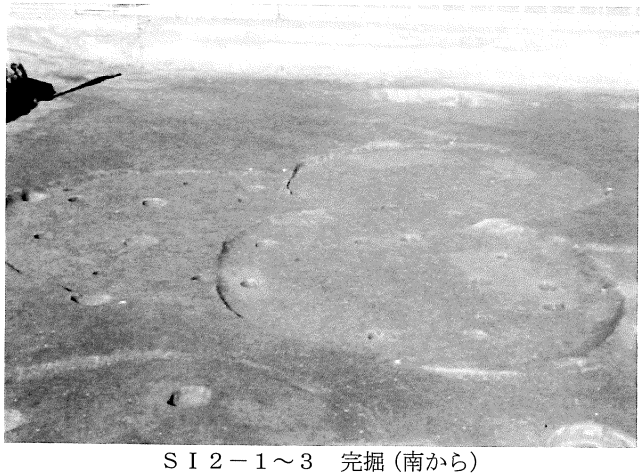
ＳＩ２－５　完掘（南から）



ＳＩ２－２　Ｐ１土層

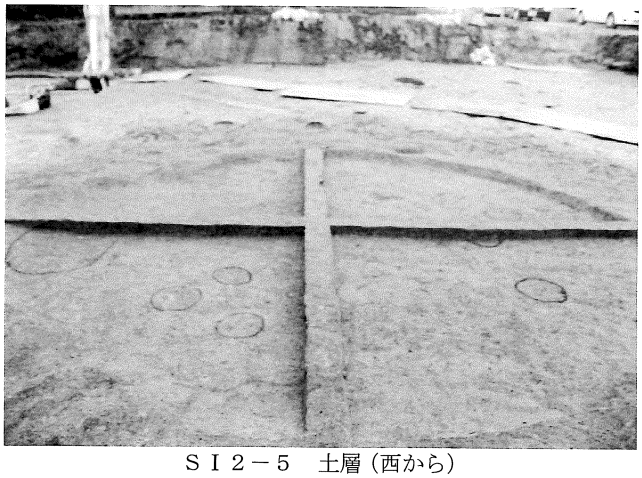


ＳＩ２－６　完掘（南から）

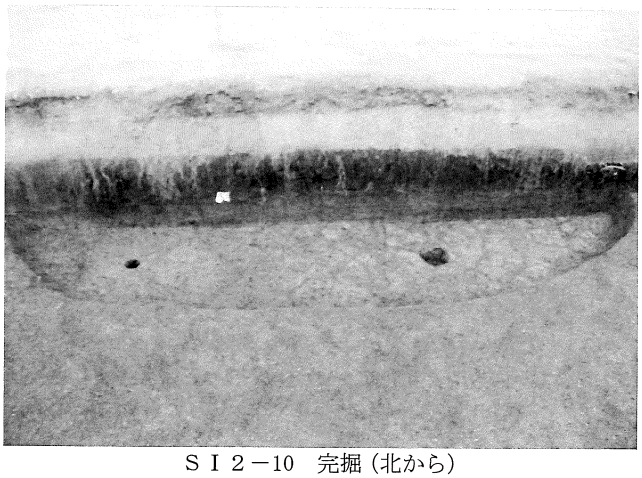


ＳＩ２－１～３　完掘（南から）

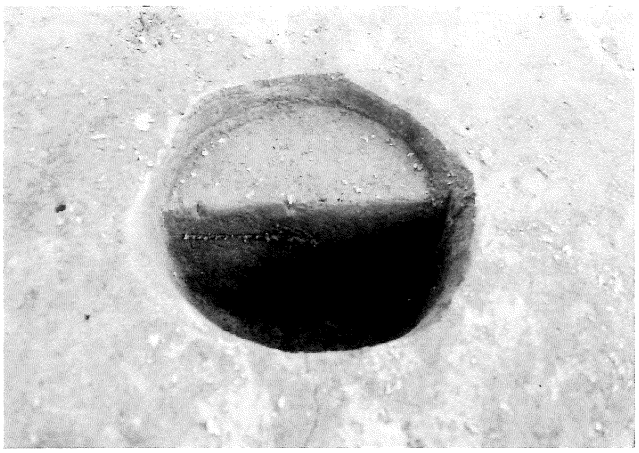
ＳＩ２－８　完掘（南から）



ＳＩ２－５　土層（西から）

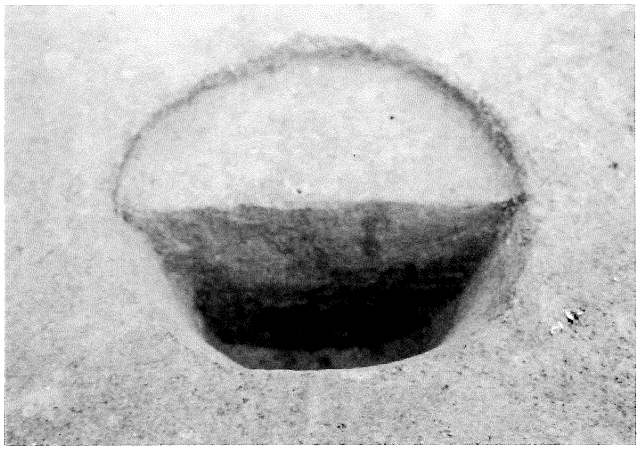


ＳＩ２－10　完掘（北から）



ＳＢ２－１　Ｐ３土層

ＳＢ２－２　完掘（東から）



ＳＢ２－１　Ｐ８土層

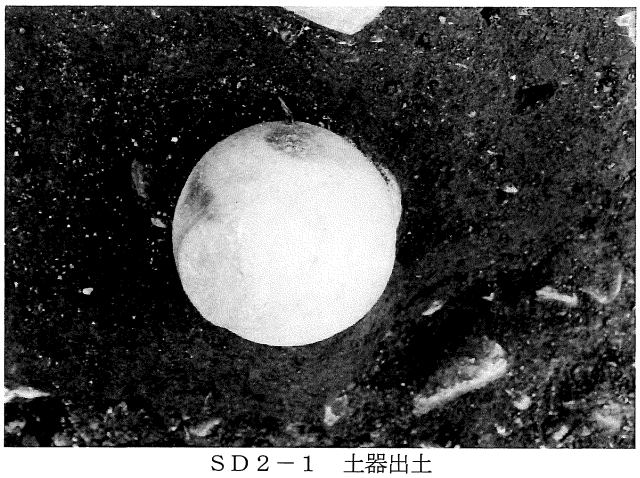
ＳＡ２－２　Ｐ１土層

ＳＢ２－１　完掘（南から）

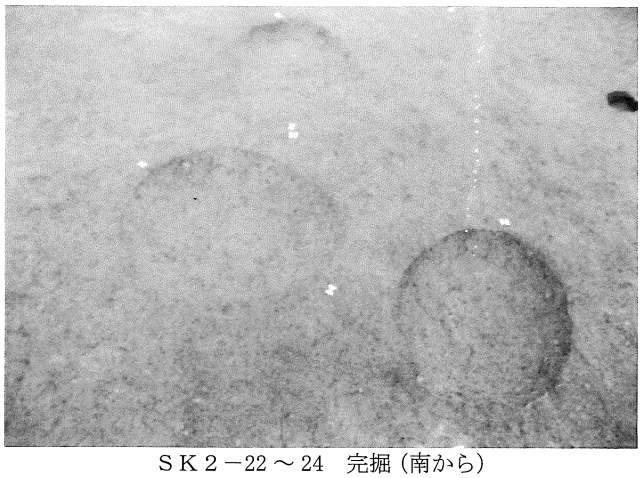
# 写真図版 6

ＳＤ２－１　土層（南から）

ＳＫ２－19　完掘（西から）

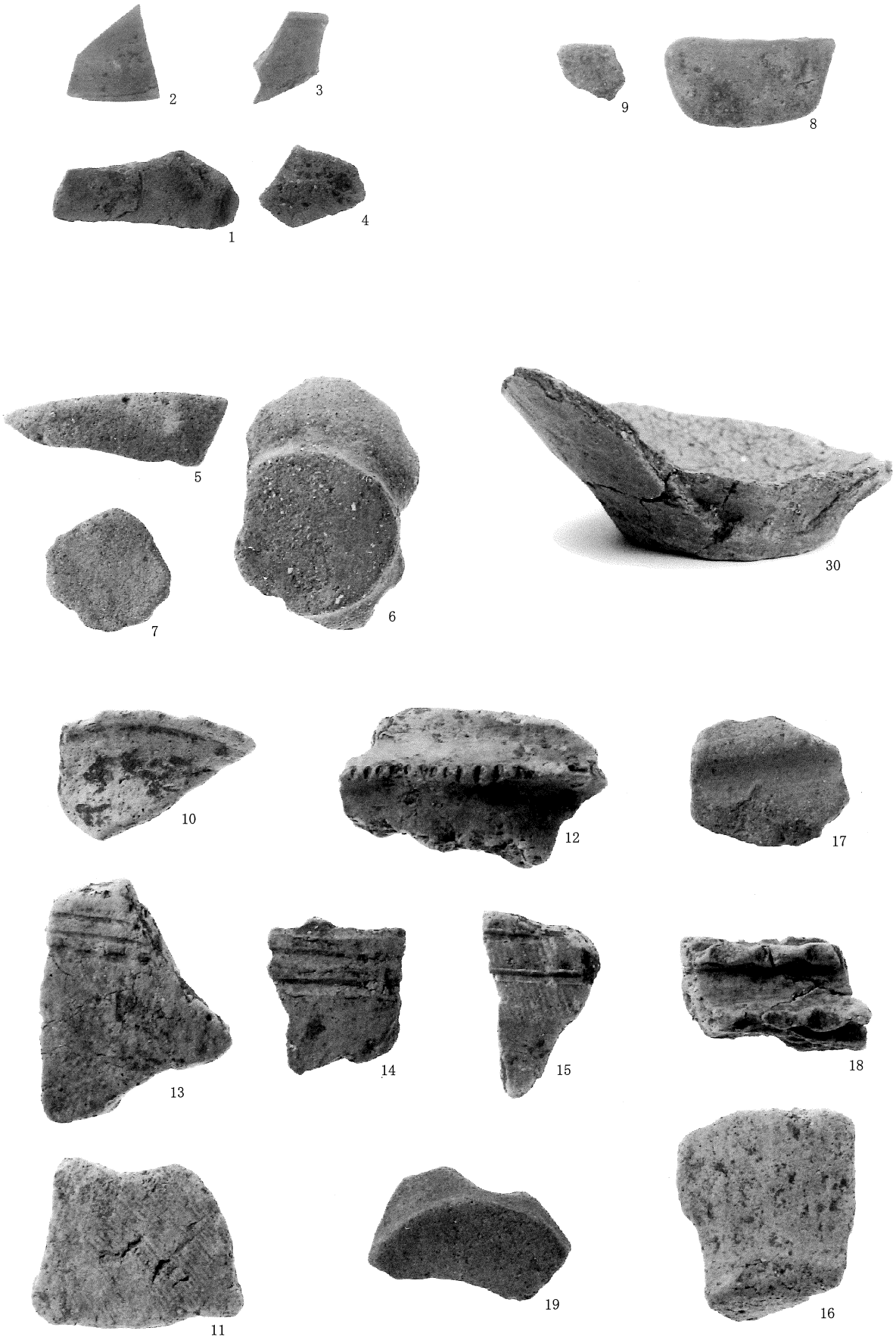


ＳＤ２－１　土器出土



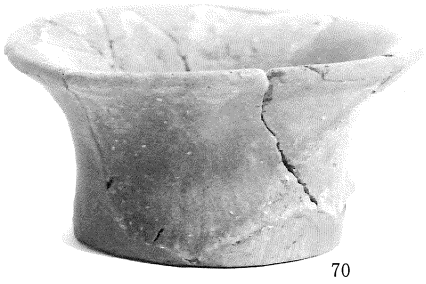
ＳＫ２－22～24　完掘（南から）

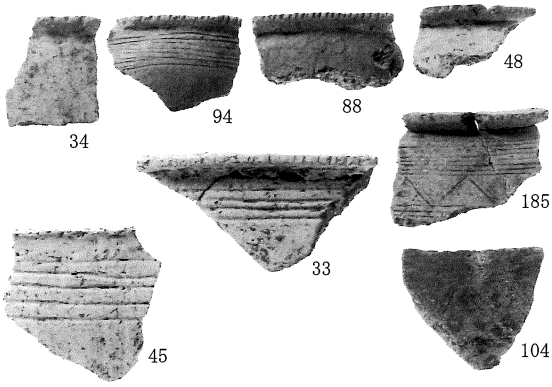
ＳＤ２－１・ＳＡ２－１　完掘（南から）

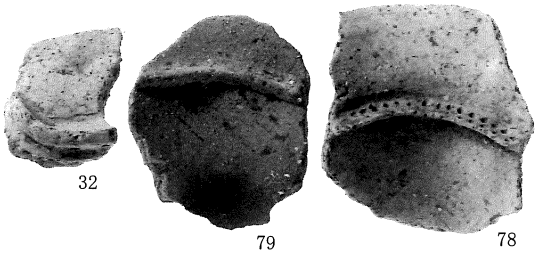


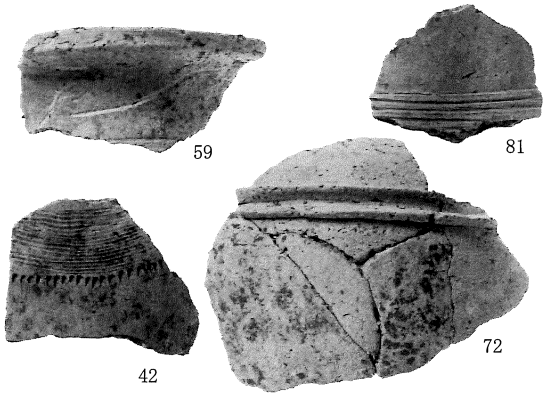

出土遺物（1）

31

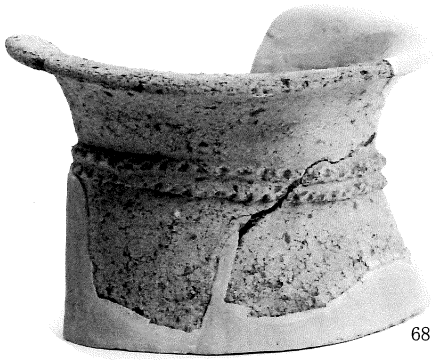

70

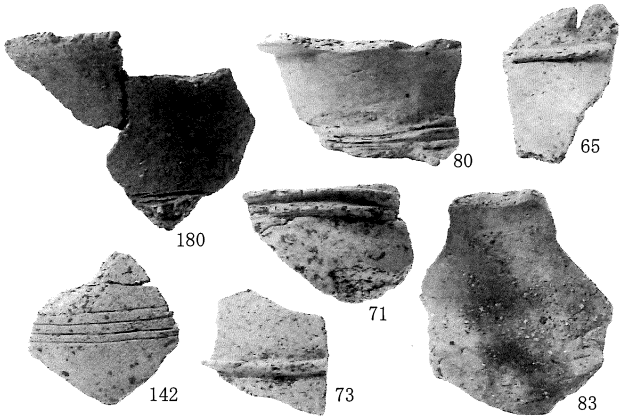


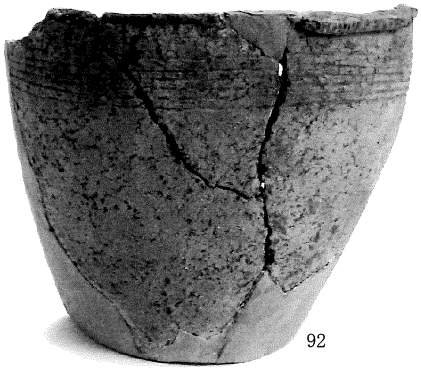
61

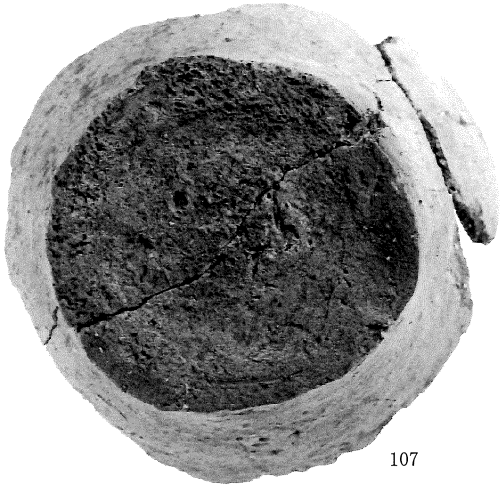

68

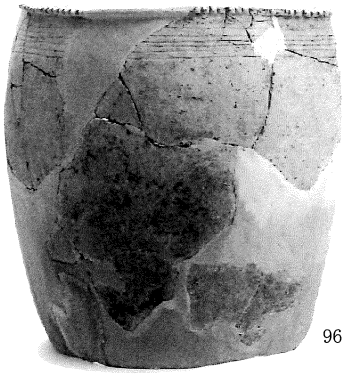


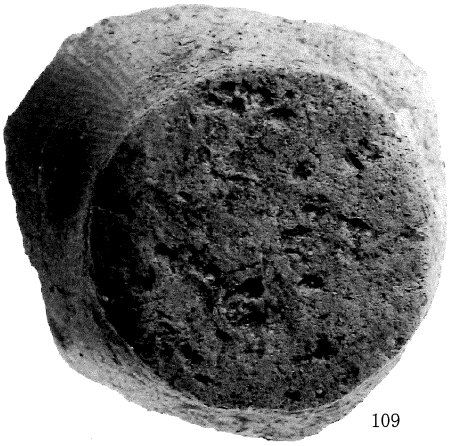

出土遺物（2）

86


92

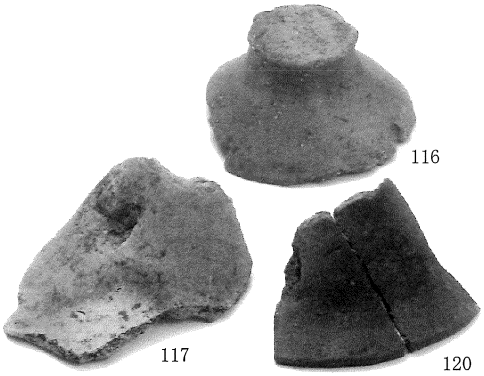

107

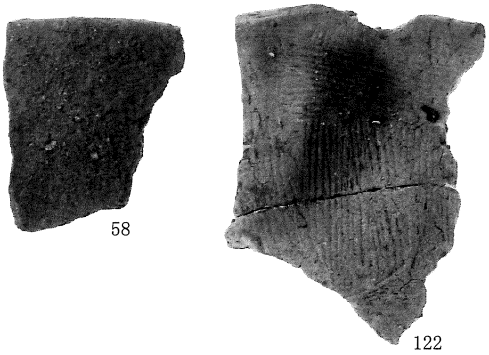

96

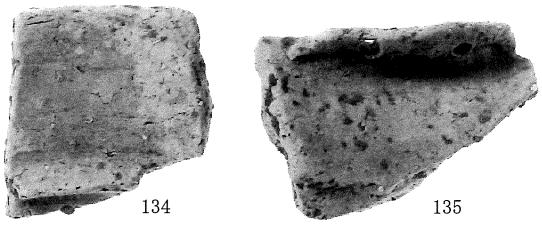

109

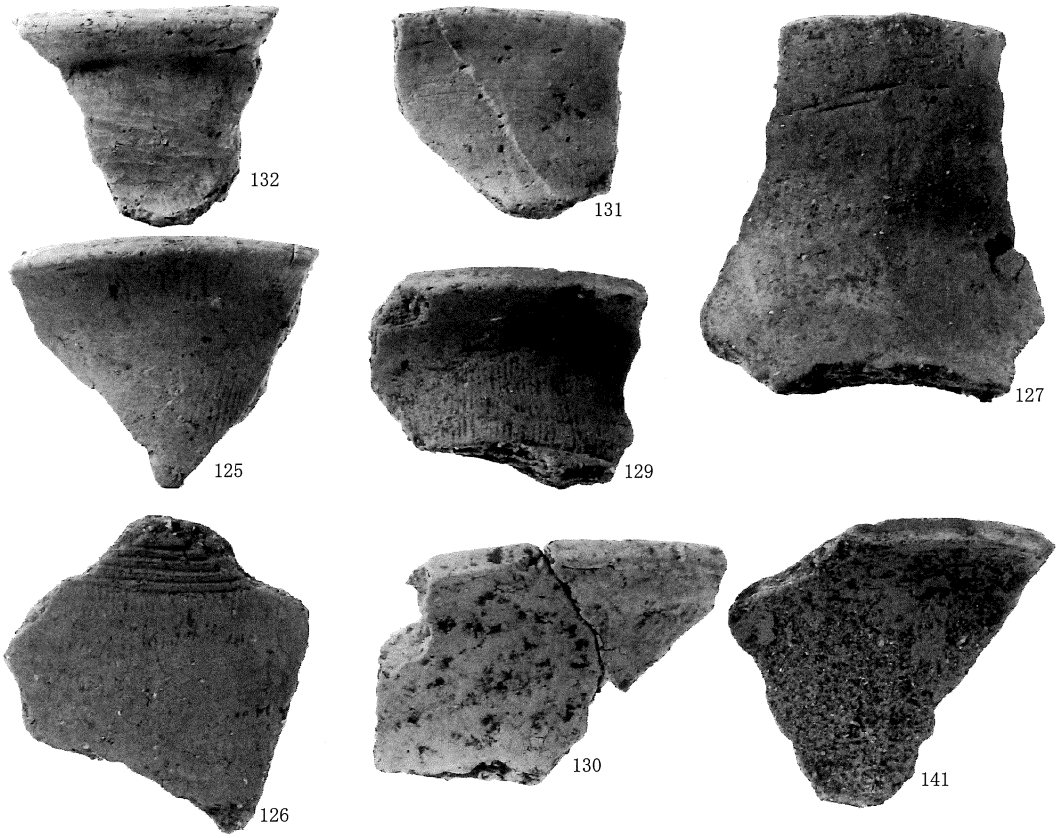
出土遺物（3）

出土遺物（4）

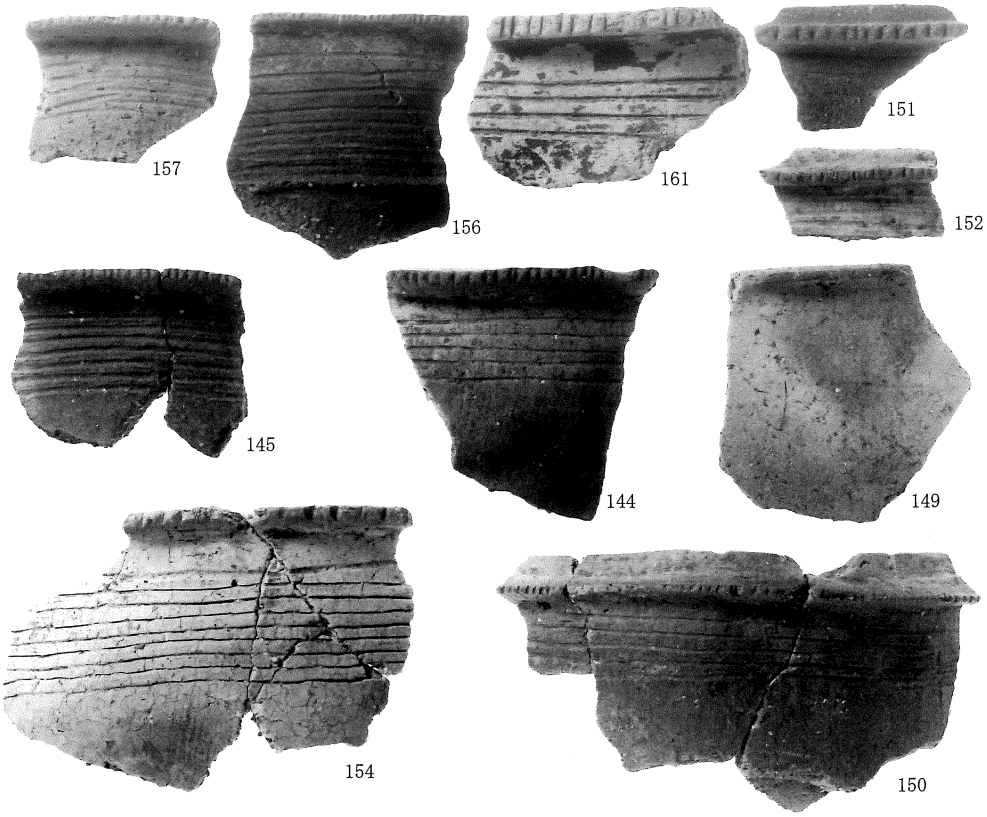


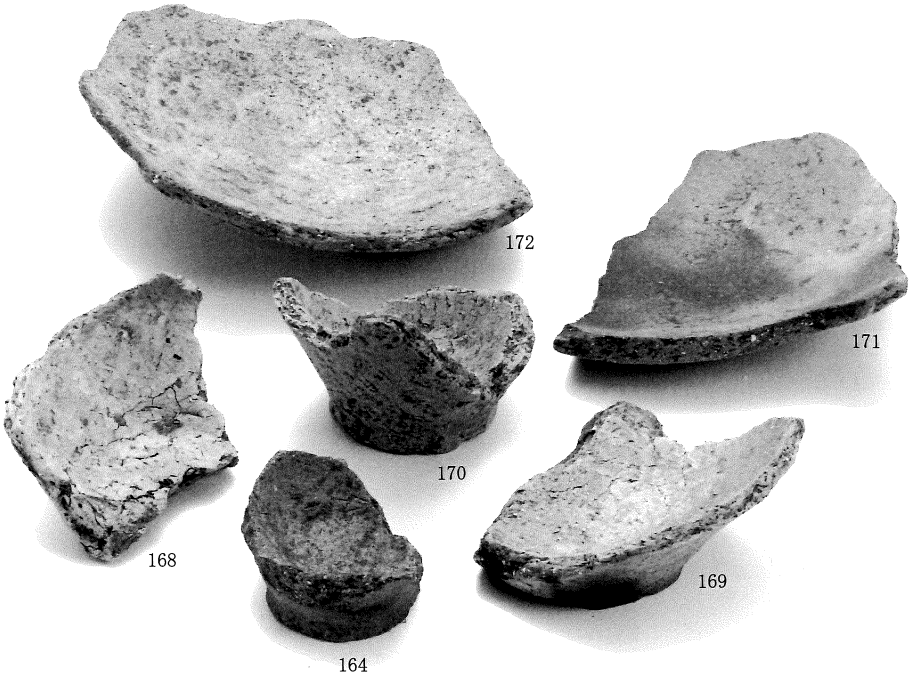



出土遺物（5）

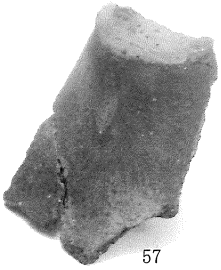


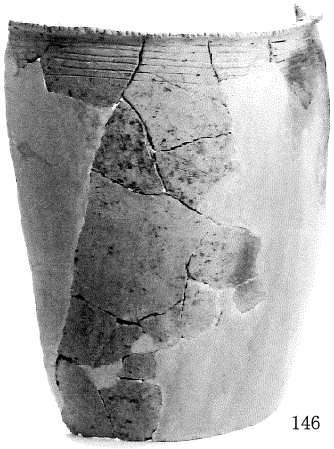



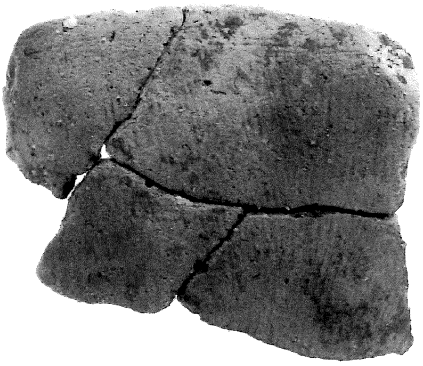

出土遺物（6）

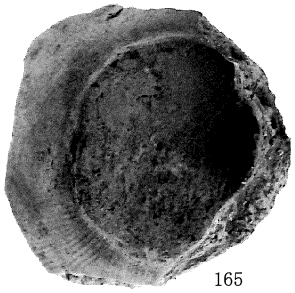
143

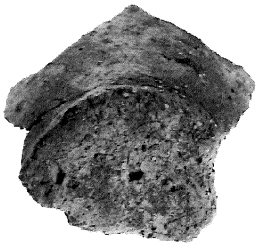
176


57


146


177


165

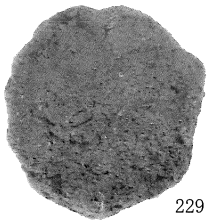

110

186

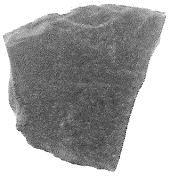
166

187

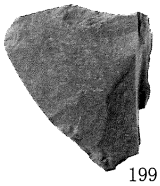
出土遺物（7）

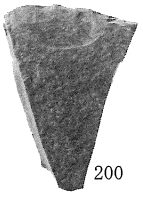

229

205


218

189


199

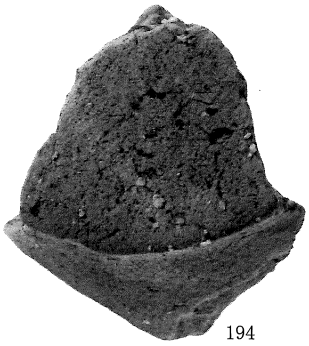

200

215

198

219

206


194

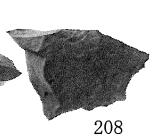
214

213

201

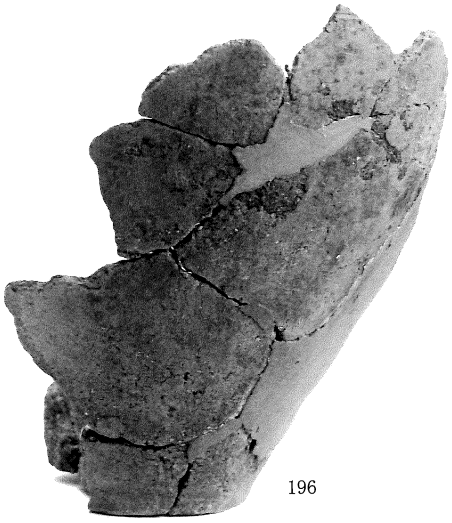
209

210


208

207

217


196

212

204

202

203

216

211

220

出土遺物（8）

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | きたぐちいせき |
| 書名 | 北口遺跡 |
| 副書名 | 大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 高松市埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第175集 |
| 編著者名 | 中西　克也 |
| 編集機関 | 高松市教育委員会 |
| 所在地 | 〒760－8571　香川県高松市番町一丁目8番15号　TEL087－839－2660 |
| 発行年月日 | 西暦2017年3月21日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 発掘期間 | 発掘<br>面積 | 発掘<br>原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| きたぐちいせき<br>北口遺跡 | かがわけん<br>香川県<br>たかまつし<br>高松市<br>かがわちょう<br>香川町<br>おおの<br>大野 | 37201 | | 34°<br>16′<br>4″ | 134°<br>1′<br>39″ | 2014.10.29<br>～<br>2015.2.12 | 1,632㎡ | 保育所建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | おもな時代 | おもな遺構 | おもな遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 北口遺跡 | 集落 | 弥生時代<br><br>古代<br><br>近世 | 竪穴建物状遺構<br>掘立柱建物<br>柵列<br>溝<br>掘立柱建物<br>溝<br>土坑<br>稲架 | 弥生土器<br>石製品<br>土師器<br>須恵器<br>土師質土器 | 柵列を伴う環濠 |

| | |
|---|---|
| 要約 | 本遺跡は、安定した微高地であり、遺構面が2面確認され、第1面では弥生時代後期～近世に至る遺構、第2面では弥生時代前期末の遺構を検出した。弥生時代前期末の遺構は、竪穴建物状遺構、掘立柱建物、溝、柵列、土坑等である。ＳＤ２－１は規模と柵列を伴うことから環濠と考えられ、環濠集落の可能性が高い。弥生時代後期と古代では掘立柱建物、溝を検出した。 |

大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書

北口遺跡

平成29年3月21日

編集・発行　高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号
印　　刷　藤田印刷株式会社
高松市北浜町4番5号